

◆文部科学省 令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業

◆令和4年度山元町障害者地域生活支援体制事業

やまもと こぐまサロン

山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト2



©牧 稔・日下真由美

成果報告書

(令和4年6月～令和5年3月)

特定非営利活動法人ポラリス

◆目次

- P3～ 1 実施に係る全体像
(1) 実施体制
(2) 事業全体を通じた目標
(3) 目標の他姓状況
- P5～ 2 文部科学省×山元町 生涯学習×地域づくりプログラム
(1) 文部科学省「障害者の生涯学習」実践研究プログラム
(2) 山元町「地域づくり」プログラム
- P9～ 3 ユニバーサルな学びの場
- P40～ 4 スローバ文庫&読書会
- P73～ 5 親カフェ
- P74～ 6 成果報告会 (ICTを活用した成果発表)
- P78～ 7 アンケート
- P81～ 8 量的・質的な評価
- P85～ 9 連携協議会
- P92～ 10 イベントでの活動紹介
(1) 日本社会教育学会プロジェクト研究
(2) 超福祉の学校2022@SHIBUYA
- P95～ ☆ 令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣奨励賞受賞
- P97～ ☆ 「広報やまもと」広報協力

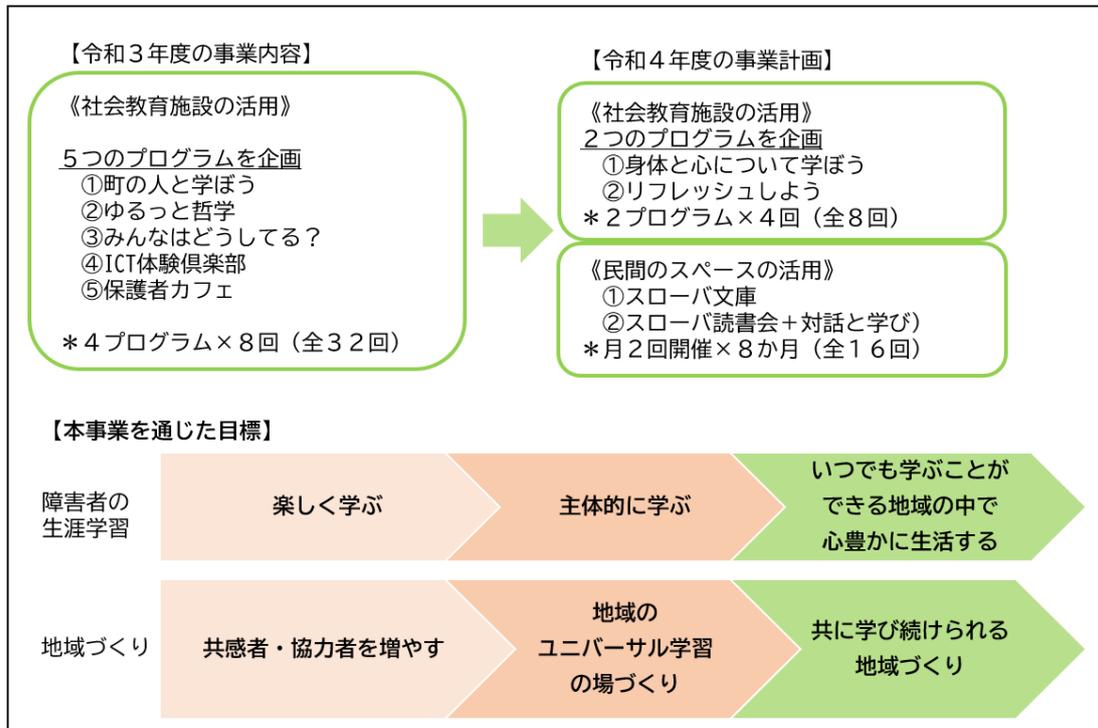


1 実施に係る全体像

(1) 実施体制



(2) 事業全体を通じた目標



(3) 目標の達成状況

①当事者のエンパワメントにつなげるためにより主体的に学べる環境を整備する。

地域の中に学びのスペース「ひろばポラリス」をつくり、障害者が少人数で気軽に楽しく学び合えることができる環境を提供し、学びたい気持ちを育てていく。



地域に生まれたフリースペース「ひろばポラリス」を拠点として「スローバ文庫&読書会」を毎月2回定期開催した。人数や周囲の環境に応じて、別室からのリモート参加も可能とした結果、少人数で安心して学びに参加できる環境をつくることができた。

支援学校と連携し在学中の生徒と保護者に生涯学習の場に参加する機会をつくりながら、学校卒業後も楽しく学び続けることができる意識や環境を整備する。



昨年に引き続き、宮城県立山元支援学校が連携協議会メンバーとして参画された。学校との定期的な情報交換を続ける中で、山元町事業として開催したプログラムに、PTA行事として保護者が初めて参加された。また、来年度の企画について学校側から提案を受けるなど、在学中～学卒後の学びの環境整備について、支援学校との連携を強化することができた。

障害者が各々のニーズに合わせたICTの活用法を学ぶことができる環境を整備する。



申込みにおいてQRコードを取り入れた。障害者が自身のスマートフォンを用い、初めてQRコードから参加申込みの体験をすることができた。



成果報告会においては、障害者がそれぞれの表現方法で発表内容を企画。その中で、音楽や動画、スライド資料などの必要なコンテンツを、専門講師の協力を得て作成・活用することができた。

②障害者の生涯学習の実践を進めながら、共に学び続けられる地域づくりを目指す。

社会教育施設を活用して、地域のユニバーサル学習プログラムを開発し、普及・定着させる。



従来利用してきた町の社会教育施設「ひだまりホール」に加え、新たに「ふるさとおもだか館」を活用。プログラムを継続開催する中で、障害者にとっても日常的に利用しやすい場として定着してきた。

様々な人を巻き込み、障害者の生涯学習の担い手やサポーターを増やす。



講師または参加者として、地域内の立場や業界を超えた様々な人が参加され、学びの場が出会いの場となった。行政区長や町内の福祉関係機関、一般市民の参加も増加した。

教育（文部科学省：「障害者の生涯学習推進」プログラム）と福祉（山元町：「障害福祉に関する地域啓発・地域づくり」）が連携しながらその相乗効果を図り、山元町のこれからの障害者の生涯学習を持続可能な形で進める方法について検討していく。



町内の生涯学習施設で活動している運動サークルに、当事者グループが参加できるようになるなど、当事者が町のこれまでの生涯学習プログラムに気軽に参加できる環境が整ってきた。

③新型コロナウイルス感染症予防を徹底しながら、学びの場を継続していくためのオンラインの活用、ICT活用による学びの場づくりを、専門講師の協力を得て実施可能にする。



参加者全員が安心して学びに参加できるよう、講師や会場の協力を得ながら、感染状況に応じて一部内容を変更しながらプログラムを継続することができた。また専門講師の協力の元、毎回のプログラムを短編映像にまとめ、You tubeにアップロードし、いつでも・どこでも学びにアクセスできる環境づくりを行った。

2 文部科学省×山元町 生涯学習×地域づくりプログラム

本年度は、文部科学省の「障害者の生涯学習推進」プログラムと山元町の「障害福祉に関する地域啓発・地域づくり」プログラムを毎月交互に実施することで、生涯学習と福祉教育の相乗効果を図り、本事業終了後、山元町としてどのような形で障害者の生涯学習を継続していくことが可能かについても町の福祉と教育の担当者をはじめとした連携協議会で話し合っていく。

文科省事業（障害者の生涯学習）

山元町事業（障害者地域生活支援体制整備）

①ユニバーサル学習

- からだ（NPO法人虹色たんぽぽ：助産師）
- 音楽（どらごえサークル）
- 民俗芸能
（花釜音頭保存会・坂元おけさ保存会）
- こころ（鳳仙寺住職）



ひだまりホール
（社会教育施設）

リフレッシュタイム

③権利擁護・差別解消

- 地域共生社会
（東北福祉大学森明人先生）
- 災害時対応（山元町総務課）
- 虐待について考えよう（基幹センター）
- 「きょうだい」について（映画上映）

ICT体験倶楽部

②スローバックス読書会

- 6月～1月（全16回）
- スローバ文庫
 - 読書会＋対話と学び

当事者/スローバックス/就労Bスタッフ



ひろばポラリス

④保護者等カフェ

6月～3月（全5回）

保護者/相談支援専門員/傾聴ボランティア

◆会場



山元町防災拠点・山下地域交流センター （つばめの杜ひだまりホール）

山元町つばめの杜一丁目8番地

- 会議室5
- リハーサル室
- 会議室7

ひろばポラリス

山元町高瀬字合戦原72-35

- 多目的ルーム



山元町防災拠点・坂元地域交流センター （ふるさとおもだか館）

山元町坂元字町東1番地60

- 防災研修室
- 和室
- 会議室5

(1)文部科学省「障害者の生涯学習」実践研究

令和4年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
(1) 地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究
(イ) 地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進
「山元こぐまサロン」を活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト2」

ユニバーサル学習：こころ・からだ（全4回）

町の社会教育施設を活用し、障害の有無にかかわらず誰もが楽しく学ぶことができるプログラムを開発する。生活・人生に密着した「こころとからだ」をテーマにしたプログラムとし、世代や立場も異なる多彩な専門家の方々に講師をお願いしプログラムを共創する。

からだを健やかに～うんこの保健室～

令和4年6月30日（木）10:00～11:45 @ひだまりホール

（講師）NPO法人虹色たんぽぽ 代表嶋原さとこさん

東日本大震災後に設立したNPOであり、地域の助産師・保健師・看護師らによるコミュニティナース活動を地域で展開している。今回は「うんこの保健室」というテーマで学びの場を企画実践する。

（内容）助産師であり、コミュニティナースとしても活動される講師らとともに、うんこ（排便）の話をタブーにせず、皆で明るく楽しく学ぶことを大目標とし、絵本や体操も交えながら、排便を通じて自分の体に向き合う機会とした。

うたとからだとひだまりのワークショップ

令和4年8月25日（木）9:45～11:45 @ひだまりホール

（講師）浅川光喜さん（山元町防災拠点・山下地域交流センター「ひだまりホール」館長）

（内容）本事業を通じて当事者へ定着してきたひだまりホールを活用し、体を動かしたり、歌を歌ったり、楽しみながら自由に表現活動を行った。また、普段は触れることのない防災センターとしてのひだまりホールの機能や、利用のマナーを学んだ

※当初予定していた「踊りのワークショップ」（地域に伝統的に伝わる盆踊りや民謡を学び、楽しむ）は、町内の感染状況を鑑み、講師陣が高齢であることも踏まえ、急遽中止とした。代替のプログラムも一般告知はせず、当事者・保護者のみのクローズド開催とした。

こころをおだやかに～おしょうさんのトーク&ライブ～

令和4年10月13日（木）10:00～11:45 @ひだまりホール

（講師）鳳仙寺 住職 内山太史さん、ほか2名（演奏協力者）

（内容）山元町出身の、多彩な才能をもつ住職に、生きづらさを抱えている人たちの心を健やかにするトークと音楽）ライブを行った。「今を生きる」ことについて、仏教観や座禅、音楽演奏を織り交ぜながら、皆で学びあった。

【特別編】茶室のことを知って、皆に話せるようになろう

令和4年12月3日 13:30~15:30 @徳本寺

(講師) 清水ますみさん(山元いっ茶組)、小濱昭博さん(劇団俳優)

(内容) 山元町に残る貴重な文化財である茶室が、2024年に再建されることが決定したことをうけ、茶室の価値を改めて学ぶ機会とした。昨年度のユニバーサル学習でも取り上げた「デジタル紙芝居」を再度上映したり、劇団俳優による寸劇やクイズを取り入れながら、地域の皆で楽しく学ぶ機会とした。

音楽を楽しみ学ぶ～うたとお話で学ぼう平和のこと～

令和4年12月15日(木) 10:00~11:50 @ふるさとおもだか館

(講師) 宮城白萩の会/どらごえサークル

(内容) 宮城県の学校を退職した女性教職員による「宮城白萩の会」の語り部と歌のプログラムと、山元町内にて、歌を通して平和の大切さを発信している「どらごえサークル」の歌と踊りのプログラムの二本立てで、戦争や平和について学ぶ機会とした。

リフレッシュコーナー

個性や興味の多様性に合わせて、ユニバーサルな学びの場を目指していくが、一部疲れてしまったり、興味がない内容である場合、各々の取り組みたいことや自分に合った生涯学習のあり方を話し合っ取り組む場をつくった。

(内容) 休憩、アート活動など

(担当) 相談支援専門員/就労Bスタッフ



ICT体験倶楽部

(講師) 夢デザイン総合研究所 取締役 田所信幸さん

(内容) 各プログラムの様子を動画や写真で記録し、編集。1年間の活動の振り返りとなる成果発表会において、ICTを取り入れた当事者発表を行った。障害者が自分の興味度に合わせICTの使い方を学ぶことができる環境を整備し、成果発表・報告会でICTを活用しながら、その人のスキルに合わせて自由に発表することを試み、その成果を検証した。

※当初、プログラム当日の撮影や編集作業を希望者で行う予定であったが、当事者のなかで動画や写真の撮影、編集作業に対する学びのニーズが少なかったため、プログラム毎の記録はスタッフが行った。また、YouTubeにアップするための短編動画編集作業は、講師に依頼した。

(2)山元町地域づくりのプログラム

令和4年度山元町障害者地域生活支援体制事業
地域啓発のための活動（権利擁護・差別解消を普及する活動）

学校卒業後の障害者、特に町内の就労継続支援B型事業所ポラリスに所属する当事者ら（主に知的・発達・精神障害の方）が行政・NPO・地域の協力者との企画・実践に参加（共創）しながら、障害のある人たちが地域の中で心豊かに生活できること、また障害のある人となない人が共に学び合うことができる地域づくり、さらに宮城県山元町での障害者の生涯学習が持続可能であるためのプログラムの開発に取り組む。

ユニバーサル学習：社会・生活（全4回）

「地域共生社会」って、なんだろう？

令和4年7月14日（木）10:00～11:30 @つばめの杜ひだまりホール

みんなで支え合いながら、一人ひとりがハッピーに暮らせる方法は、どんなだろう？
森先生と一緒に考えてみました。

【講師】森明人さん（東北福祉大学准教授）

知って役立つ「防災」のこと

令和4年9月15日（木）10:00～11:30 @つばめの杜ひだまりホール

ハザードマップを見ながら、防災について、みんなで考えるワークショップを開きました。
もしもの時の備えについても、役場の方から教えてもらいました。

【講師】山元町総務課

きょうだいについて考える ～映画「僕とオトウト」上映会

令和4年11月17日（木）10:00～11:30 @ふるさとおもだか館

6歳違いの弟は、やんちゃで大変、そしてめっちゃ可愛い！けど… 障害を持つ弟をテーマに兄が作った映画から、兄弟それぞれの幸せについて考えました。

【協力】映画「僕とオトウト」上映委員会

虐待が起きない地域をつくろう

令和5年1月19日（木）10:00～11:30 @つばめの杜ひだまりホール

虐待ってなに？どんなときに起きてしまうのだろう？介護福祉の先生と一緒に、虐待の起きないまちづくりを学び合いました。。

【講師】阿部和宏さん（アベカンパニー代表）

高齢者施設介護、居宅介護で13年従事した後、仙台医療福祉専門学校介護福祉士養成課程専任教員5年、聖和学園短期大学介護福祉士養成課程専任教員9年教壇に立ち専門職育成に携わる。山元町出身で、山元町の地域性やこれからの地域福祉の課題についても理解されている。現在は起業され、一般乗用旅客自動車運送事業（福祉輸送限定）、有料介助事業（身体介護、生活援助、院内介助など）、講師派遣（研修）事業を開始し、高齢者や障害者福祉、地域福祉の向上に励んでいる。元宮城県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員。福祉の専門家として「虐待防止」の学びの場を共創してもらう。

小泉大輔さん（山元町社会福祉協議会 主任相談支援専門員）

3 ユニバーサルな学びの場

①からだを健やかに～うんこの保健室～

日時：令和4年6月30日（木）10:00～11:45

場所：ひだまりホール3階 会議室5

講師：嶋原さと子さん・阿部久美子さん（NPO法人虹色たんぽぽ）

【概要】

テーマ	からだを健やかに～うんこの保健室～
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・うんこ（排便）の話タブーにせず、皆で明るく楽しく学ぶこと。 ・排泄を通じて、自分のからだに向き合う機会とする。 ・本プログラムでの学びを各自、自宅でも継続できるように、ワークシートに取り組む。
プログラム実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・講師自己紹介（コミュニティナースって？P00マスターって？） ・「うんこに良いこと」のおはなし ・紙芝居「うんちはどこにいる？」 —休憩— ・うんこ体操を一緒に踊ろう～「パプリカ」にのせて ・うんちカレンダーをつけてみよう ・アンケート記入、感想の発表 <p>*配布資料*</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うんこ日記・うんち力アップ大作戦
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局との事前ミーティングを行い、ワークショップ形式で参加者が実行できる資料を準備することにした。 ・見て、触って体感できるからだの模型を会場に準備すること。 ・座って話を聞き続けるだけでなく、うんちポーズなど、参加者もその場でからだを動かして実践できる場が設けられた ・クイズを交えて参加者も楽しく講義に参加できるような工夫がされた ・うんこに良い地域の食材を参加者と考え合った
【成果】	



【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者16名・保護者8名・地域住民3名・民生委員9名 ・講師2名・関係機関2名・スタッフ7名</p> <p style="text-align: right;">合計47名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・当事者は話を聞くだけでなく、シートの取り組みや、ダンス、ポーズなどにも積極的に参加していた。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者16名全員が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、サロン終了後のアンケート集計に参加した。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・ねばねば食材や発酵食品などの講師の問いかけに、当事者が自由に発言していた。 ・プログラム終了後、5名が感想などを発表した。 「楽しかった。」（50代女性） 「先生のおはなしはわかりやすかったです。」（30代女性） （講師にマッサージしてもらって）「案外、良かった」（60代男性） 「難しくて、全部はわからなかったけど、幸せの「あいうえお」が印象的だった。」（30代男性） 「バナナうんちが良いですね、自分は水っぽいです。」（70代男性）</p>
<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>①講師2名が企画運営に参加された（以下、講師より） ・とっても楽しく開催できた。 ・参加者はどんな人なんだろう？どれくらいの理解度？と心配していたが、皆ノリよく踊って笑ってくれて、マイクを向けられても恥ずかしがらずに発表できることに驚いた。 ・「障害者」と言われなければわからない、皆が対等な雰囲気できていた。 ・地域の方の参加者が多いことに驚いた。 ・専門分野（障害福祉）だけやっていたはダメ、というポラリスの目指すところに共感する。今後も協力していきたい。</p> <p>②民生委員9名が参加された。 ・昨年に引き続き、継続参加いただける関係性ができた。プログラム内容だけでなく、アート作品へも励ましや共感の声をいただいた。</p> <p>③地域より、一般の初参加者が2名。 ・うんこに困り事があって、話が聞いてみたかったの。 （男性） ・チラシをみて、どんな場なのか興味があって。講師とのつながりもあったので、今回初めて参加しました。 （女性）</p>
<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <p>① アンケート結果 「わかった」28名 「こまった」0名 「難しかった」0名 「びっくり」5名 「ぶんぶん」0名 ＊参加者からは「分かりやすかった」「楽しかった」「笑った」の感想が複数聞かれた。 ＊うんこのポーズ、体操や食事／食材の話題も好評だった。 ＊「ロダンのポーズ」、「バナナうんち」など、分かりやすいフレーズが参加者によくインプットされたよう。 ＊講師からは、「楽しそうに笑ってもらえて嬉しかった」との感想。 ＊赤ちゃん連れの一般参加者もいた。</p>

② 「地域共生社会って何だろう？」

日時：令和4年7月14日（木）10:00～11:45

場所：ひだまりホール 会議室5

講師：森 明人さん（東北福祉大学 総合マネジメント学部 准教授）

【概要】

テーマ	「地域共生社会」って、なんだろう？
目的・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域共生社会」という昨今の地域福祉で話題となるテーマについて、大学の先生からわかりやすく学ぶ。 ・グループワークを通じて、世代や立場をこえて、地域内の当事者や保護者、関係機関や町民が集い、お互いに知り合うきっかけとする。 ・当事者の地域での実際の暮らしの様子を、町民や関係機関の皆さんに触れていただく機会とする。
プログラム実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・司会自己紹介、講師紹介 ・「地域共生社会」のおはなし（講師） —休憩— ・「つながるつながるワークショップ」グループワーク 8～9名のグループを7グループ作り、立場を超えて学び合った。 <ol style="list-style-type: none"> ①自己紹介 ②最近心配なこと、気になること アイディア出しと話し合い ③グループ毎発表 ・まとめ（講師） ・アンケート記入、感想の発表 ・次回予告等
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・町社協や地域包括支援センター、相談支援事業所などの関係機関、また町内の行政区長会長、民生委員会会長など、地域のなかで役割を持つ町民に対し個別にプログラムの趣旨と参加の呼びかけを行った。 ・プログラムのなかで、当事者や保護者と地域住民、関係機関や一般参加者がグループワークを行う初の試み。 ・グループワークに不慣れな当事者でも安心して参加できるように、当事者（障害者）は事前に「自己紹介カード」を作成。当日のワークの際の発表の素材とした。 ・当事者のアート作品を一人一品持ち寄り、普段のアート活動について参加者に紹介した。 ・グループワークのファシリテーターは、ポラリススタッフのほか、町内の他事業所に勤める相談支援専門員が担当。 ・講師のゼミ生（大学生）が司会者となる初の試み。



【成果】

<p>◆楽しく学 ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者15名・保護者7名・地域住民5名・民生委員9名・行政区長、役員7名 ・町内関係機関11名・視察者（仙台市生涯学習担当職員）3名・講師1名 ・大学生3名・山元町保健福祉課2名・スタッフ7名 ※うち3名の当事者はリハーサル室のリフレッシュコーナーを利用</p> <p style="text-align: right;">合計70名参加</p>
<p>◆当事者が 主体的に学 ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・当事者14名が事前に「自己紹介カード」を作成。その中で自分の困りごとをグループワークの中で発表することで、地域の方々へ当事者の実生活における問題点を話題提供した。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者15名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、サロン終了後のアンケート集計に参加した。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・当事者13名が、グループワークのなかで、自己紹介や困りごと、心配事などを発言することができた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 ・家族以外のひととの関係が大切と思った。 ・みなさんのはなしをきくとすこしわかりました ・「地域循環」「オールヤマモト」「引きこもり150万人」などのフレーズが印象的だった。 ・きんちょうした。えをみてもらってうれしかった。 ・ソーシャルサポートネットワーク、みんなの使いやすい公民館、近くに行く場所があるといいな。 ・地域のひととどうやって共生するか、とか、教育と福祉、家族に頼る依存度が日本は高いということがわかった。 ・難しかったことが多くてわからなかった。 ・心配なことは父と母がいなくなって、一人になってしまうこと。 ・地域共生社会についてすこしわかりました。 ・回覧板を回す範囲が助け合いができる範囲はなるほど、と思った。</p>



<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>①講師1名が企画運営に参加された (以下、講師より) ・当事者の実際の課題感を、地域の方々に知っていただくきっかけになったと思う。 ・様々な立場の方がこれだけ集まったので、ここが山元町の地域づくりのスタートになるのでは。 ・今後も地域計画やボランティア育成などに関して、山元町に関わっていきたい。</p> <p>②地域より、民生委員9名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・地域で勉強会を開催したい。・地域で何ができるのかを考えたい。 ・相談に行くまでの誘導が大切。行政任せにせず、普段からの共存が大切。 ・色々な方と話げできた。それぞれが抱えている問題を知ることができた。</p> <p>③地域より、行政区町・地区役員7名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・グループホームの必要性、町も真剣に考えるべき。 ・立場ごとにいろいろな困りごとがあることがわかった。 ・ポラリスについてもっと知りたい。</p> <p>④町内関係機関から11名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・もっとみんなと仲良くなりしたい。・また参加したい。 ・立場の違う意見がたくさん聞かれた。 ・それぞれの立場の人が今できることを地道に続けることが大切。 ・地域住民一人ひとりの思いを受け止め、地域の中で仕事していきたい。 ・当事者ならではの課題点を再認識することができた。</p> <p>⑤地域より、一般参加者が5名。 (以下、アンケートからの感想) ・当事者の切実な思いや町としての課題に触れた。 ・プラスの方向に関わり方を変えないと、と思った。・行き場所が必要なこと。</p> <p>⑥他市町村より、視察者3名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・障害がある方への配慮がいくつもあった。 ・障害がある方もない方も、一緒に学ぶことができた。 ・初参加だったが、あまり身構えずに参加できた。 ・対話の場を続けることで、本当の困りごととも共有できるようになるのでは？ ・住民同士の話し合いの重要性を感じた。</p> <p>⑦大学生3名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・多くの方の不安を知れた。自分達が支え合う必要性を感じた。 ・直接当事者と触れ合う機会は、調べるよりも学びになった。</p> <p>⑧保護者7名が参加された。 (以下、アンケートからの感想) ・家族だけで解決できないことがあるので、みなさんと勉強して解決していきたい。</p>
<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <p>①アンケート結果 「わかった」28名「こまった」4名「難しかった」20名「びっくり」3名「ぷんぷん」0名</p> <p>*視察者、町内関係機関、学生など多世代が参加。 *関係機関や保護者からは「分かった」の意見が多かった。 *一方で、当事者や民生委員からは「難しかった」の意見も多かった。</p>
<p>※課題・その他</p>	<p>・参加人数が多すぎて、グループワークは声が聞き取りづらかった。 ・時間が足りない！の意見。 ・予定していた「自分に何ができるか」のワークもできたらよかった。 ・参加人数に対して会場が手狭だった。 ・当事者の中には、グループワークの参加が難しく、退席する方もいたが、それはそれでよかったのでは。 ・当日参加者を想定した受付対応が必要。</p>

③「うたとからだとひだまりのワークショップ」

日時：令和4年8月25日（木）9:45～11:45

場所：ひだまりホール 会議室5/リハーサル室/ひだまりホール1階～3階

講師：浅川 光喜さん（山元町防災拠点・山下地域交流センター）

【概要】

テーマ	うたとからだとひだまりのワークショップ
目的・内容	<p>①うたとからだのワークショップ グループに分かれ、からだを動かしたり、うたを歌ったりすることで、お互いの表現のかたちを尊重し、ともに楽しみながら、自由に表現活動をおこなう。 （踊りから地域の民族芸能にふれるワークショップを開催予定であったが、感染症拡大防止の観点から、講師に踊りを教わるかたちでのワークショップは中止とした。）</p> <p>②ひだまりホールツアー ふだんからサロンで利用しているひだまりホールの館内を巡り、「防災センター」としての機能を学ぶ。また、公共施設の利用のしかたやマナーを学ぶ。</p>
プログラム 実施状況	<p>オリエンテーション（9：45～） ・特別ゲスト、実習生に質問コーナー</p> <p>プログラム1「うたとからだのワークショップ」（10：00～10：30） 「うたチーム」（会議室5）：2グループ（紅白）に分かれ、1曲ずつ歌いたい曲を選び、皆で歌い発表する。 「ヨガチーム」（リハーサル室）：スタッフ考案のストレッチや呼吸法など、体をほぐし、リラックスする活動を行う。</p> <p>（休憩10：30～10：45）</p> <p>プログラム2「ひだまりホールツアー」（10：45～11：25） ひだまりホール館長の案内のもと、屋内外の防災センターとしての機能や、フリースペースの使い方、図書コーナーの使い方などを実際に見て、教わるワークショップ。</p> <p>振り返り・アンケート記入・次回予告等（11：30～11：45）</p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・当初予定していた「踊りのワークショップ」は、講師陣（坂元おけさ保存会/花釜音頭保存会）がご高齢であることと、町内の感染状況を鑑みて、急遽中止とした。 ・代替プログラムとして、メンバーと保護者、スタッフのみで開催できるワークショップ（うた/ヨガ）を企画。 ・また、次月のテーマが「防災」であることや、公共施設の利用に慣れていないメンバーもいることから、防災拠点としての機能や館内の使い方を学ぶ「ひだまりホールツアー」の企画を館長に相談。急遽、講師を依頼できることとなった。 ・やすらぎスタッフが事務局として司会を担当。 ・県内外の大学に通う2名の実習生が参加。彼女たちへの質問コーナーを設けたり、グループワークに参加して、共に活動した。

【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者12名・保護者4名・地域住民2名・民生委員1名 ・町内関係機関1名・講師1名 ・実習生2名・スタッフ7名</p> <p style="text-align: right;">合計30名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・以前、メンバーの一人がひだまりホールで図書の借り方が分からず困ったことがきっかけとなり、ひだまりホールツアーの企画実施に至った。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者12名が、会場設営や片付けを行なった。 ・うたのグループワークでは、当事者5名が選曲を話し合ったり、盛り上げ役となった。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・うたのグループワークでは、当事者5名がグループごとに声を出したり、振り付けをしたりしながら歌うことができた。 ・ひだまりホールツアーでは当事者1名が講師に質問していた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 (うたとからだのワークショップ) ・おけさ等ができなかったのが残念です。ヨガは気持ちよかったです。 ・みんなのうたを色々聞いて良かったです。 ・たいそうストレッチのいい良かったです。とても楽しいかったです。 ・久しぶりに体を動かしたのでちょっとつかれました。 ・歌やおどりなどして、なごんだりフレッシュ。 (ひだまりホールツアー) ・自分は岩沼市在住なのですが、山元町は設備が充実していていいなあと思いました。岩沼以上かも。 ・ひだまりホール内を案内されて、色々な設備を見て、勉強になりました。良かったです。 ・面白かったことは倉庫の中を見せてもらったこと。毛布や水やかんぱんなどを置いてある倉庫を見せてもらって良かった。 ・ひだまりホールの作りが分かりました。 ・ひだまりホールかんきょうにやさしくあんないにしてもらいました。</p>



◆共感者・協力者を増やす

①講師1名が企画運営に参加された

(以下、講師より)

- ・震災を経験している山元町だからこそその防災機能について、また、震災後の復興した町の様子について、今回のツアーをきっかけに皆に知ってもらえればと思う。
- ・公共施設なので今後も気持ちよく、マナーを守って使っていただきたい。

①やすらぎスタッフ1名が司会と運営に参加された。

(以下、感想)

- ・今まで知らなかったメンバーの歌声や、スタッフのダンスを見ることができて楽しかった。歌や踊りが好きな当事者は多いので、今後ぜひ町内の他事業所の利用者も一緒に活動できたらと思う。

②地域より、民生委員1名が参加された。

(以下、アンケートより)

- ・ヨガ体操で運動不足な体が柔らかくなり気持ちもリラックスできました。

③大学生（精神保健福祉士/社会福祉士実習生）2名が参加された。

(以下、感想)

- ・歌や踊りを楽しむ、メンバーの意外な一面を知ることができました。
- ・自分も一緒に体を動かして楽しかったです。

④保護者7名が参加された。

(以下、アンケートからの感想)

- ・ひだまりホールでいろいろな保管している倉庫を見て安心しました。
- ・歌合戦、マイクが前にあったので私もつい歌ってしまいました。ちょっとまちがったけどすごく楽しかったです。
- ・運動ヨガ楽しかったです。体中が軽くなりました。体も内臓も全部つながっているなど気持ち良かったです。
- ・防災で必要なものを蓄えておかななくてはいけないと思いました。

⑤施設外就労でお世話になっている企業（いちご農園）の副代表が参加。

メンバーのサロン活動の様子を見ていただいたり、普段の施設外就労でのお仕事についてフィードバックして頂く機会となった。



◆ユニバーサルな学びの場となる	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 「わかった」18名「こまった」0名「難しかった」0名「びっくり」0名「ぶんぶん」0名 ＊感染拡大防止のため、参加者は基本的にポラリスメンバーと保護者、その他関係者のみとした。
※課題・その他	<p>(うた)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のため、表現活動のみ一部構成であった当初の予定を変更し、表現活動と防災・公共施設を学ぶ二部構成としたため、前半部分のワークショップは時間が足りず、途中休憩の時間が短くなってしまった。 ・グループで曲を選ぶ、リクエストされた歌詞を見せるなどその場での対応が多く大変だった。 ・みんな歌が好きなんだと再認識。「楽しかった」と感想をもらえてうれしかった。サロン以外の場でも歌を歌いたい。 ・保護者も周囲に流されず、グループに参加し、一緒に歌って楽しんでもらえてよかった。 <p>(ヨガ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりと無理せず、「気持ち良い程度」を意識して行った。呼吸も意識しながら。 ・「体が軽くなった」「スッキリした」との感想多数で良かった。 ・民生委員さんも積極参加されていたので良かった。 <p>(ひだまりホールツアー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅川先生のお話が障害者にとっても分かりやすかった。 ・屋外に出てフィールドワークを行ったことで、前半プログラムから気分を切り替えスッキリできたのでは。 ・時間もちょうど良く、メンバーも全員、最後まで参加できた。 ・アンケートの回答からは、防災への意識づけにつながったことが感じられる。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰りの交通手段が不明瞭だったメンバーが2名おられ、急遽スタッフが自宅へ送迎する形となった。(今回は午後の活動がお休みという変則のスケジュールであったために、いったん所内に戻り、いつも通りのバス時間で帰すということもできなかった。) 今後は特に帰りの交通手段と時間をメンバーそれぞれと確認しておくことが必要。



※当初予定していた「踊りのワークショップ」は、町内の感染状況を鑑み、講師陣（坂元おけさ保存会/花釜音頭保存会）がご高齢であることを踏まえ、急遽中止とした。写真は、事前の練習会と打ち合わせの様子。

④知って役立つ「防災」のこと

日時：令和4年9月15日（木）10:00～11:45

場所：ひだまりホール 会議室5

講師：上野 信義さん（山元町総務課・危機管理班）

【概要】

テーマ	知って役立つ「防災」のこと
目的・内容	防災や災害時対応の専門家である講師のファシリテーションのもと、行政×関係機関×NPO×地域住民（当事者含む）が、それぞれの立場を超えて防災と福祉について考え学び合う場を作る。
プログラム 実施状況	<p><オリエンテーション>（10：00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぴんくまとあおくまのこばなしタイム ・山元こぐまサロンとは？ <p><講師のお話>（10：05～10：45）</p> <p>1宮城県発表の津波浸水想定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災時の浸水マップと新たな想定マップを見比べた ・津波は震災発生から60分後にやってくるので、地震がきたらまずは身の安全を確保、その後西側へ避難する <p>2洪水・土砂災害について</p> <p>(1) ハザードマップ（洪水・土砂災害編）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにマップを見ながら自分の住まいや周囲の危険箇所、避難所について確認した ・裏面に掲載されている防災情報についても紹介。 <p>(2) マイ・タイムラインの紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者に1部ずつ配布し、作成方法について説明。 <p><質疑応答>（10：45～10：50）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所として地域の役に立つには、どんな準備をしたらよいのか？（支援学校） ・自宅の防災無線が聞こえない。誰に相談したらよい？ ・災害時要支援者リストは役場でどのように管理されている？ <p><私たちこんな風にお手伝いします>（10：50～11：05）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民生委員、行政区長、福祉サービス事業所スタッフの紹介 <p>（休憩11：05～11：15）</p> <p><グループワーク>「避難するときの持ち物を考えよう」（11：15～11：30）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・自分にとって/家族にとって大切なもの、必要なものを考え、ポストイットに書き出し発表する。 ・感想発表、講評など <p>アンケート記入・次回予告等（11：30～11：45）</p>

工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・役場の総務課に講師を初めて依頼した。当事者の理解度や特性について、事前打ち合わせを通して講師に伝え、理解を求めた。 ・当事者の興味関心をひけるよう、講師手作りの「マイタイムライン」作成のためのシールなどが準備された。 ・司会はやすらぎとポラリスが担当した。 ・山元町地域協議会地域生活部会との共同開催とし、町内関係機関にも広く声がけ。今まで継続参加されていた民生委員のほか、区長や町内の福祉サービス事業所（就労B、入所施設、ヘルパー等）にも声がけし、初参加される事業所も複数あった。 ・福祉サービス事業所はじめ、町内関係機関の参加者にはグループワークのファシリテーターを務めてもらった。 ・グループ分けは、当事者・保護者とその他地域内関係機関がなるべく同地区ごとに分かれるよう工夫した。
-----	---

【成果】

◆楽しく学び	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者14名・保護者5名・地域住民4名・民生委員9名・行政区長1名 ・町内関係機関7名・視察者2名・役場職員2名・講師1名 ・スタッフ9名 <p style="text-align: right;">合計54名参加</p>
◆当事者が主体的に学び	<p>①当事者が企画に参加できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画段階で当事者や保護者に「災害について不安なこと」のアンケートを実施。その解答を事前に講師に共有し、講義内容に反映させた。 <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者13名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、会終了後のアンケート集計に参加した。 <p>③当事者が主体的に発言できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークでは自分の住まいを確認し合ったり、避難するときの持ち物について意見を出し合ったりすることができた。 ・当事者の視点として、町で作成している「要支援者リスト」に関して講師へ質問をする者もいた。 ・昨年よりユニバーサル学習に参加していた他事業所の当事者がリピートで参加され、グループワーク後には全体に向けて感想の発表もすることができた。 <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を知ることが難しかった。避難に備えるために事前に準備が必要だと思いました。 ・ちょっとむずかしかったです。 ・自衛隊の方が復興支援で10万7千人いたことが分かりました。降水量が200mm超えると危険ということが分かった。備蓄は1週間分しておく、古いものから使っていく。 ・自主防災について勉強しました。 ・難しく理解ができませんでした。 ・防災情報おはなしわかりました。区長さんおはなしわかりました。 ・地震や大雨などで避難するときのことちょっと不安大きかったけど、色々お話をきけて良かったです。 ・防災無線は緊急でないものも含むいろんなお知らせをされていて、大事な情報を聞き逃す恐れがある。以前避難指示が出たとき自主防災組織は全く動かなかった。どうすればよいのか。 ・2011年3月以上の災害が来ると避難ができるのか不安。 ・震災があったとき、どう対処していいか分かりました。 ・やっぱり子どもがいても楽しいひなんにしたい。赤ちゃんがいる家ではミルクとおもちゃがあればいいと思います。

◆共感者・協力者を増やす

①講師1名が企画運営に参加された

(以下、講師より)

・グループワーク等を通して、実際に皆さんの意見を聞くことができました。「避難時の持ち物」について、「ともだち」や「絵を描く道具」など、当事者の皆さんの意見は講義でお伝えしている以上の現実味があり、自分にとっても学びになりました。
・ピンクマ/あおクマが話の流れを導いてくれたので、ありがたかったです。

②地域関係機関より7名にグループワークの進行をお願いした。当事者と出会い、お互いについて知り合う、学びあう機会となった。

・事業所のある地域の方と、一緒に考えあうこと時間を持つことができ良かったです。(入所施設相談員)

・「避難のときの持ち物を考える」ワークでは、「もの」だけでなく「手段」も出るなど、みんなの視点だからこそそのアイデアが面白かった。(町社協職員)

・様々な年代の方が混ざり合うグループワークだからこそ、それぞれの意見が面白かった。(町社協職員)

・サロンに参加することでだんだんと地域の方の顔を覚えることができます。(相談支援事業所管理者)

・普段の訪問では出会うことのない当事者の方と出会うことができ良い機会でした。今後も事業所内で交代しながら参加できればと思います。(居宅介護事業所管理者)

③地域より、民生委員9名が参加された。継続参加される中で、グループワークを積極的にまとめてくれるなどの協力体制もいただけるようになった。今後は生涯スポーツについても協力をいただけると話を頂いた。

(以下、アンケートより)

・何度も聞くうちに内容が分かってきた。ハザードマップただ見ても頭に入らなかったのが、今回は意識が高まりました。こうして顔の見える関係を築いていこうという趣旨が素晴らしいです。

・最近の災害はものすごい雨の降りようが怖いと感じます。防災について常に学び確認していくことが大事だと思います。

・防災については何回研修しても良いと思います。家族等で避難について話し合っておく必要も大事なことだと再確認しました。

④地域より、行政区長1名が参加され、東日本大震災の時の経験も踏まえながら、区長の働きについて紹介された。

⑤支援学校校長が参加された。「福祉避難所」として地域のために整備できることは何かという視点で、講師にも積極的に質問された。

⑥保護者5名が参加された。

(以下、アンケートからの感想)

・一人ひとり持ち物が違うので、家族で話し合っ準備物を用意したいと思います。

・網の目のように山元町は防災住民のために手を尽くしておられ、力強く感じます。

・時間上すこし説明が早かったようですが、資料を見ながらなのでわかりました。家族で防災について定期的に話し合いたいと思います。

・こぐまサロンに参加して福祉避難所というところがあることを初めて分かりました。そういう避難するところがあると、障害のあるひとはすごく安心できると思います。

⑦地域の一般住民が4名参加された。

(以下、アンケートからの感想)

・割合強い地震が時々起きておりますが、危機感が薄れてましたので、防災のこと、シミュレーションしながら学ぶことができ大変良かったです。

◆ユニバーサルな学びの場となる	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 「わかった」29名「こまった」1名「難しかった」5名「びっくり」0名「ぷんぷん」0名
※課題・その他	<p>(プログラム内容について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい言葉、テーマであったが、講師が分かりやすく、やさしく伝えてくれた。 ・講義のボリュームが多かったが、どれも大切な話なので、削ることも難しかった。防災については今後も定期開催することで、テーマを絞りながら、また情報をアップデートしながら、今回のように地域の皆さんと学んでいきたい。 <p>(グループワークについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者が多いとどうしても時間が足りず、自己紹介の時間を持つことができなかったグループもあった。 ・一部グループでファシリテーターが不在になる場面があったが、スタッフ内でフォローし、進行することができた。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後町で予定している地区ごとのハザードマップづくりにも、是非当事者の声を生かしていきたい。 ・災害備蓄品は食品が中心だったので、今後は災害用トイレなどの衛生品・日用品の展示もあると良いか。



⑤ ころをおだやかに～おしょうさんのトーク&ライブ～

日時：令和4年10月13日（木）10:00～11:45
 場所：ひだまりホール 会議室5
 講師：内山 太史さん（鳳仙寺 住職）

【概要】

テーマ	ころをおだやかに～おしょうさんのトーク&ライブ
目的・内容	多彩な才能を持つ住職に、生きづらさを抱えている人たちの心を健やかにするトークと音楽による学びの場をお願いする。
プログラム 実施状況	<p><オリエンテーション>（10：00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぴんくまとスローなロバのこばなしタイム ・山元こぐまサロンとは？ <p><講師のお話>（10：05～10：45）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 内山和尚の自己紹介 2) お寺ってどんなところ？→「ともに生きる」ことと向き合うところ 日本中のお寺の数は、コンビニよりも多い！気軽に立ち寄ってもらえるように「お寺びらき」をしている。 3) お坊さんって、どんな人？→お坊さんも、みんなと同じ、ただの人間。 偉くない。みんなと同じ目線で考えて、悩んでくれるひと。 4) 仏教って、どんな世界？ 「悟り」：釈迦がたどり着いた、仏教の真理。この世界の本当の姿→「仏」 ×自分の都合で、ものごとに名前をつけて、分けて考える。（分別） ×過去のことを思い出して悲しくなったり、未来のことを思い悩んだり。（妄想） →分け隔てることなく、みんなひとつ！みんなが仏さま。分別や妄想から解放される。 5) 体験してみよう！いす座禅：煩惱にとらわれない、手放す練習 6) ミニライブ「風になりたい」（THE BOOM） <p>（休憩11：05～11：15）</p> <p><おしょうへの質問コーナー></p> <ul style="list-style-type: none"> ・メンバー6名が代表し、自作の質問カードと共に一問一答をおこなった（好きな食べ物は？ 生活費はどうやって稼ぐ？ 休みの日はある？ 大変だった修行は？ 悪霊っている？ 輪廻について） <p>アンケート記入・次回予告等（11：35～11：45）</p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・仏教の世界について、皆に分かりやすく伝わるように、コンビニやアイドルなどのたとえ話を交えて講義が進んだ。 ・音楽で活躍されている講師の特技を生かし、障害の有無や年代を問わず楽しめるよう、音楽ライブを実施。 ・講師の協力のもと、近隣市町村からバンドメンバーも参加され、カフェライブ形式が実現。 ・楽器を参加者に貸し出し、歌と共に演奏も楽しめるようにした。 ・仏教の体験として、「いす座禅」を実施。からだが不自由な人でも取り組めるよう、座ったままでその場で実践できるかたちにした。

【成果】

<p>◆楽しく学び</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者13名・保護者5名・地域住民16名・民生委員8名・取材1名 ・町内関係機関3名・アドバイザー1名・講師3名（うち2名はバンドメンバー） ・スタッフ7名 ・精神保健福祉士実習生1名</p> <p style="text-align: right;">合計58名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学び</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・事前に当事者へ「おしょうさんへの質問」のアンケートを実施。その中から数個を抜粋し、当日の「おしょうさんへの質問コーナー」を企画した。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者6名が、「質問コーナー」で使用する質問カードの作成を行った。 ・当事者13名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、会終了後のアンケート集計に参加した。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・後半の「質問コーナー」では、6名が自分で作ったカードをもとに、和尚への質問を発表することができた。 ・2名が感想を発表することができた。 ・会終了後、和尚のもとに自ら質問に行くメンバーも2名いた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 ・おしょうさんはいい人だな。たくさん勉強しているんだなと思った。 ・修行中は肉魚が食べられないと聞いて驚きました。一日5回40分ずつの座禅はすごいと思いました。 ・おしょうさんがおもしろくてよかった。かぜになりたいの歌も良かった。 ・悪いことをすると罰が当たる。いいことをすると、いつか自分に返ってくると思いました。難しかったけど、説明は分かりやすかったです。 ・調身ということばを初めて知りました。 ・給料などが決まった額で、所得税などが引かれることがわかった。音楽演奏も楽しかった。 ・修行は座禅でくらす。 ・ミニライブ、風になりたい、いいえんそうでした。 ・質問コーナーがたのしかった。 ・人は死んだらほしになるというひとがいますが、ほんとうでしょうか？ ・調身、調息、調心を生活のなかに取り入れてみたいと思います。演奏も楽しかったです。</p>



◆共感者・協力者を増やす

- ①講師1名が企画運営に参加された。また、講師の紹介でバンドメンバー2名がライブに出演された。
(以下、講師より)
- ・事前の打ち合わせを綿密に出来たので、テーマから大きく逸れることなく、お話をすることができました。
 - ・ライブのときにどのくらい盛り上がるかな、、、と心配していたけれど、皆さんの反応が良くて安心しました。
 - ・座禅など、本来であれば1時間かけて取り組むところ、限られた時間の中で進めなければならなかったもので、今度はゆっくりと時間をかけてやりたいと思います。
(バンドメンバーより)
 - ・地元(角田市)では、同じような趣旨のイベントを企画しても、人が全然集まらない。山元はこんなに参加者がいて、みんなで楽しんでいて、すごいなと思った。
- ②地域より、民生委員8名が参加された。
(以下、アンケートより)
- ・とてもよかったです。今の世界の生き方を教えていただきました。
 - ・人間の世界欲を出さず、座禅で心を整えたい。
 - ・ぴんくまちゃんとスローな口バさんのこぼなしが良かった。
 - ・今回の座禅の仕方を教わってよかったです。考え方を改めてみるというのが大事なことだと改めて思いました。
 - ・仏様とは、座禅とは、細やかに説明頂きました。輪廻の教えは改めて心の姿を思い起こしました。
 - ・音楽に合わせてみんなで体を動かすと楽しかった。
 - ・おしょうさんが身近に感じられました。今後の生き方を考えられました。
- ③保護者5名が参加された。
(以下、アンケートからの感想)
- ・毎日いろいろなことで悩んでいるときには、イス座禅を試してみたいと思います。気持ちが楽になりたいです。音楽も楽しかったです。
 - ・調身、調息、調心を目標にして、心を穏やかに過ごしていきたいと思いました。
 - ・ミニライブ、みんなでリズムをとって楽しい時間を過ごすことができました。
 - ・またいろいろなお話が聞きたい。ライブもじっくりと聞きたいですね。
 - ・おしょうさんの丁寧なおはなし、感動しました。まして座禅を加え、心が落ち着いて、染みわたりました。解脱したい！！
- ④地域の一般住民が16名参加された。周辺市町村も含め、一般参加者は過去最高となった。
(以下、アンケートからの感想)
- ・とても聞きやすく楽しかったです。ミニライブもはなまる！
 - ・初めての参加です。分かりました。
 - ・おしょうさんは私たちと同じ目線で一緒に考えてくれる。座禅も実践してみようと思います。
 - ・調身、調息、調心、最後の調心が難しいな、自分としては。「手放すことの大切さ」を学んだ。
 - ・座禅の話が大変分かりやすかったです。
 - ・穏やかな1日、生きる喜びを改めて学べて嬉しかったです。
 - ・とてもあたたかい雰囲気良かったです。また一つの世界を見ることができました。
 - ・妄想、こだわりを少しでも手放すことができるよう、生活の中に座禅を取り入れたいと思いました。
 - ・よくわからなかったこと、なるほどと思ったこともありましたが、仏の捉え方が難しかったです。
 - ・楽器を使って皆で奏でられたのが良かった。おしょうさんのお話が面白かった。
 - ・ポラリスとは何か？とは思ったが、住職さんの話が聞きたくて申し込みました。「メンバー」とあったので、場違いなところに来てしまったようで落ち着きませんでした。個人的には鳳仙寺にフラツと行ってみようと思いました。

◆ユニバーサルな学びの場となる	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果 「わかった」27名「こまった」0名「難しかった」7名「びっくり」4名 「ぶんぶん」0名
※課題・その他	<p>(プログラム内容について)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難しい内容もあり、障害特性によって理解できなかった部分もあるかもしれないが、前半は高い集中力で、講師の話を見て・聴いていた。 ・難しい世界観の話も分かりやすく解説くださり、特に「座禅」については参加者に響いていた様子。日常にも取り入れやすいかたちでの紹介がユニバーサルだった。 ・参加型の音楽ライブだったので、障害にかかわらずみんなで楽しむことができた。 ・おしょうへの質問コーナーでは、メンバーが一般参加者の代弁をする雰囲気となり、会場内が盛り上がった。鋭い質問もメンバーの質問カードで和やかな雰囲気となっていた。 ・「広報やまもと」での掲載効果か、テーマへの関心の高さか、一般町民の参加が過去最高の16名。(鳳仙寺への直接の問い合わせも多かった様子。) 終了後には「考え方が変わりました」との感想が多く聞かれた。 ・初参加の一般町民の中には、「ポラリス」や「山元こぐまサロン」がどういった場なのか分からずに不安に感じた方もいたよう。今後、地域に開かれていくなかで、とくに初回参加者には、より丁寧な説明が求められると感じられた。 <p>(次回「僕とオトウト」上映会について。きょうだいやヤングケアラーについて気になることなど。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤングケアラーは頼る人がいないって、本当ですか？(当事者) ・将来親なきあとに(自分のきょうだいに)負担をかけるのが不安です。(当事者) ・ヤングケアラー、具体的には把握してませんが、多くなってきている様子。(民生委員) ・ヤングケアラーは気になっているのでぜひ見てみたい。



⑥ きょうだいについて考える～映画『僕とオトウト』上映会

日時：令和4年11月17日（木）10:00～11:45

場所：ふるさとおもだか館 防災研修室、会議室5

協力：映画「僕とオトウト」上映委員会

【概要】

テーマ	きょうだいについて考える～映画『僕とオトウト』上映会
目的・内容	障害をもつ弟をテーマに、兄が監督となって制作したドキュメンタリー映画「僕とオトウト」を通して、障害当事者やその家族のふだんの生活の様子や、それぞれの生き方、きょうだいとしての思い・日々の葛藤に触れる。また、昨今話題となっている「ヤングケアラー」や「ケアする人のケア」について、当事者や保護者、地域住民が集まって、一緒に考えるきっかけとしたい。上映会には昨年より継続してサロンに参加された地元支援学校の教員や生徒・保護者も参加されるため、地域の方との交流や情報交換の場にもしたい。
プログラム 実施状況	<p><上映前のフリータイム></p> <ul style="list-style-type: none"> ・船岡支援学校・星なるみさん作品展示・紹介コーナー ・「ユニバーサルな学びの場」に関するアンケート記入タイム <p><オリエンテーション>（10：00）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あおくまくんとしろうさちゃんのこばなしタイム ・山元こぐまサロンとは？ ・コーディネーターのポラリス田口よりごあいさつ <p><映画本編上映>（10：10～11：00）</p> <p>（休憩11：00～11：10）</p> <p><感想発表・アンケート記入・次回予告等></p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・普段利用している「ひだまりホール」がコロナワクチン接種の関係で使用できなかったが、同じく町内の公共施設である「おもだか館」を会場とした。初めて使用する会場であったが、前日よりやすらぎスタッフにも協力をもらって下準備をすることができ、スムーズに開催できた。 ・東北福祉大の学生がボランティアで参加し、会場誘導や受付係を経験してもらえた。 ・山元支援学校より、PTAの行事として教員・保護者が参加。会終了後に懇談会の場を設けることで、お互いに顔が見える関係となれるように工夫した。 ・船岡支援学校より生徒・保護者・教員がリピート参加。また会場内に本人の作品展示ブースを設け、一般参加者との交流ができるようにした。



【成果】

◆楽しく学ぶ	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者14名・保護者7名・船岡支援学校（教員、生徒、保護者）3名 ・山元支援学校（教員、保護者）9名・地域住民11名・民生委員9名 ・町内関係機関1名・大学生2名・スタッフ9名</p> <p style="text-align: right;">合計65名参加</p>
◆当事者が主体的に学ぶ	<p>①当事者が企画に参加できたか？ （映画のセレクトは、事務局で行った。）</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者14名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、会終了後のアンケート集計に参加した。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・感想発表では、当事者1名が自分から感想を発表することができた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 ・兄が弟の面倒を見て大変だと思いました。・京都の花、良かったです。 ・初めて障害をもったひとのドキュメンタリーを見たが、自分にとっては理解しづらい映画でした。 ・いろいろ大変だと思いましたが、兄弟の仲が良いなと思いました。 ・いろいろお互いのことを知るのが難しいんだなと思った。思ったことを伝えるのは本当に難しいことと、この映画を見て分かった。 ・家族ともっと話をするといいのかなと思いました。 ・兄弟仲良く助け合いながら、兄さんが弟を心配して、色々と弟に助言することに感動しました。 ・今日の映画はちょっと難しかったです。 ・映画の中のお兄さんはとっても優しくかった。母が亡くなると弟の世話になるんだから、けんかはしないようにと思いました。 ・久しぶりに映画が見られてよかった。</p>



当事者1名が、会終了後のアンケート集計に参加した。

【成果】

◆共感者・協力者を増やす

①地域より、民生委員9名が参加された。（以下、アンケートより）

・ そうまくんにはこの兄がいて幸せだと思う。兄弟ともに障害をもつというケースも多くあると思います。そんな家庭はどんな覚悟でどんなふうに住んでいくのか、どんな手伝いができるのか知りたいと思う。

・ 認知症の介護も大変ですが、障害を持ったこどもの介護も、どんどん成長し体力が付き、反対に親は年を取って弱くなり実には大変だと気づかされました。両親がきちっと対応していても兄弟の負担はこんなにも大きなものなのですね。でもこのお兄ちゃん、暖かい家族の中で優しい心が育って弟へのまなざしもやさしい。弟への愛情が深いから切なさや悲しさをより強く感じるのだと思いました。

・ とても悲しくて涙が止まりませんでした。つらい、悲しい気持ちを、いつも家族は持っている。障害者もどうすべきか考えている。できないところをカバーしてあげればよい。そんなことを分かったような気がする。

・ もし自分だったら、あんなに寄り添って弟の障害を理解しようと思えるのかなど。自分と家族と他の人とのかかわりをどう持ち、障害を普通に受け入れられるような社会に。

・ 本人は日々の生活の中、素直であったり感受性が多くわかってあげる気持ちや、協力性が大切と思う。

・ うーんと考えこんでしまった。弟の障害を受け止めて、子どもの頃から一緒に行動していたことに感動した。悩みながらだろうが、今後も見守る気持ちが伝わってきた。家族全員が障害者と生活する姿を公表することは、社会の一員ということの理解を深めるきっかけになるでしょう。

・ 障害のある弟さんの行動には、彼なりの理由があると感じたし、兄もなぜそんな行動をとるのかについて悩みながらも悲しみ、切ないなど、理解しようとする姿に感動しました。

②山元支援学校PTAより9名が参加された（PTA行事の一環として初めてサロンを活用された）。上映会終了後には、教員・保護者とポラリス・やすらぎスタッフとのミニ懇談会を開催。それぞれの活動紹介のほか、保護者からは実際に障害児をふくむきょうだいの子育てにまつわるリアルな悩みも聞かれた。教員や保護者からは、ぜひ他の保護者にも、こういった機会に参加してほしい、他に発信していきたいといった前向きな感想が聞かれた。

（以下、アンケートからの感想）

・ お兄さんが優しいなと思いました。知りたいと思っても、分からない。伝えてくれないもどかしさがつらいのかなと思いました。障害がなくても人とのコミュニケーションって難しいですもんね。障害があってもなくても他人の心、思っていることって分かり合えるかどうかと逆に思いました。

・ 兄弟の抱える悩みや葛藤は一つではないし、なかなか他の人には、分からないと思いますが、それを吐き出す場が増えると抱えているものが軽くなると思って、見ておりました。

・ 将来のことをどうしていくと良いのかを考えている保護者さんがたくさんいます。お兄さんが弟さんのことを本当に好きなんだと感じました。ここまで弟を好きでいてくれることで将来の選択肢が増えていくんだろうと思いました。周りの理解が大事だなと改めて感じました。学校ができることをもっともっと考えていけたらいいと思います。地域につなげる、家族に寄り添う。

・ 障害を有する兄弟の支援の必要性を感じました。

・ そうまさんを中心として家族一人一人の心の交流が素晴らしいと思った。彼がいたからこそその深い結びつきが感じられた。障害をもっていても、一人の人間としてリスペクトする基本だと思いました。

・ 当事者家族の思い、家族・兄弟の葛藤、向き合い方に触れることができ、とても学びになった。周りの方々に障害について、悩みについて語れる場の必要性・重要性を感じた。障害者家族にメンターがいると家族も生きやすい社会になるのではと思う。

<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>③船岡支援学校高等部学生やその保護者、教員が参加され、自身が制作されている作品や制作動画などの紹介ブースを設けた。休憩時間等に、他の参加者と交流することができ、医療的ケアが必要な障害児について、理解を深めるきっかけとなった。</p> <p>④ポラリス保護者7名が参加された。（以下、アンケートからの感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変だと思いましたが、お兄さんとお母さんが一生懸命で、愛情深い良い家族だと思いました。これからは将来のことも本人とも話し合ったりしないと、と映画を見て思いました。 ・こぐまサロンでいろいろと勉強してから、みんなに優しくすることができるようになりました。できる範囲で声がけて協力しています。 ・兄弟が障害者だと、将来のことを考えることは大事なことで、家族で話し合ってみたいと思います。 ・やはり姉妹いろいろ大変だと思う。姉も時々誘ってくれるので、いい関係かな。子供たちの小さい時を思い出した。長女、次女の上下はあると思う。 ・映画を見て非常に感心しました。誰でも関連したことがあります。とても深い。日常生活でまだまだ勉強足らず、考えたらずで、悔しくあります。病気について、精神的なことについて、いまさらながら勉強しなくちゃと思います。 ・本人は考えながら行動しているのに、家族や周りの人は何を伝えたいのかわからない。家族も悩みながらコミュニケーションとるのも難しい。何が良くて何が悪いのかわからず、毎日過ごしています。 <p>⑤地域の一般住民が11名参加された。前回初参加された方がリピート参加されたり、リピーターの口コミで初参加者が増えるなど、新たなつながりが出てきた。</p> <p>（以下、アンケートからの感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親亡き後、兄弟姉妹にゆだねることはとても責任が重いと感じた。いくらきょうだいといえども、人生を犠牲にしてまで、とつらくなる。福祉サービスや行政を頼り、重荷になることは絶対にさせたくないと思っていました。 ・家族が一生懸命なことが感動しました。自分が家族だったらどんな対応をして生活できるか考えさせられました。お兄ちゃんを開放してあげたい気持ちでいっぱいでした。 ・障害について無知、自分の身内やすぐ近くにはいない。今日のテーマはとても学びになりました。 ・直面しなければわからない事だと思います。答えはないと思います。その都度一番良いと思うこと、本人と周りの人たちと関わっていくことなのかなと思います。 ・障害者が学校を出たあと、ずうっと生きていくこと、幸せに生きていくこと、それを家族や社会が支え続けていくことの難しさ。支援する側も、無理なくできるようにすること、考えさせられることがたくさんありました。 ・兄はずうっと葛藤の中になる。母親の苦しみを超えたおおらかさ、大きさ、偉大です。兄弟がいるっていいですね。世の中がもっともっと変わっていけばいいですね。 ・誰か大切な人のことを分かりたいという人と人のコミュニケーションについて考えさせられる映画だと思いました。 ・様々な立場の方の感想を聴けて良かったです。 <p>⑥東北福祉大学の学生2名がリピート参加され、受付や駐車場誘導係として、運営に参加された。会終了後には、サロン等で今後も継続して関わっていきたい、とお話することができた。</p> <p>⑦町内の相談支援事業所より、相談支援専門員が参加。上映会終了後には参加者へご挨拶の時間を設け、皆さんに顔を覚えていただくきっかけとした。</p>
---------------------	--

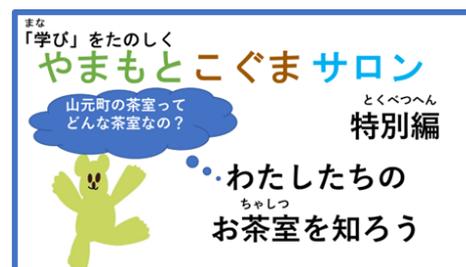
◆ユニバーサルな学びの場となる	「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ ・アンケート結果 「わかった」18名「こまった」3名「難しかった」38名「びっくり」1名「ぷんぷん」2名
※課題・その他	・会場に防音設備が整っていないため、施設内の他の部屋の使用者に音響の影響が出ないかどうか、お互いに気を遣いながらの運営となった。



©Yuto Takagi

特別編：「茶室のことを知って皆に話せるようになろう」

日時：令和4年12月3日（土）13:30～15:30
 場所：徳本寺
 共催：山元いいっ茶組
 講師：清水ますみさん、小濱昭博さん



【概要】

テーマ	茶室のことを知って皆に話せるようになろう
目的・内容	<p>山元町に残る貴重な文化財・茶室。2024年に再建することが決定したことをうけ、今まで学んできた茶室の価値を改めて、地域の皆で、楽しく、学ぶ。</p> <p>山元町に「大條家ゆかりのお茶室」がある。豊臣秀吉から伊達家にプレゼントされた茶室と言い伝えられていて、仙台藩で唯一残る歴史的にとっても貴重な茶室だが、震災でボロボロになってしまって、放られてた。このたび町としても保存と活用をしていこうと決まった町の文化財。行政任せにせず、地域住民も町と連携してこの茶室の価値について皆に伝えたいと保存活動して来た「山元いいっ茶組」と連携し、ポラリスでは、これまで2回、茶室の勉強会を企画開催（合戦原学堂、徳本寺）。障害のある人もない人も共に学び合いしなやかでやさしい文化のある町を作っていきますよ、という想いで取り組んできた。保存することを受けて、あらためてこの価値を広める学びの場を作りたいと考え、「山元こぐまサロン特別編として企画した。</p>
プログラム 実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・ごあいさつ（発起人より） ・寸劇：小濱さんによる茶室の紹介 ・デジタルかみしばいの上映 ーきゅうけい（10分間）ー ・大クイズ大会 ・ごあいさつとご報告（山元町役場より） ・お知らせ／ご案内／ご報告など（山元いいっ茶組より） ・ごあいさつ（ポラリスより） ・閉会
成果	<p>参加者： 当事者10名、保護者7名、地域住民35名、行政2名、講師2名、スタッフ5名 合計63名</p> <p>①以下の工夫により、皆が笑いながら楽しく学ぶことができた。また、茶室の価値について理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロの劇団俳優による進行、芝居 ・デジタル紙芝居 ・クイズ大会（豪華景品つき） ・屋台の演出 <p>②また、地域団体と行政が連携し、企画開催することができた。地域住民の参加者も多く、応援者、共感者を増やすことができた。</p> <p>③メンバーが会場準備や片づけを主体的に行うことができた。</p> <p>④保護者が受付を行い、スタッフ同様の働きで素晴らしかった。</p> <p>⑤町の文化財をテーマに、行政と地域とNPOが連携を強化してまちづくりを進めることにつながった。</p>

震災で被災の山元町文化財復旧着手

大條家茶室 魅力知って

山元町坂元地区にあり、仙台藩に仕えた大條家ゆかりの町指定文化財「茶室」の価値を発信するイベント「お茶室のこころを知って、皆に話せるようになろう！」が12月3日、坂元地区の徳本寺本堂で開かれる。

町教委が本年度、東日本大震災で被災し立ち入り禁止が続く茶室の復旧事業に着手したのを踏まえ、同町



2024年度に再び内部が公開される予定の町指定文化財「茶室」―山元町坂元館下

来月3日イベント 紙芝居で歴史紹介

のNPO法人ポラリスと、町民ら有志でつくる「山元いっつ茶組」が企画した。

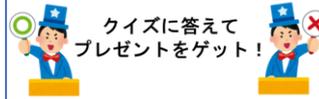
町史によると、茶室は江戸時代末期、現在の坂元地区を治めていた大條家15代当主の道直が、仙台藩12代藩主伊達斉邦から贈られたとされる。仙台城から城下の大條家屋敷に移設後、1932年に現在地の裏首城三の丸跡に移された。町教委は2023年度に工事を終え、24年度に公開予定。

イベントでは、いっつ茶組が制作した茶室の概要や歴史を紹介する電子紙芝居を上映する。仙台市出身の舞台俳優小浜昭博さんらが大條道直に扮するなどして、紙芝居の内容を分かりやすく補完する寸劇の披露もある。

いっつ茶組発起人の徳本寺の早坂文明住職(72)は「お茶室の存在を広く知ってもらおうとともに、公開再開後にどう活用できるか、展望を考える機会になりたい」と来場を呼びかける。定員80人。無料。午後1時半〜3時半ごろ。連絡先はポラリス02233(36)7410。



大クイズ大会



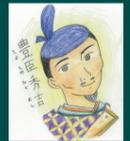
クイズに答えてプレゼントをゲット!

大條家ゆかりの茶室クイズ

中級編①

茶室は伊達政宗がある武將に京都に建ててもらったものとの言い伝えがある。その武將はだれでしょう?

- I 上杉謙信
- II 徳川家康
- III 豊臣秀吉



大條家ゆかりの茶室クイズ

中級編③

伊達の殿様に「褒美に茶室をください」と申し出たのはだれでしょう?

- I 15代 大條道直
- II 17代 大條孫三郎
- III 伊達みきお

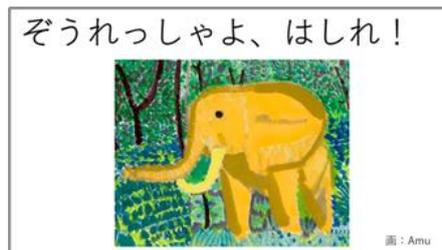


⑦ 音楽を楽しみ、学ぶ～うたで学ぼう 平和のこと～

日時：令和4年12月15日（木）10:00～11:50
 場所：ふるさとおもだか館 防災研修室、会議室5
 講師：宮城白萩の会、どらごえサークル

【概要】

テーマ	音楽を楽しみ、学ぶ～うたで学ぼう 平和のこと～
目的・内容	山元町内にて、歌を通して平和の大切さを発信している「どらごえサークル」と、宮城県の学校を退職した教職員による「宮城白萩の会」の協力で、歌や語りで平和を学ぶ機会をつくる。
プログラム 実施状況	10:00～ 開会・オリエンテーション 10:10～ プログラム第一部：宮城白萩の会 （歌と語り部のプログラム） 10:50～ 第一部の質疑応答、感想発表 10:55～ 休憩（10分間） 11:05～ プログラム第二部：どらごえサークル （歌とおどりのプログラム） 11:40～ 第二部感想発表、本日のアンケート記入、次回予告など、 11:50～ 閉会、会場片づけ、終了
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・前回に続き、普段利用している「ひだまりホール」がコロナワクチン接種の関係で使用できなかったが、同じく町内の公共施設である「おもだか館」を会場とした。前日よりメンバーややすらぎスタッフの協力のもと下準備をすることができた。講師のどらごえサークルの練習拠点でもあるため、ステージの設営等もスムーズだった。 ・昨年につづく講師「どらごえサークル」の紹介で、学校教職員を退職された「宮城白萩の会」を、今回新たに講師に迎えることができた。プログラムは2本立てとした。 ・講師との協働により、ふだんはアナログで行っている宮城白萩の会の語り部プログラムをスライドで進行できるように作成した。スクリーンにて上映し、会場内の全員が見えやすくなるよう工夫した。 ・講師の提案で、参加者からのリクエスト曲を一曲準備し、参加者と講師全員で歌えるよう工夫した。 ・当事者の制作したイラストや歌詞カードを、当日のスライドや歌集に活用した。参加者が、当事者のアート活動に触れる機会となった。



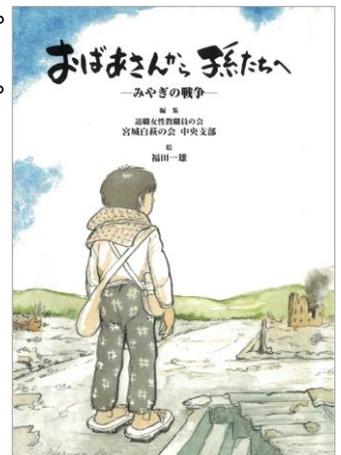
当事者の制作したイラストや歌詞カードを、当日のスライドや歌集に活用した。

【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者13名・保護者4名・地域住民5名・民生委員4名 ・講師：宮城白萩の会20名/どらごえサークル15名 ・視察3名・スタッフ8名</p> <p style="text-align: right;">合計72名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・プログラム中の一曲を事務局と当事者にて選曲。昨年に続き「365日の紙飛行機」を参加者皆で歌うことができた。 ・当事者1名が、「歌集づくり」に参加し、手書きの歌詞カードの作成を行った。 ・当事者6名が、歌集の色塗りを行った。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者1名が、スタッフと共に、会場の前日準備に参加。 ・当事者13名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者2名が、会終了後のアンケート集計に参加した。 ・参加者全員が、歌や振り付けを講師と共に楽しむことができた。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・感想発表では、当事者4名が全体に向けて感想を発表することができた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 ・365日の紙飛行機、空を見上げて歌いました。 ・自分が小さなころに聴いた歌が聴けて、懐かしく感じました。 ・歌が良かった。いろいろな昔の戦争のことが聞けて良かった。半面、戦争は怖いと思った。 ・どらごえサークルは楽しかったですけど、最初の戦争の話が難しかった。 ・寸劇のような振り付けのような、みなさんとても上手で、たくさん練習されるんだなと思いました。長い間疲れずに歌えるのはすごいなと思いました。 ・歌を通して戦争のことを考えると分かりやすいけど、やっぱり戦争って問題だなと思いました。 ・戦争の話聞いてとても悲しいです。どらごえサークルの歌楽しかったです。 ・久しぶりに365日の紙飛行機を歌ったり踊ったりして楽しかったです。</p>



<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>①地域より、民生委員4名が参加された。（障害者・高齢者部会のメンバーが改編となる中、有志の方が継続参加。） （以下、アンケートより） ・小さいころから父に戦争の話を聞いて育ちました。どんなに辛くても、戦に行ったときを思えば何でも耐えられると、戦争は絶対にしてはならないと思う。 ・戦争は過去のこととのんきに構えていた時もありました。でもそれは幻想だと今の情勢で感じています。平和を続けるためには、強い意志が必要です。</p> <p>②ポラリス保護者4名が参加された。 （以下、アンケートからの感想） ・私は25年生まれ。戦争が終わり、今みたいに食料とか生活が大変だったけど、スローな生活で家族が一つになって頑張っていたような気がします。今はスピードが求められる生活で、機械に使われて追いついていくのが大変です。 ・どらごえサークルの歌も楽しく、一緒に歌うことができました。ありがとうございました。 ・大変感動しました。美しい歌声、説得力がありました。この様々なサークルをあちこちで広めていただければと心から思います。今の世の中に必要です。今だからこそ。政治経済のことはよくわかりませんが、なぜ戦争が起きるのかの基礎が大事な。宮城白萩の会、どらごえサークルのみなさん、ありがとうございました。勉強になりました。 ・白萩の会の方々の語り部と合唱がとても感激しました。戦争の悲惨さを述べ、よくわかり、体験談も聞けて良かったです。 ・去年に続き平和の歌で思いを改めて考えました。今年の漢字は「戦」でした。毎日温かいごはん、ありがたいことです。紙飛行機、孫と飛ばしっこしたことを思い出した。</p> <p>③地域の一般住民が5名参加された。 （以下、アンケートからの感想） ・戦争についてなかなか聞かれない、詳しい内容を聞くことができ、つらい気持ちでしたが、考える機会になりました。また、学ぶ機会があるといいなと思います。</p> <p>④視察者が宮城県生涯学習課より1名、青森県生涯学習課より2名参加。また宮城県庁職員の提案で、文部科学省の奨励賞を受賞したことを、参加者に紹介する場面を持つことができた。彼女自身も、「しろうさちゃん」として寸劇に飛び入り参加された。</p>
<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ ・アンケート結果（有効回答16） 「わかった」12名「こまった」0名「難しかった」4名「びっくり」0名「ふんばん」0名</p>
<p>※課題・その他</p>	<p>・戦争の話は、人によっては難しかったと感じられたようだった。 ・当事者も参加して歌のプログラムを実践するにはどうしたらよいか、事務局にて話し合った。 ・プログラムを二本立てにしたことでかなりタイトなスケジュールとなった。（講師陣のスムーズな運営と、当事者も皆で会場片づけを行ったことで、時間内に片づけを終えることができた。）</p>



⑧ 虐待が起きない地域を作ろう

日時：令和5年1月19日（木）10:00～11:50

場所：ひだまりホール 会議室5

講師：阿部和宏さん（アベカンパニー代表、介護福祉士）

小泉大輔さん（山元町社会福祉協議会、相談支援専門員）

【概要】

テーマ	虐待が起きない地域を作ろう
目的・内容	<p>虐待ってなに？どんなときにおきてしまうの？介護福祉の先生と一緒に、虐待のおきないまちづくりを一緒に考えていきましょう。</p> <p><講師より></p> <p>「虐待は悪いもの、悪い人がするもの」と、捉えてしまうこともあると思うが、誰もが弱い者にストレスをぶつけてしまうことはよくあることだと考える。それがエスカレートして、虐待につながってしまうので、一人で頑張りすぎない、抱え込み過ぎない。重大なことになる前に、ご近所さんや地域関係で、その人や家庭を支えあっていければ、少しでも虐待を減らしていけることができるのではないかとのお話します。</p>
プログラム実施状況	<p>10：00～ 開会・オリエンテーション</p> <p>10：05～ プログラム第一部：ぎゃくたいってなんだろう？（講師のおはなし）</p> <p>10：40～ 休憩（10分間）</p> <p>10：50～ プログラム第二部：グループワーク</p> <p>①グループ内で自己紹介</p> <p>①ストレスがたまってイライラして当たりたくなったらどうしますか？</p> <p>②ぎゃくたいをなくすためには、どんな地域になったらいいかな？自分でできることは何かな？</p> <p>11：15～ グループごとの発表・民生委員や関係機関スタッフの紹介</p> <p>11：30～ アンケート記入、次回予告など</p> <p>11：40～ 閉会、会場片づけ、終了</p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・講師は、ポラリスで当事者や保護者・スタッフ向けの研修経験もある介護福祉士・阿部和宏氏に依頼。また、やすらぎの管理者であり、サロン運営や、当事者への理解・対応について経験のあるやすらぎの小泉大輔氏も講師に迎え、2名体制とした。 ・町内関係機関にも参加を呼びかけたところ、町内相談支援事業や地域包括支援センターのスタッフも参加された。 ・前半の講和では、会場への掛け合いをしながら講和を進めることで、和やかに進められるよう工夫した。 ・ことばをなるべく簡単にする、イラストや例え話を多用するなどし、難しい言葉や内容をいかに易しく伝えられるかを工夫した。 ・後半のグループワークでは、当事者、保護者、関係機関、一般参加者を混在させたグループ分けとし、お互いに顔の見える関係となれるようにした。 ・休養できる個室を準備し、グループワークなど集団活動が苦手な当事者には、個室での活動も可能とした。

【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者14名・保護者5名・地域住民5名・民生委員10名・関係機関3名 ・取材1名・行政機関1名・講師2名・スタッフ9名</p> <p style="text-align: right;">合計50名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・当事者から寄せられた事前質問を参考に、講和の内容を検討した。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当事者14名が、会場設営や片付けを行なった。 ・当事者1名が、会終了後のアンケート集計に参加した。</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・講師の掛け合いに対して、当事者6名が自由に発言できた。 ・グループワークではほとんどの当事者が、自由に発言をすることができた。 ・グループワークで書記をしないと、自主的に手を挙げる当事者もいた。 ・グループを代表し、全体発表を担当する当事者も2名いた。</p> <p>④アンケートでは、以下のような感想が聞かれた。 ・虐待についてちょっと難しかったけど、ちゃんと自分で発表できたのでよかったです。 ・グループでいっぱい話げできた。 ・母とケンカをする時は私がおりにことです。すぐなかよくする。あんまりケンカをしないことです。 ・私の家では母は耳が聞こえないので、なかなか言葉で話せない。だからホワイトボードで書いて理解してもらうことになる。虐待になることもある。 ・虐待を防ぐためには、相談する場所で話す。自分のことは自分です。</p>



◆共感者・協力者を増やす

①地域より、民生委員10名が参加された。（障害者・高齢者部会のメンバーが改編となり、初参加の方も5名いた。）

（以下、アンケートより）

- ・現代社会に暮らす＝ストレスは大小なりあります。それを自分でどのように対応するかの問題とされます。そんなことを話し合えたのはよかったと思います。
- ・相談を受ける意見が聞けてよかった。今回初めて参加でとても勉強になった。
- ・地域との関わりの大事さ。声かけするにも数回で話してもらえるようになるのでは。。。なるほどと思いました。知りたかった「テーマ」ではあり、有意義な時間でした。
- ・虐待ってなにか？とっても良かった。一人で抱え込まない。声かけをする。
- ・お互いに顔を見ながら、お話しできる機会があることがとてもありがたいと思います。ポラリスのメンバーがどんどん自分の意見を発表できるようになっているのが、素晴らしいことだと思います。
- ・障害者の方が積極的に意見を述べているのが良かったです。今までの学びのおかげだと思いました。

②ポラリス保護者5名が参加された。また、今回初めてきょうだい（姉）の参加もあった。

（以下、アンケートからの感想）

- ・やっぱり難しい。虐待にもいろいろあるの。言葉に気をつけようと思う。
- ・地域は近所付き合いが大事なかなと思う。困ったときはみんなで協力して助けてあげることが大事な。（建売住宅でまわりはみんな70代。子供たちはほとんど家を出ているので）これからがたいへんかな。
- ・地域の人とお話ができ楽しく学ぶことができました。行政、役場が気軽に相談できるようになるといい。（雰囲気づくり）
- ・ひとりで問題をかかえないで、相談をする所はいくつもあるので、相談をして、問題を解決したい。

③地域内関係機関より3名が参加された。専門職同士が、地域の現状を共有し合う時間を持つことができた。

（以下、アンケートからの感想）

- ・皆様のストレス対処法も様々で、個別性を感じました。またそれに応じて何が資源として必要なのかも変わってくるため、いろいろな価値観や感じ方を知り、支援方法を検討していかなければならないと思いました。
- ・難しいテーマですが、「自分だったら…」と考えて、みなさんと話し合えて良かったです。虐待せずに済むような、優しい地域になるといいなと思いました。
- ・だれでもイライラすることがあって、それぞれの解決方法を持っている。解決方法を持っていない人が何か持っているといいと思いました。
- ・なかなか自分の気持ちを話せない人が、話したくなる時って、どんなだろうと思いました。

④地域の一般住民が5名参加された。中学生も事務局の補助として参加することができた。

（以下、アンケートからの感想）

- ・虐待を地域でなくする、、、各人が個人情報に触れない程度に関心を持つ（気にかけてみる）のが大事なかなと思いました。

⑤山元町保健福祉課より職員1名が参加された。窓口担当者として、当事者や保護者、関係機関など、参加者に紹介する機会を持つことができた。

◆ユニバーサルな学びの場となる	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果（有効回答33、複数回答可） 「わかった」23名「こまった」0名「難しかった」11名「びっくり」1名 「ふんぷん」0名
※課題・その他	<p><講師振り返りより></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の分野のひとたちだけが集まって行う勉強会と違って、当事者も関係機関も地域の人も、みんなが集まって顔を見ながら話ができるスタイルがとてもいいなと感じた。 ・会場との掛け合いを織り交ぜることで、参加者の雰囲気や都度感じながら講和を進行できたことが良かった。 ・分かりやすく伝えることや場を和ませること、勉強会としての内容を維持することのバランスをとることがすこし難しかったか。 <p><事務局より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークは会を重ねる中で当事者も慣れてきたと感じられる。いっぽうで、言葉で伝えるのが難しい当事者もいたが、今後そのような方は言葉にこだわるのではなく、イラストなどで表現しても良いのでは。 ・地域包括支援センターのスタッフとは、地域内に潜在する引きこもりへの対応などについて情報交換をすることができた。 ・初参加者も多かったが、和やかに進めることができた。



4 スローバ文庫&読書会

「ひろばポラリス」（当団体の新たな交流スペース）を活用し、地域の中に気軽にいつでも学べる環境をつくる。主に障害のある人を対象とし、当事者中心に少人数で主体的に学び合う場を企画する。月2回（全16回）開催し、当事者のエンパワメントと地域の中での持続可能な学びの場となっていくかを検証する。

（開催日）令和4年6月9日（木）～令和5年1月26日（木）の期間中、月2回を予定

（講師）スローバックス 代表 佐藤浩昭さん

丸森にあるロバのいる古本屋（古書店）。元消防署職員。その多彩な知識や価値をもって、本年度はスローバックス貸し出し文庫（毎月30冊）を「ひろばポラリス」に配置し、いつでも読書ができる環境をつくること、月2回の読書会と対話と学びの場の講師として、障害者と一緒に学びの場をつくることができた。

読書や対話が気軽にできる環境をつくることで、どんな成果が生まれるかを検証し、今後のプログラム開発につなげる。

①スローバ文庫

期間：令和4年7月～令和5年3月（設置日：7/21 入替日：9/8・10/18・12/8・2/9）

会場：ひろばポラリス

内容：季節や世の中の動きに合わせて、講師がセレクトした本（絵本や雑誌、漫画、写真集も含む）30冊程度を、ひろばポラリス内に設置。いつでも手に取り読書ができる環境が、障害者の生涯学習にどんな成果が生まれるかを検証した。（期間中4回、文庫の入れ替えを行った。）



成果/課題：本のセレクトにあたっては、講師が当事者に希望を聞かれ、漫画なども取り入れられるようになった。就労訓練の活動の合間などにひろばに立ち寄る当事者が、気軽に本を手にとっていた。当事者にとっては、漫画や料理に関する本が身近だった様子。今後は当事者が「図書がかり」を担当するなどし、お互いに本を紹介し合う時間や、皆で本を手にする時間があると、より主体的に本に触れることができるようになるのではと感じられる。

②スローバ読書会

期間：令和4年6月～令和5年1月のうち、毎月2回、計16回

会場：ひろばポラリス/ポラリス ※会場の都合により、一部日程で会場変更した

内容：参加者の特性に合わせ、講師の朗読を聴く、自ら朗読をするなど自由に役割を決めながら実施。本だけでなく、歌、詩や紙芝居、演劇、クイズなども織り交ぜ、当事者が楽しく参加できる方法を検討した。また講師が準備する「質問シート」を通じて、講師や地域住民との関わりの中で、自分の思いを自由に表現・発表する時間を設けた。

成果/課題：

●開催会場をひろばポラリスにしたことで、当事者にとっては日常の活動の延長として、安心して気軽に参加できるようになった。途中退席や休憩も取りやすくなった。近隣の事業所に通所する当事者も、自分の足で継続して会場を訪れることができていた。また、会場近隣に住む地域住民が、散歩がてら訪れることができるようになった。会場の都合により、急遽オンライン配信にチャレンジしたこともあったが、どのような環境下でも、当事者が安心して参加できる体制を検討し続けることができた。

●アットホームで、いつ・誰が参加してもよい、どの参加者の・どんな発言でも否定されない環境、講師のプログラムへの工夫により、地域の一般参加者も継続して関わるできるようになった。

●コンパクトな会場、人数としたことで、スタッフの目も行き届きやすくなったため、事前準備や受付、実施後の報告書作成などの業務を当事者と共に行うことができ、より主体的に当事者が運営に参加できるようになった。

●本だけでなく、絵本や写真、歌や詩に触れる時間、クイズの出題、質問シートなど、講師の様々な工夫により、当事者が飽きずに楽しく参加できるようになった。

●動植物や家族、民話などのテーマは当事者にもなじみ深く、主体的に楽しく参加できていた反面、「差別」など社会的なテーマには難しいといった感想、また「詩」を創作する時間は、その場がないものをイメージすることが難しく、苦手意識を持つ当事者が多かった。

① 平和について考えてみよう

日時：【第1回】令和4年6月16日（木）13:00～14:30

【第2回】令和4年6月23日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	平和について考えてみよう
内容	<p>平和ってなんだろう。ウクライナとロシアに関する絵本を読んでみよう。</p> <p><参考図書></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「へいわとせんそう」「おおきなかぶ」「茶色の朝」「火は早めに消さない」と ・「死んだ男の残したものは」「てぶくろ」「はちみついろのうま」「火は早めに消さないと」
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 声を出して絵本を読んでみよう 朗読「へいわとせんそう」 朗読「おおきなかぶ」 3) 「茶色の朝」から学べることってなんだろう？ ・茶色の朝を迎えたくなければ・・・？ ・クイズ：戦争が〇〇の奥に立っていた→廊下 4) 質問シートで考え話し合おう・発表しよう —休憩（10分）— 5) 朗読「火は早めに消さないと」 <p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) メンバーによるウクライナの絵本「てぶくろ」の朗読 3) ベトナム戦争について ・なぜ戦争が起きた？戦争ではどんなことが起こっていた？ ・ベトちゃんドクちゃん ・写真家：沢田教一「安全への逃避」 4) 反戦詩「死んだ男の残したものは」を読んでみよう・聴いてみよう 5) 質問シートで考え話し合おう・発表しよう ・詩と歌を聴いた感想 ・平和ってどんなことかな？ 6) ウクライナの絵本「はちみついろのうま」の紹介 7) 「火は早めに消さないと（後半）」を朗読 8) まとめ・質問シートへ記入 9) ゲスト・津田先生のトーク&ライブ What a wonderful world/それいけアンパンマン
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばポラリスにて小規模開催。 ・参加も強制ではなくし、個別に出欠を尋ねるようにした。 ・スライドなどの資料は作り込まず、皆でその場で作り上げる形にした。 ・一方的な話だけではなく、クイズ形式で伝えたいことを伝える。 ・2週連続開催のため、参考図書の朗読も次週に持ち越し、次が楽しみになるような工夫がされた。 ・屋外に、視察者との交流スペースを設けた

【成果】

<p>◆楽しく 学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者17名・地域住民2名・大学生1・講師／関係者2名・視察者3名 スタッフ 4名 合計 29 名参加</p>
<p>◆当事者が 主体的に 学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・事務局担当の当事者1名が、講師との事前打ち合わせに参加。今年度の企画の方向性について皆で考え合い、評価方法等について意見を述べる事ができた。 ・出欠について個別にメンバーに聞いたところ、自分の興味関心に合わせて出席するプログラムを決める事ができていた。 ・とくに、理解が難しいと思われていた知的障害のメンバーや、集団行動が苦手と思われた発達障害のメンバーについても、プログラムのなかのキーワードを見て、自分の好きな話題や気になるプログラムを選んでいった。 ・プログラム中の朗読の場面では4人の当事者)が参考図書を1冊ずつ朗読した。 ・当事者2名が、視察者のご案内を行い、大学生と交流する事ができた。 ・当事者1名が、会終了後の事務局振り返りに参加。ひろばで初開催したことについては違和感があった。また、忘れやすい障害特性のため、次回の最初に振り返りがあるとよいと、意見があった。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・スローバ文庫設置のための本棚組み立てに参加。(5名) ・当日の会場設営に参加。(10名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・関係機関からの視察者に対し、お茶出し・接客を行った。(2名)</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ 1) 講師の投げかける問いに対して、自由に言葉を発する事ができた。 ・「へいわとせんそう」で伝えたかったことは、敵も味方も同じ人間ということ。 ・茶色い朝にはなりたくないな。 ※講師の出題したクイズに対しては、多くの当事者が活発に意見を出し合っていた。</p> <p>2) 質問シートの問いに対して、発言や文章で伝える事ができていた。 (戦争はなぜ起きる?) 武器があるとおこる 国と国の対立 黒人／白人 (戦争が起きるとどんな影響ある?) ひとが殺される 勉強できなくなる 建物が壊される食料問題 物価が上がる 日常が送りづらくなる 争いが連鎖する 收拾がつかなくなってしまう (戦争といえば？漫画／映画) 漫画「はだしのゲン」 映画「7月4日にうまれて」 アニメ「ガンダム」 ドラマ「なだそうそう」 映画「二十四のひとみ」 (詩と歌を聴いて) わたしが歌の主人公になったかもしれない。戦争はなくそう。戦争は絶対にいけません。戦争は何も残さない。この歌は、最後は希望があると感じた。 (平和ってひとことていうと?) ひろしま・ながさき・おきなわ。戦争がないこと。戦争がなくて、日常生活が送れること。 家族・友人と美味しくご飯が食べれること。</p> <p>3) 次回のテーマについて、自由に発言する事ができた。 ・憲法の話は前にもきいたことがあります</p>

<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ (アンケートより) ・楽しかった：4名・よくわかった：9名・難しかった：6名・悲しかった：6名 ・困った：0名</p> <p>(自由記述より) ・世界の平和は必ず守ってほしいと思いました。(当事者) ・毎日TVで戦争場面を見ていたが、自分のこととして考えるきっかけになりました。(一般) ・絵本のつづきが気になった。戦争の愚かさを改めて感じた。(当事者) ・国の偉い人たちが間違えたことを思ったりしたりすると戦争になると思いました。(当事者) ・ニュースとかあまり見ていないので、ロシアとウクライナについてのことがわからないので、なるべくニュースを見たいと思いました。(当事者) ・今戦争をしているウクライナとロシアのことを取り入れて勉強できたのでよかった。戦争が大変なことになることがわかってよかった。(当事者) ・ウクライナ、ロシア、悲しかったです。(当事者) ・死んだ男の残したものは、いい歌でした。(当事者) ・今日の勉強はためになったが、戦争とか死んでしまったら何もできないんだなと思った。(当事者) ・楽しかったので、居眠りできるくらいのお話でした。生活していても、何も残せない。(当事者) ・初期消化が大事と火事でも言われますが、戦争やケンカも一緒なんだと感じました。一つの罪を許すと二つの罪が許されるっていいなと感じました。(当事者) ・私がこの歌の主人公だったらとっても生きてられないと思います。とっても戦争をなくそう。(当事者) ・ウクライナ、ロシア、悲しかったです。(当事者) ・戦争をすると建物が壊されたり人が死ぬので、やめるべきだと思います。(当事者)</p>
<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより) ・シート取り組みの時間を確保してもよいのでは？ ・話す時間と書く時間の両立が難しい。どのように2つを捌いていくか？ ・質問内容はむずかしいものと簡単なものを二つ用意したことがよかった。 ・国道の騒音が気になった。→マイク使用？会場設営に工夫が必要？ ・白板をもっときれいにかけたらよかった。→座って書くと良い？ ・クイズはもう1問あってもよかった。 ・会場は14人でもいっぱいだった。 ・質問シートはみなしっかり書いていて、とても真面目な姿勢。 ・内容が難しかったか。一般参加者が多い想定で準備したが、蓋を開けてみると、ほとんどがポラリスメンバーで、理解が難しい方もいた。 ・話が止まらない参加者がいる中で、他の参加者にも話を振ることの難しさ。→事務局側である程度仕切ることも必要。 ・高齢のメンバーが参加していることで、昔の戦争の話も出てきてよかった。 ・クイズは今回も食いつきが良かった。 ・ベトナム戦争について、皆の理解が追いついていたか？ ・前回と比較すると、ほぼメンバーだけで安心感があつたのでは。 ・ポラリスではゆるく継続できることのメリットがあるのでは。 ・耳からの情報に集中することのよさ。視覚に頼らない。</p>

② 憲法って、なんだろう？

日時：【第1回】令和4年7月7日（木）13:00～14:30
 【第2回】令和4年7月21日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	憲法って、なんだろう？
内容	<p>どんなことが書いてあるのだろう？憲法改正は必要？難しく考える必要はないよ！ <参考図書> 「けんぼう」「憲法って、なんだろう？」「いいこってどんなこ？」 「たっちゃん ぼくが きらいなの」「さとうきび畑」「なきむし せいとく」 「想像してごらん 戦争のない世界を」</p>
プログラム 実施状況	<p>【第1回】 1) オリエンテーション 2) 「世界に一つだけの花」の歌詞を読んでみよう ・参加者による歌詞の輪読 3) 絵本「けんぼう」のおはなし 井上ひさしさんと考えよう ・憲法とは？個人の尊重とは？ 4) 日本国憲法の3つの基本原理について ・日本国憲法—世界と比べてみたら？ 5) 絵本「憲法って、なんだろう？」を読んでみよう 6) 質問シートで考え、話し合おう。発表しよう。 ・「世界に一つだけの花」を読んでみて ・「個人の尊重」について感じたこと —休憩— 7) 参加者による、絵本「いいこってどんなこ？」の朗読 8) 絵本「たっちゃん ぼくが きらいなの」の朗読 9) 振り返りシートへの記入・まとめ・次回予定</p> <p>【第2回】 1) オリエンテーション ＊スローバ文庫にリクエストしてみよう 2) 「さとうきび畑」の歌詞を読んでみよう、歌を聴いてみよう ・参加者による歌詞の輪読 「ざわわ」：戦没者たちの魂の声 3) 「なきむし せいとく」の紹介・沖縄言葉の紹介 4) 前回の振り返りについて 5) 質問シートで考え話し合おう・発表しよう① ・自分の性格を教えてください 6) 憲法の三大義務ってなんだろう？ 7) 絵本「憲法って、なんだろう？」を読んでみよう —休憩— 7) 「日本国憲法」いつ、どのようにして作られたの？憲法改正について 8) 質問シートで考え話し合おう・発表しよう② ・防衛費はみんなの暮らしのために、どんなことに使ったらよい？ 9) 振り返りシートへの記入・まとめ</p>

工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・ひろばポラリスにて小規模開催。 ・参加も強制ではなくし、個別に出欠を尋ねるようにした。 ・ワイヤレスマイクを設置。 ・会場設営を工夫 ・場が和むように、前座でカラオケを実施 ・参加者に馴染みのあるJ-POPの歌詞を輪読した ・当事者も参加しやすいクイズを設けた。 ・板書が見やすいように、講師が事前に板書内容を画用紙に準備し、貼り出す形にした。 ・なじみの歌を聴く場も設けた（難しい憲法の話が続いて疲れないように配慮） ・板書が見やすいように、講師が事前に板書内容を画用紙に準備し、貼り出す形にした。 ・嫌厭しがちなテーマだが、「朝ドラ」や馴染みの歌など、日常的な話題と絡めてプログラムを進行した。 ・スローバ文庫の約半分を入れ替えた。また、今後読みたい本について、参加者からリクエストを募った。
-----	--

【成果】

◆楽しく学ぶ	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者 15名・地域住民 4名・講師 2名・大学生 3名・関係者 0名 ・視察者 0名・スタッフ 5名 <p style="text-align: right;">合計 29名参加</p>
◆当事者が主体的に学ぶ	<p>①当事者が企画に参加できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム中の朗読の場面では2人の当事者が参考図書を朗読した。 ・プログラム中の輪読の場面では当事者を含む参加者全員（12名）が歌の歌詞を朗読した。 ・当事者1名が、事務局として実施後振り返りに参加。客観的な感想を述べていた。 <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の会場設営に参加。（13名） ・当日の受付事務を担当。（2名） ・休憩時にお茶出しを行った。（3名） <p>③当事者が主体的に発言できたか？</p> <p>1) 講師の出題するクイズに対し、6名が自由に答えることができていた。</p> <p>2) 質問シートの問いに対して、全員が発言や文章で伝えることができていた。 （世界に一つだけの花を読んで。あなたの好きな花は？） いくらえらい人でも万引きしてはいけませんよ。 この歌は好きです。わたしはひまわりが好きです。 何度も口ずさんでいた歌だけど、今回、とても深い歌なんだと思った。今日ここに来たので知ることができた。 ナンバーワンにならなくても、オンリーワンがいいというのが良いと思いました。 好きな花は、チューリップと白い薔薇。 一人ひとり性格も個性も違うから、それがいいと思います。好きな花は桜です。 競争ばかりでは疲れてしまう。オンリーワンの考え方ができれば、良くなるかも。 好きな花は桜。 花はなんでも好き。桜と薔薇が好き。ナンバーワンはちょっと難しいね。 この歌は特に好きだったわけではありませんでした。好きな花はひまわりです。 私の好きな花は薔薇です。棘があってなかなか折れないので。 花が一番になる必要はないから、たくさんの花があると思うんです。 その中でわたしは桜を選びました。</p>

<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>(個人の尊重について感じたこと、絵本の感想など)</p> <p>バニーと同じ気持ちになりました。 ひとにはいろいろな性格、個性があって、尊重して、そしていろいろなことを分かち合えるようになりたいです。 良い子って、そのままの自分でいいというウサギのお母さんにホッとしました。 憲法について勉強しましたが、理解できないこともありました。憲法で武器を持ってないことになっている、戦争のない、平和な日本を維持していきたいです。 憲法は難しいと目をそらしていたが、わかりやすく説明していただきました。 戦争があるけれど、どうにかして、戦わずになんとかできる方法を提案するのが日本の役目では？と考えました。 たっちゃんはアンテナが壊れてしまって、自分の意見を言えなかった。共存は、一人一人を認めることです。 母親の愛情が大事なんだと思いました。 たっちゃんの話を読み、ちょっと悲しいです。 バニーの最後の話「あなたらしさ」には少し違和感を感じました。「じぶんらしさ」とは誰が決めるの？他人の評価？</p> <p>(防衛費5兆4千億円を、みんなの暮らしのためにどんなことに使ったら良いと思うか？)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社や作業所の数を増やしてほしい。 ・国民の生活費に使った方が良くと思う。 ・消費税引き下げ、消費税を上げてほしくないです。 ・物の値段が高いので、下げてほしい。 ・社会保険料をもう少し下げてほしい。 ・山元町にはバスがあるけど、亶理町にはないので、バスがあってほしい ・国保引き下げ ・被災地応援を続けて行う ・コロナ対策をしっかりと ・水・電気・ガス料金・ガソリン・電車料金の引き下げ ・町のバス路線を増やす
<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一般参加者1名より、このプログラムにコメントをいただいた。 <p>「ここに来ると、皆を認め合おうとする雰囲気があるので、ほっとするなと思いました。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサル学習の参加者が、友人1名を連れて初めて読書会に参加された。 <p>「こぐまサロン、いつも楽しく参加しています。今日は難しいテーマですが、わかりやすいお話です。」</p> <p>「近所に住んでいるので、お散歩がてらまた来たいです。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リピーターである一般参加者が、当事者の名前を覚えられ、プログラム中に談笑される様子が見受けられた。



<p>◆ ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ (アンケートより/複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった：3名・よくわかった：7名・難しかった：6名・悲しかった：3名 ・困った：0名 <p>(自由記述より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認め合って、共に生きることは簡単で難しいと思います。でも、歩み寄ることをするのは大事だと思います。(当事者) ・憲法、平和について世界中で理解深めてほしいと思った。私たちにできることはなんだろうか。(一般) ・憲法の話は久しぶりで、頭にまとめるのが大変だった。(当事者) ・尊重しながら、みんな生活していること、一人ひとりが認めていること(当事者) ・日本の防衛費が約5兆4千億円と聞き、驚きました(当事者) ・楽しかった。(一般) ・戦争のない生活を目指して取り組んでいる方がたくさんいると思うが、難しいですね(一般) ・憲法の勉強をしたけれど、なかなか理解が苦しかった(当事者) ・ちょっと難しかったです(当事者) ・自分自身性格はなかなか言えないし、難しかった。今日の話聞いて、お金の話は自分も含めていろいろ悩みがあるんだなと思った。憲法改正はしない方がいいと思った。(当事者) ・やっぱり戦争はいけないと思っています。(当事者) ・憲法が改正して、戦争になったら嫌だなと思った。自衛隊は自ら戦うのではなく、自らを衛る部隊であってほしいです。(当事者) ・憲法について考えることは難しい、でも勉強しなくてはと思います。(一般)
<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者の生育歴などで、価値観も多様だなと思った。 ・初参加の地域住民が2名いた。 ・一般参加者より「すごく良い時間」との感想が聞かれた。また、当事者を知る機会にもなっていると思われた。 ・一方方向で話すのではなくて、結論を出すのではなくて、もやもやしながら話し合うことが哲学のテーマではと思った。 ・内容への共感だけでなく、参加者から「違和感がある」と忌憚なき意見が出る事もよい。 ・進行がなだらか、聞いている参加者も、乗りやすい。小グループに別れないことで、進行が分断されない良さがある。 ・小規模になったことで、リラックスできるし、聞きやすい、集中しやすくなった。 ・講師が参加者の名前を覚えてくれていることもありがたい。 ・次回について：なるべくわかりやすく、歌も取り入れながら。 ・会場内の音はかなり聞きやすくなった。 ・小規模開催なので、質問や感想を皆に聞けるようになったのは良かったが、話すことが苦手な人にとっては辛いかな？ ・事前に「板書シート」を準備してくると、真剣にメモしてくれる参加者が多い。 ・2ヶ月終わって、慣れてきた。憲法は一番の難題だったが、何とか基礎知識から始まり、9条や憲法改正について話せた。 ・メンバーからは、改憲に対する意見も聞かれてよかった。 ・質問シートからは、参加者それぞれに「暮らし」や「地域」に対するアイデアや要望がたくさんあるのだということがわかった。 ・2週間に1度のペースだと、準備も少し大変。だけど、講師としても勉強になるので、苦ではない。 ・今回は時間の都合で絵本の朗読は省いたが、沖縄復帰50年も含めて、沖縄戦の絵本を紹介した。 ・スローバ文庫ではこういったものが人気か、リクエストあれば聞いておいてほしい。

③ 星野道夫さんと旅してみよう

日時：【第1回】令和4年8月4日（木）13:00～14:30
 【第2回】令和4年8月18日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス

講師：スローバブックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	星野道夫さんと旅してみよう
内容	<p>星野さんってどんなひと？アラスカにはどんな野生生物がいるのだろう？ 写真家である星野道夫が撮影したアラスカの自然と動物を見ながら、星野さんの文章を読む。</p> <p><参考図書> 絵本「アラスカたんけん記」 絵本「クマよ」「ちいさなりょうし タギカーク」 単行本「星野道夫 永遠のまなざし」 写真集「星野道夫」「悠久の時を旅する」</p>
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅原克己さんの詩を（巨理町出身の詩人・セタにちなみ）それぞれ2行ずつ読む ・星野道夫の生涯を紹介 ・「アラスカたんけん記」を読み、カリブーの生態やアラスカの厳しい自然と他の動物たちを紹介 ・好きな季節をそれぞれ話す ・写真集でアラスカのさまざまな動物たちを紹介 ・絵本「クマよ」を読む <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菅原克己さんの詩「たからもの」を読んでみよう、聴いてみよう（巨理町出身の詩人） *メンバー5名が交代で詩を朗読。 ・星野道夫さんの生い立ちや、彼が撮影した動物の写真の紹介 ・アラスカの民族文化についての紹介 ・「星野さんと動物」クイズ ・熊に襲われたときの真相とは？（人間による餌付け行為があった） ・質問シート①小さな頃の「たからもの」って？ 記入と発表 —休憩— ・講師による、絵本「ちいさなりょうし タギカーク」の朗読 ・質問シート②星野さんの人生やアラスカの自然について感じたこと 記入と発表
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者も増えたのでコロナ対策として、ひろばポラリスと所内をオンラインでつないで分散して開催。 ・参加も強制ではなくし、個別に出欠を尋ねるようにした。 ・ワイヤレスマイクを設置。 ・メンバーが理解しやすいよう、写真をふんだんに用いて、動物やアラスカの暮らしについてわかりやすく説明された。 ・星野さんと動物とのやりとりにまつわるクイズを出題し、楽しく学べるようにした。

【成果】

<p>◆楽しく学 ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者 20名・地域住民 2名・講師/関係者 2名・保護者：4名 ・実習生 1名・スタッフ 4名</p> <p style="text-align: right;">合計 33名参加</p>
<p>◆当事者が 主体的に学 ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・普段サロンに参加できない動物が好きなメンバーが、今年始めて参加でき、積極的に発言できていた。 ・星野さんの写真集を紹介する際は、感嘆の声を上げながら、皆惹きつけられるように見入っていた。・メンバーからいくつか自発的な質問があった。 ・受付を担当しているメンバーが、自分の役割として責任を持って仕事をしている姿があった。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当日の会場設営に参加。(11名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・休憩時にお茶出しを行った。(1名)</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・質問の答えとして、好きな季節をどうして選んだかをとても丁寧に答えていた。 ・講師の問いかけに、3名が自由に発言する様子があった。 ・メンバーや参加者からからいくつか自発的な質問があった。 ・質問シートに記載した内容を、はっきりと発表することができた。</p>
<p>◆共感者・ 協力者を増 やす</p>	<p>・午前中の保護者カフェに参加した方が、午後の朗読会も4名参加された。 ・地域の方が「ふらっと寄ってみたんだ～」と参加された。 ※実習生が参加。以下の感想をいただいた。 ・メンバーの、自分の意見を持ち、それを発表する力をすごく感じた。 ・講師の手作り感あふれる、温かい雰囲気の読書会を体感することができた。 ・大友さんのアート展では動物の面白い話を聞けて、今日は動物や自然の厳しさを知ることができました。</p> <p>※地域からのリピーター参加者からは以下の感想をいただいた。 「新しい情報をたくさん知ることができて感謝です。講師の優しい声が心に響きました。」</p>



◆ユニバーサルな学びの場となる

「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？
(アンケートより／複数回答可)

- ・楽しかった： 11名・よくわかった：3名・難しかった： 9名
- ・悲しかった： 3名・困った：0名・無記名：2名

(自由記述より)

- ・ちょっと内容が難しかった。
- ・いい本を選んでくれて店長さん、いつもありがとうございます！
- ・カリブー ムース タテゴトアザラシなど聞いたことのない動物が多かった。
- ・星野道夫さんのいい話でした

- ・聞き逃すとわからなくなる。よく聞いて理解する事だと知りました。
- ・星野道夫さんの行動よくわかりました。アラスカのいろいろな動物の写真を見て厳しい自然の中で一生懸命生きているんだなと思いました。
- ・立派なことだと感じました。

- ・アラスカ＝動物のイメージがあったが、植物もきれいだね。しばらくの読書会で、聞けてよかったです。
- ・自然や動物たくさんいるアラスカで、とても寒いところだと知りました。(クイズが難しかったです)

- ・徐々に自然と動物の話が聞けて良かった。アラスカは自分の好きな場所の一つなので、取り上げてもらえたのが良かった。
- ・アラスカの動物や自然が素敵でした。好きなクマに襲われて亡くなったと言うことが悲しかったです。

- ・星野道夫さんのことが多少わかりました。ブラザー軒を少しわかりました。
- ・一寸、あまり理解が出来ず難しかった。クマやホッキョクグマを見て可愛かったと思いました。

- ・大自然の中で暮らしていたのだなと思いました。
- ・熊に襲われたり自然の恐怖に晒されたり、厳しい環境だったと感じました。

- ・人間に慣れたいた熊だから。星野さんは写真家だから、熊が来ても逃げなかった。
- ・星野さん、動物とか自然が好きなんだと思った。
- ・星野道夫さんが撮った動物の写真が素晴らしいと思った。

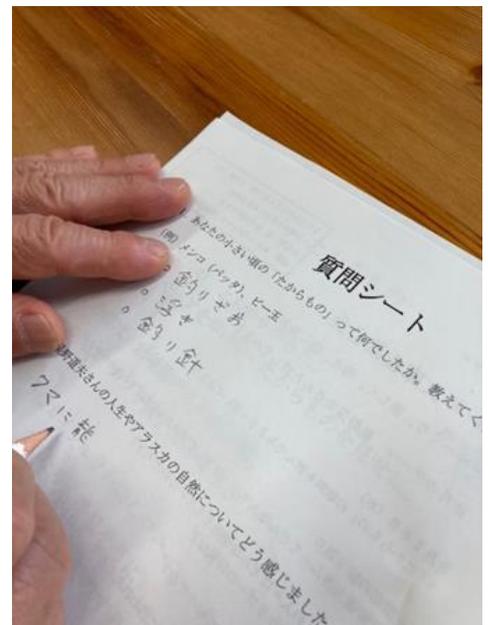
- ・大好きな熊に襲われて亡くなったのは残念です。自然は自然のままが良いんだと感じました。
- ・「たからもの」の歌の歌詞が良いと思いました。星野道夫さんについても多少分りました。「小さな漁師カギカーク」が良い話だなと思いました。

- ・写真は自然を写した。
- ・ヘラジカに追いかけられるとか、ヒグマに襲われたり、動物とか、魚とか、とって生きているんだなと思った。

- ・自然があるのがアラスカなんだと思った。
- ・ちょっとむずかしかったです。
- ・エスキモーの暮らしがしてみたいです。でも大変だろうな・・・

- ・星野道夫さんとくまでたたかってなくなりました。それがかなしかったでした。
- ・信念をとことん追求すると、前に進む道が開いて、協力してくれる人にも出会えて、充実した人生につながると感じました。

<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンラインでゆったりした場所でなら参加できるメンバーがいるので、今後もオンラインで繋げて実施したい。 ・メンバーの中で、オンライン途中の操作（ミュート／ミュート解除など）をできる人材を育てると良いかもしれない。 ・説明に集中すると、講師が一方向的に語りかけてしまうため、どれくらい理解できているか不安。 →優しく、丁寧な語りなので、十分なのでは。 →逆に、参加者から質問を受けるかたちでも良いのでは？ ・話題をさまざま取り揃えてきたが、それが逆に難しかったかも？しかし話題を絞りすぎても、時間が余ってしまって、考え物。 ・「小さなころのたからもの」の問いは、年代さまざまな参加者から幼い頃の暮らしを想像する時間となり面白かったのでは。 ・動物の写真は、皆とっつきやすく見入っていてよかった。 (語りだけでなく、写真や歌を交えて工夫した) ・前はオンライン開催の課題があったが、今回は対面でできたのでよかった。
----------------	--



④ 敬老の日 家族って何だろう？

日時：【第1回】 令和4年9月8日（木） 13:00～14:30
 【第2回】 令和4年9月22日（木） 13:00～14:30
 場所：ポラリス
 講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	敬老の日 家族って何だろう？
内容	おじいちゃん・おばあちゃんそして家族について考えてみよう <参考図書> ・画集「丸木スマ展」「グランマ・モーゼス展」 ・絵本「もりのおとぶくろ」「はじまりの日（ボブ・ディラン）」「ちょっとだけ」
プログラム実施状況	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大きな古時計」の歌詞を讀んでみよう、聴いてみよう *メンバー6名が交代で詩を朗読。また歌にまつわるエピソードの紹介 ・丸木スマさん/モーゼスおばあさんのお話（生い立ちや絵画の紹介） ・質問シート①おじいちゃん・おばあちゃんの思い出 記入と発表 <p>—休憩—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による「もりのおとぶくろ」朗読 ・質問シート②自然の中で好きな音はなに？ 記入と発表 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「のびろのびろ だいすきな木」の詞を讀んでみよう、聴いてみよう *メンバー8名が交代で詩を朗読。感想の発表。また、昨日の駅ピカピカ活動の感想の発表。 ・「はじまりの日」の歌詞を讀んでみよう *メンバー8名が交代で詩を朗読。 ・講師による絵本「はじまりの日」朗読、感想発表（これからチャレンジしたいこと） ・質問シート①お父さん・お母さんはどんなひと？ 記入と発表 <p>—休憩—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による絵本「ちょっとだけ」朗読 ・質問シート②自然の中で好きな音はなに？ 記入と発表 ・質問シート③感想 記入
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加も強制ではなくし、個別に出欠を尋ねるようにした。 ・体調に合わせて途中休憩も自由にとれるようにした。 ・絵本の中から、参加者の世代に合わせたクイズを出題した。 ・講師準備のレジュメは少なくし、参加者から話題を引き出す形にした。



【成果】

◆楽しく学ぶ	①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者 17名 ・地域住民1名 ・講師 2名 ・スタッフ 5名 合計 25名参加
◆当事者が主体的に学ぶ	①当事者が企画に参加できたか？ ・「家族」というテーマに関心の高いメンバーが数名いた。 ②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当日の会場設営に参加。(2名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・実施後のアンケート集計補助を担当。(2名) ③当事者が主体的に発言できたか？ ・絵画を見た感想を自由に発言する様子があった。 ・質問シートに記載した内容を、はっきりと発表することができた。 ・質問シート以外に、講師から質問のあった話題（「昨日の山下駅ピカピカ活動について」、「これからチャレンジしたいこと」）、自由に感想発表することができた。 (ピカピカ活動) ・「細かい汚れがたくさんあって大変だった」・「今朝、階段がきれいになってた」 (これからチャレンジしたいこと) ・「料理。肉じゃが。」・「楽器。昔はロックがすきだった」
◆共感者・協力者を増やす	①休憩時にポラリスにて今月企画している「山下駅ピカピカ大作戦」について発信したところ、地域からのリピーター参加者は、関心を寄せてくれた。



◆ユニバーサルな学びの場となる

「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？

(アンケートより/複数回答可)

- ・楽しかった：7名・よくわかった：5名・難しかった：3名・悲しかった：1名
- ・困った：1名・無記名：1名

(自由記述より)

①おじいちゃん・おばあちゃんの思い出は？

- ・いつも田舎に行くと、蚊帳の中でおばあちゃんと寝たりしました。
- ・おばあちゃんと上野動物園にパンダを見に行きました。
- ・おばあちゃんを自分の車で病院に連れていったり、そのご褒美にガソリン代をもらった。
- ・みんなで温泉に行ったりした。
- ・母の実家にいると、子どもたちがたくさんいたが、自分にも声をかけてくれた。家の中の中心で采配を振るっていた。
- ・戦時中、田舎に疎開した。食糧など苦労した。
- ・小さいころ、おじいちゃんおばあちゃんの畑があり、一緒に農作業していました。
- ・おばあちゃんは畑仕事したり、味噌や漬物を手作りしたり、和裁が得意で縫物を教わったりしました。
- ・おばあちゃんは少し長生きしました。・いっしょに遊んだ。

②自然の中で好きな音は？

- ・滝の音(落ち着くから)
- ・たまに深山に登る。鶯、セミ。季節の移り変わりを感じる。
- ・夏にセミの声を聴いて、ほんとに夏の気候だと感じました
- ・田んぼ、かえる、音、夏の音
- ・昔、サーフィンをしていたので海の波の音が好きでした
- ・滝の音。心が洗い流される感じがするから。
- ・西に駅があるのに、東に聞こえる電車の音。反響があるのか。

③お父さん、お母さんはどんな人ですか？どんなところが好きですか？

- ・父は農家の小作人に生まれたから仕事ができると優しい人です。
- ・お母さんは少しかっぱつな人ではなく普通です。
- ・冗談が好きで明るい人たち。
- ・両親とも厳しい人でした。あまり好きではなかった。
- ・お父さんは優しい人でした。一生懸命働いているところが大好きでした。
- ・お父さん 少し厳しい人。病気で療養中。お母さん 余計なことを言わない人。
- ・お父さんはふつうがんこ。お母さんはふつうやさしいひと。
- ・お父さんは趣味が家庭菜園で休みのときは畑ばかりです。母は毎日自分のために料理をちゃんと考えて作ってくれます。
- ・二人とも色々優しいところです。

④あなたは何人兄弟ですか？兄弟・姉妹の思い出をちょっとだけ教えてください。

- ・一番上の姉が高校のとき少林寺拳法を習っていたので、なんとなく怖く感じました。
- ・二人兄弟で、仕事は介護の仕事をしています。10年以上同じ仕事を続けて頑張っています。
- ・二人兄弟。兄はぼくのことめんどろ見してくれたひとです。やさしい人です。
- ・二人妹はちょっと前まで空港で働いていていろいろな空港のことをしていたり沖縄が好きで私も沖縄につれて行ってくれたりする妹です。焼失する前のしゅりじょうに連れて行ってもらった。今は別の仕事をしています。今は離れて一人暮らしをしています。
- ・姉一人。やさしさ。ヤマザキパンで働いています。
- ・私が長男で下に弟が二人います。時々けんかをしました。
- ・兄とふたり。面白い遊びを考えるひょうきんなところがある人。
- ・私長男。次男、長女、妹、三男。4人兄弟妹。

<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>⑤感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うさぎたちとおばあちゃんとぶなの木の絵本。ぶなは長生きしていたんだと思いました。 ・戦争の出来事は絵本を通していつまでも伝えることができ、いつまでも忘れることはできない。 ・平井堅のうたをきいて、いい曲でした。 ・東日本大震災で、運悪く津波でなくなってしまいかわいそうでした。 ・物事を始めるのに、遅い早いはないんだと思いました。うさぎたちはおばあちゃんが好きでかわいいなと思いました。だからぶなじいも最後、うさぎたちに幸せな気分になったと思います。 ・話を聞いているとき、体調が悪くなった。 ・昔の人は何を思って絵を描いたのか？ <ul style="list-style-type: none"> ・ちょっとだけでもきいて、なっちゃんがえらいなと思いました。 ・それぞれのメンバーさんの両親のこと兄弟のこと、色々わかりました。 ・のびろのびろ大好きな木の歌を聴いて、いい曲でした。 ・家族のことを書くのは緊張したり、むずかしいと思った。 ・家族のことを書くのはちょっと難しかった。 ・兄弟仲良く日常生活を送らなければだめだと思いました。 ・母が亡くなったばかりで、考えました。 ・なっちゃんのお母さんに男の子が生まれてお姉ちゃんになったから甘えていられなくなった、なっちゃん。
<p>※課題 ・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつもは一方的に語り続けてしまう傾向があるので、ゆったりと進めた。 ・絵本を読んだり、絵を見たりと、頭を使うよりも目で見て感じる内容も良かったのでは。 ・メンバーもいつもに比べ少人数だったので、時間も気持ちもゆとり持って参加できたのでは？ ・体が痛くて途中退席するメンバーがいたが、体調に合わせて自由に参加できる環境も良かった。 ・「家族との思い出を振り返る」という問いは、障害の有無にかかわらず、皆にとって考えやすかったようだ。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつもは講師がしっかりと掲示物等を準備されるが、今回はそれがなかったので、メンバーそれぞれのエピソードを引き出すことができたと思う。 ・検診や疲れ等から、眠気に襲われるメンバーも多かったが、休養も自由にとれるゆったりとした体制だったのがユニバーサルで良かったと思う。 ・兄弟に関しては、思い出やエピソードを抵抗なく発表される方が多かったと感じる。 ・スタッフとしては、今回のテーマによって、メンバーそれぞれの家族に対する想いについて知ることができた。

⑤ 詩を読んでみよう・詩を書いてみよう

日時：【第1回】令和4年10月6日（木）13:00～14:30

【第2回】令和4年10月20日（木）13:00～14:30

場所：ポラリス

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	詩を読んでみよう・詩を書いてみよう
内容	<p>「秋の唱歌」を読んでみよう <参考図書>・絵本「最初の質問」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨木のり子さんの詩を読んでみよう ・詩ってなんだろう 詩について考える ・詩を書いてみる <ol style="list-style-type: none"> ①秋といえば・・・連想したものを書いてみる。 ②連想したものから2つ選び、さらに連想する言葉を書いてみる。 ③「秋」をテーマに詩を書いてみる。
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「秋の唱歌」を読んでみよう ＊参加者が持ち回りで「赤とんぼ」「里の秋」「もみじ」の朗読。詩から思い浮かべる情景を自由に発言しあった。 戦時中に作られた「里の秋」のエピソードの紹介&合唱。 ・質問シート①あなたの好きな歌を教えてください 記入と発表 ・講師と参加者による絵本「最初の質問」朗読、感想の発表 ・質問シート②「最初の質問」を2つ選んで答えてみよう —休憩— ・講師による絵本「ちょっとだけ」朗読 ・質問シート②自然の中で好きな音はなに？ 記入と発表 ・質問シート③「最初の質問」の中で一番印象に残ったもの 記入 ・今日の感想記入、次回予告 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茨木のり子さんの紹介 茨木さんを知っているメンバーは居なかった。 代表作「私が一番きれいだったとき」「寄りかからず」 『詩は「生る」もの。』・・・茨木さんの言葉を紹介。 ・「秋」と言えば・・・連想する言葉を書く。講師の例をそのまま書く人もいたが、圧倒的に焼き芋や豚汁などの食べるものが多かった。 ・詩というものがどういうものかわからず苦戦するメンバーもいたが、よく聞いて考えている様子も見受けられた。 —休憩— ・詩を書いてみる。 テーマは「秋」だが、自由となると筆が止まるメンバーと、かまわず書けるメンバーとに分かれた。
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・予定していた会場（ひろばポラリス）がアート展会期中であるため、ポラリス所内にて実施。 ・参加も強制ではなくし、個別に出欠を尋ねるようにした。 ・体調に合わせて休憩も自由にとれるようにした。 ・質問シートの質問は、初めて自分で選ぶ形式に。

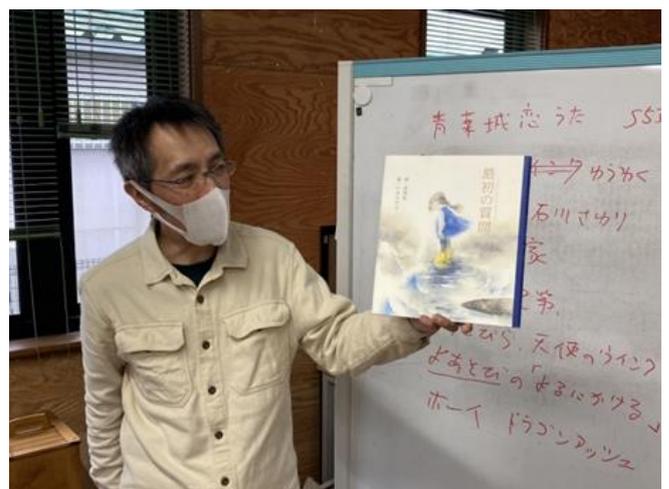
【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者 16名 ・地域住民 1名 ・講師 2名 ・スタッフ 4名 ・実習生 2名</p> <p style="text-align: right;">合計 25名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>①当事者が企画に参加できたか？ ・質問シートの質問を自分で選ぶかたちで、企画に参加できた。 ・俳句を自ら考え発表するメンバーがいた。いきいきとしていた。</p> <p>②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当日の会場設営に参加。(6名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・実施後のアンケート集計補助を担当。(4名)</p> <p>③当事者が主体的に発言できたか？ ・講師の問いかけに自由に回答 ・講師から質問のあった話題(「昨日の屋台ポラリス活動」について)、またその他プログラムに関する質問にも自由に感想発表することができた。 ・講師の持ってきた昔の写真集を見て、自分の小さい頃の話を語っていたメンバーも居て、昔の生活の話をその場の皆で共有した。 ・俳句の得意な地域の方が参加し、メンバーに俳句について説明してもらい、メンバーがその場で即席で俳句を作り添削してもらった。</p>
<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>・工房地球村よりリピーター参加者1名。 ・精神保健福祉士実習生1名参加。 「みんなが比較的すぐに参加できて、すごいと感じました。自分で選択して自分で思っていることを言葉にできていることも良い方向だと思いました。」</p> <p>・ポラリス支援者でもある地域の方が1名参加し、とても喜んでメンバーと交流していた。 ・「新しく発想する」というところが難しいのだと思った。型がある方が分かりやすい。メンバーにより経験値が大きく影響すると思った。 たとえば知っている曲「ぞうさん」に合わせて替え歌をつくろう、というのであればできるかもしれない。</p>



<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ (アンケートより／複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった：9名・よくわかった：1名・難しかった：6名 ・悲しかった：1名・困った：0名・無記名：0名 <p>(自由記述より)</p> <p>【第1回】</p> <p>①あなたの好きな歌は何ですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めだかの兄弟(わらべ)、どんなときも(槇原敬之)、全部抱きしめて ・瀬戸の花嫁、津軽海峡冬景色、黒猫のタンゴ、ブルーライトヨコハマ ・tomorrow never knows、クロスロード、終わりなき旅、イノセントワールド、栄光の架け橋、サウダージ ・青葉城恋歌・夏の扉、天使のウインク・夜に駆ける(YOASOBI) ・心という名の不可解(Ado)・ろまん飛行・ゴールデンマイク ・トビスキ・グレイトフルデイズ・カリフォルニアドリーム <p>②「最初の質問」から質問を選んで教えてください。 →皆、2~3問の質問を自分で選び、それに回答することができていた。</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・風はどんなにおいがしましたか？→さわやかな風。あまい風。 ・あなたにとって、いい1日とはどんな1日ですか？→嫌なことがなく1日が終わること。 ・「うつくしい」とあなたがためらわず言えるものは何ですか？→美しくせいそな花束あるいはおいわい用にあげる花束。 ・樹木を友人だと考えたことがありますか？→若くして不運の事故で亡くなった友人のことを思い出しました。 <p>③感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤とんぼを見て、自分も小さい頃歌っていたなと思いました。 ・ちょっと難しかったです、詩の印象にわかってきました。 ・里の秋、きよくきいていんしょうでした。 ・ちょっと難しかったです2 ・問いかける問題が多くて難しかった。 ・好きな歌と聞かれると、どれが良いか迷うなと思いました。「最初の質問」は色々考えさせられました。 <p>【第2回】</p> <p>①秋と言えば何を連想しますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかせんべい、おたべ、やきいも、くりごはん、りんご。 ・子供の頃、栗ご飯を美味しくいただいて良かったなあとと思いました。子供の頃、甘がきを食べて美味しかった。 ・運動会、日本シリーズ・さつまいも、紅葉、夕日、くだもの(ナシ・リンゴ) ・お米、柿・芋煮、はらこめし、スポーツ(運動会)・豚汁、柿、おちば、紅葉 <p>② ①で書いた言葉から2つ選んで、さらに連想する言葉を書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くりごはん→しんまいのおこめ ・サンマ…脂ののった感じで美味しかった。脂っこかった。 ・運動会…徒競走、騎馬戦 日本シリーズ…日本一決定戦セ・パ1位で通過した球団 采配 ・紅葉…もみじ、かえで、いちよう、赤、オレンジ、黄色 ・夕日…赤い(オレンジとグラデーション) ・お米…白い、柿…しぐい、オレンジ、丸い ・豚汁…お肉たっぷり、はくさい、サトイモ、ごぼう、キャンプ
------------------------	--

<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>③感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩はなかなか思い浮かばなかった。 ・何が詩なのかそれが分からないので考えた言葉が文章が詩なのかどうか分らず難しかったです。 ・詩を書くのが難しいけど、楽しかった。茨木のり子さんの生き様がかっこ良かった。 ・椅子の背もたれだけにしか、寄りかからないと、人にも寄りかからない。 ・初めて詩を書いたので、ちょっと難しかった。 ・茨木のり子さんの話聞いていい勉強になりました。 ・楽しい時間を有難うございました。勉強にもなりました。 ・今日のテーマで俳句を作りました。作っていて、昔のことなど思い出しました。
<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「質問を自分で選ぶ」という初の試み、少し難しいかと思ったが、皆スラスラと書くことができ驚き。 ・メモする力もついてきたと思う。 ・質問シートの質問が曖昧で、複数の問いも含まれるので、答えづらさがあったかも ・詩を書くのが難しかったメンバーもいるが、皆がんばっていた。 ・素直に自分の気持ちを書いてくれていた。 ・俳句の鈴木さんが入ったことで、良い風が吹いた。場が締まった気がする。俳句を次々考えだしたメンバーも居て、良かった。 ・講師が白板に書いた詩の「柿」を「米」に置き換えて書いたメンバーがいて、面白かった。 <p>課題は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・詩とは何か、もっと詳しく深く掘り下げて説明すれば良かった。専門家ではないため、深くは説明できなかった。 ・質問シートが詩を書くことにうまくつながったかどうか、分からない。



⑥ 差別について考えてみよう

日時：【第1回】令和4年11月10日（木）13:00～14:30

【第2回】令和4年11月24日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	差別について考えてみよう
内容	<p>【第1回】キング牧師の言葉から「黒人差別」を考えてみよう 【第2回】真珠湾攻撃後の在日日系人の強制収容について</p> <p>参考図書： 「あなたがもし奴隷だったら・・・」 ジュリアス・レスター文、ロッド・ブラウン絵「リンカーン」 「キング牧師のカブよいことば」 ドリーン・ラパポート文、ブライアン・コリアー絵 「ローザ」ニッキ・ジョヴァンニ文、ブライアン・コリアー絵 「東洋おじさんのカメラ」文-すずきじゅんいち、榊原るみ、絵-秋山泉</p>
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「奴隷制度」について（リンカーン、南北戦争など）参考図書とともに紹介。 ・「アメーzing・グレイス」の紹介、歌を聴いてみよう ・キング牧師の紹介、講師による「キング牧師のカブよいことば」朗読 ・質問シート①好きな言葉を教えてください <p>—休憩—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による「キング牧師のカブよいことば」朗読のつづき ・質問シート②どうして差別はあるのでしょうか？ ・質問シート③今日の感想の発表 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「日系人」とは？「一世」「二世」とは？ 真珠湾攻撃後の日系人の処遇（差別、収容所での生活）の紹介 ・講師による絵本「東洋おじさんのカメラ」の朗読（前半） ・質問シート①もし自分が収容されることになったら、何を持っていきますか？ <p>—休憩—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師による「東洋おじさんのカメラ」朗読（後半） ・質問シート②絵本の感想の発表 ・質問シート③今日の感想の発表
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・「差別」という難しいテーマだが、質問シートでは「好きな言葉」など、わかりやすい・取り組みやすい質問で参加しやすくした。 ・キング牧師というひとりの人生の絵本を用いて、奴隷や差別についてわかりやすく理解できるようにした。 ・皆に馴染みのある「アメーzing・グレイス」を聴くコーナーも。 ・講師が過去に実施したことのある図書を再び取り上げることで、スムーズに進行できるようにした。 ・メンバーがなじみやすいよう、皆が好きな「猫」目線の絵本が参考図書に選ばれた。

【成果】

◆楽しく学ぶ	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者 16名・地域住民 4名・講師 2名・スタッフ 5名 合計 28名参加</p>
◆当事者が主体的に学ぶ	<p>①当事者が企画に参加できたか？ 俳句を自ら考え発表するメンバーがいた。いきいきとしていた。 ②当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当日の会場設営・片付けに参加。(12名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・実施後のアンケート集計補助を担当。(2名) ③当事者が主体的に発言できたか？ ・「差別」というテーマについて、自身の経験(いじめや、学歴、病歴による差別)を発表されるメンバーもいた。 ・感想や来年度のプログラムへの希望、期待などを自由に発言していた。</p>
◆共感者・協力者を増やす	<p>・町内他事業所より当事者1名、地域から3名がリピート参加。 「ここに来て、知らないことに触れて、素直な心で学びたい」と語られていた。 ・来年度のプログラムについて、「仕事の悩み事(人間関係)の解決法」について学びたい、と積極的に意見を出していた。 ・中学生が初参加され、体調に合わせて途中退出も可能とした。</p>
◆ユニバーサルな学びの場となる	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ (アンケートより/複数回答可) ・楽しかった：3名・よくわかった：4名・難しかった：6名・悲しかった：3名 ・困った：1名・無記名：1名</p> <p>(自由記述より)</p> <p>①好きな言葉を教えてください。 ・急がば回れ。(急がないで、じっくり腰を据えてことに当たれ) ・せっさたくま・差別かんむりょう・すなおな心・継続は力なり ・好きこそもの上手なれ(好きなことをすると、楽しいし、うまくできるから)</p> <p>②どうして「差別」はあるのでしょうか？ ・勝ちたい、得たい、自分が他より上と思いたい人がいるから。自分と違うところを探して上下を考えたりするから。 ・素晴らしい話を伺ったあとに自分を振り返ると虚しい。長く生きてきたけど、まだ「愛こそがあらゆる問題を解決できる鍵」と気がつくことができません。 ・いじめは人のわる口でなかまはずれことでした。 ・人間の野心</p> <p>③感想 ・英単語が少しあり勉強になりました。愛の大切さがわかりました。 ・人種差別、男女差別、いい話で勉強になりました ・奴隷問題について長い歴史を知ることができました。 ・戦争が起きない世界になってほしい</p>

<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？ (アンケートより/複数回答可)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった：2名・よくわかった：4名・難しかった：10名・悲しかった：0名 ・困った：0名・無記名：0名 <p>(自由記述より)</p> <p>①もし自分が収容されることになったら、何を持っていきますか？。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出のある写真、水、薬、目薬、時計 ・筆記用具、ブランケット、玉虫ぬりのオルゴール (母の形見) ・食料品、衣類品、ぬいぐるみ <p>②絵本の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼い猫のミュウの存在が心の支えになっているのだと思いました。 ・ねこちゃんかわいかった ・自由って大事だなと思いました。 ・その先には、悲しい出来事が起きるとは思いもよらなかった。東洋おじさんの生き様は、中にはつらいこともあったんだなと思いました。 ・カメラで自由に写真を撮ることは禁じられていた。自由は大事。 ・カメラを押すのも許可が必要、自由がなかった。 <p>③感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やはり戦争は怖いものだなと思いました。自分が初めて働いた会社に日系ブラジル人も働いていて、結構日本語が話せていたので驚きました。 ・東洋さんはカメラマンだということのを全うしたひとですね。 ・差別はとてもよくない行動だと理解できたと思います。戦争は良くないと思います。 ・戦争は建物や人命を無くすことなのでやめるべきです。 ・みゅうは収容所でユージさんにかわいがられ、最後に一緒におじさんにかつてもらってミュウも良かったと思う。みゅうの気持ち幸せになった。
<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばで皆を魅了したキング牧師にちなんだ質問を用意した。それぞれのメンバーの好きなことばが違うので面白かった。 ・地域からの一般参加者やメンバーの中には前のめりで食いついてくる方も。 ・メンバーの発表が早口で聞き取れないことばもあった。 →「もう一度、ゆっくりお話ししてください」とお願いしてOK。 ・キング牧師の絵本は、明瞭完結に描かれているので、難しいテーマだがわかりやすい。 ・質問②については、質問の意図を読み取って問いに答えられる方と、自分の経験談にすり替わってしまう方とに分かれた。 ・皆が素直、素朴なところの持ち主であると感じられる。



⑦ 昔話や民話に触れてみよう

日時：【第1回】令和4年12月8日（木）13:00～14:30

【第2回】令和4年12月22日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス/ポラリス/合戦原学堂

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	昔話や民話に触れてみよう
内容	<p>かさじぞう/山元の民話について</p> <p>参考図書：「かさじぞう」瀬田貞二 再話、榊原るみ、赤羽末吉 画 「復興と民話 ことばでつなぐ心」石井正己・やまもと民話の会 編 「とうほく民話散策」佐佐木邦子著 紙芝居「としがみさまとおもち」小野和子作、西村達馬画</p>
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山元町の民話を読みます 「狼の恩返し」「お托井戸」 ・講師による絵本「かさじぞう」の朗読 ・質問シート①大みそかの思い出を教えてください <p>—休憩—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者による「かさじぞう」の朗読 ・質問シート②今日の感想の発表 <p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 参加者による「かさじぞう」の劇の披露 *かさじぞうから参加者へクリスマスプレゼントタイム 2) 紙芝居「としがみさま」を読みましょう *講師がナレーション、参加者が登場人物のセリフを担当し、皆で発表。 3) 質問シート①「もち」の思い出を教えてください：記入と発表 4) 講師による、東北の民話「大松原より小松原、短気は損気」の朗読 5) 質問シート②今日の感想の発表 6) 次回予告など
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもの会場の「ひろば」が工事中のため、ポラリスにて開催。 ・他の施設外就労に参加予定のメンバーも、仕事のスケジュールに合わせて途中退席可能とした。 ・質問シートの問いは、だれにとっても考えや思い出を語りやすいようなテーマで、知的障害の参加者も自分の意見を文字や言葉で表現することができていた。 ・メンバーも参加する朗読劇「かさじぞう」は、以前にも取り上げたことのあるテーマ。メンバーにもなじみのあるものとした。また、次回のクリスマス会企画と抱き合わせで発表会の場を設けることにした。 <ul style="list-style-type: none"> ・ポラリスのクリスマス会と抱き合わせで開催。読書会スタート前には、参加者とクリスマス弁当を楽しんだり、「かさじぞう」のプログラムにあわせてプレゼントタイムを準備した。 ・参加者が多かったため、合戦原学童にて初開催。メンバーも積極的に会場設営に参加していた。 ・1年間の成果として、参加者が「かさじぞう」を発表するプログラムをメインとした。本番に向けて、当事者は朗読の練習を重ねていた。 ・また、お正月が近いこともあり、「もち」にまつわる紙芝居の朗読プログラムも実施。出演者をその場で募り、講師と共に、当事者や保護者、一般参加者が朗読を披露することができた。

【成果】

<p>◆楽しく学ぶ</p>	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者 24名 ・地域住民 6名 ・保護者 3名 ・講師 2名 ・スタッフ 9名</p> <p style="text-align: right;">合計 44名参加</p>
<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>① 当事者が企画に参加できたか？ 「かさじぞう」の朗読劇に、全員参加することができた。</p> <p>① 当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？ ・当日の会場設営・片付けに参加。(23名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・実施後のアンケート集計補助を担当。(4名)</p> <p>① 当事者が主体的に発言できたか？ ・感想や来年度のプログラムへの希望、期待などを自由に発言していた。 ・当事者が自主的に朗読のプログラムに参加していた。 ・マイクを向けると、質問シートの内容や感想、講師への感謝の気持ちなど、それぞれが自分の言葉で伝えることができた。</p>
<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>・地域よりリピーターの参加者が2名。朗読劇にも積極的に参加された。 ・午前の親カフェに参加した保護者3名、一般参加者2名、傾聴ボランティア2名が読書会にも参加された。 食事や朗読劇など、存分に楽しまれたようだった。</p>



◆ユニバーサルな学びの場となる

「学びやすい」「参加しやすい」「多世代が学べる」内容であったか？

(アンケートより／複数回答可)

- ・楽しかった：23名・よくわかった：3名・難しかった：1名・悲しかった：0名
- ・困った：0名・無記名：0名

【第1回】

(自由記述より)

①大みそかの思い出を教えてください。

- ・友人たちとテレビを見ながらアルコールをのみ楽しく遊んでいました。
- ・外の掃除をする。お風呂の掃除をする。おかず運びをする。
- ・いつも大みそかは寝正月でした。餅も5～6個程度食べて、紅白歌合戦を見て、あとは寝るのがお正月。
- ・大みそかは神棚に拜んだり、紅白歌合戦を観たり、年越しそばを食べていました。
- ・私の親の実家は魚をもらったりしました。あとはヒトデをもらったりします。
- ・紅白と年越しそば。12月31日に竹駒神社に行こうとするけど混んでいてあきらめる。
- ・神棚の掃除は父がするが、その助手をしました。
- ・神棚の掃除など。正月の用意。小さい時は、夜中起きていられなくて年越しそばを食べられなかった。正月になってから食べた。
- ・紅白。神棚。門松。おせち料理を作る。早く夕食を用意して、皆で食べる。元朝参り。輪どおし：神様の通り道。
- ・お父さんと、お母さんと、お手伝いします。

②感想

- ・傘地蔵への優しさを感じました。もっと優しく出来ればよいと思いました。
- ・餅を食べる。まどの掃除をする。歌合戦をみる。
- ・年齢的に、勉強も運動もできなくなったお年寄りです。なかなか理解できず難しかったです。
- ・おじいさんやおばあさんの優しさなど、いい話を聞いて良かったです。
- ・本に、楽しかったです。
- ・絵本の中身は奥深く、教えられることがたくさんありました。大みそかを思い出し、省略している日々を反省。できることをやってみようと思いました。
- ・小さい時、テレビで日本昔話を見ていたのを思い出しました。
- ・おじいさん、おばあさんの優しさが伝わりました。
- ・おじいさんが雪の中のお地蔵さんに傘をかぶせたり、いい話だなと思いました。
- ・たまに甥っ子と姪っ子にお年玉をあげたりした。

【第2回】

①「もち」の思い出などを教えてください。

- ・しょうゆときなこ、のりと、なっとう、あんこ、ずんだ、いそべやき、大根もち、おしるこ、お雑煮、おしょうがもち(おすすめ!)、蒸し焼き
- ・昔は自宅で餅つきをして、切り餅やそなえもちを作りました。今は全て買ってきます。懐かしい思い出になってしまいました。
- ・うすときねで餅つきしました(幼稚園や家で、おばあちゃんが生きてたとき)
- ・ピザのようにフライパンに敷いて、野菜を刻んで、チーズものせて
- ・食べきれないお雑煮を、外に出して「しみどうふ」に
- ・こどものころは餅つき待ち遠しかった、楽しかった。

*どんなお雑煮？

- ・鶏とかまぼこが入っている。・なるとやせりやこんぶが入っていた。
- ・いくらをトッピングします。・昔はハゼのだして、小さい頃こたつの隅で焼いて使いました。・お雑煮に餅を入れるのきらいだ

<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>(感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役になりきって、頑張ってみんなを楽しませてくれた。 ・みんな協力して話しているのがよくわかりました。笠地蔵素敵でした。紙芝居は楽しいです。 ・皆さん上手にできました。楽しそうでした。初めての参加でした。 ・みんなの朗読が色々聞けたのでよかったです。自分もナレーションやりました、緊張しました。 ・このような読書会があってよかったです。 ・笠地蔵ではおじいさん役やったんですけど、ちょっと緊張しました。 ・音読が聞けて楽しく思いました。 ・プレゼントと昔話聞いて、クリスマスとても楽しかったです。 ・読んでもらうのが楽しい。お地蔵さんがプレゼント持ってきてくれたのは面白かった。 ・クリスマス会も兼ねて賑やかで楽しかったです。まさおくんをするのが大変でした。 ・朗読に参加し楽しく行うことができました。餅の歴史を知ることができ、ありがとうございました。 ・最初は緊張したけど、うまくできました。 ・久しぶりに本を読んだので、緊張した。
<p>※課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい」という感想が多くてよかった。皆で朗読をすることも楽しかったのでは。 ・「かさじぞう」の参加者による朗読の際、だれも嫌がることなく、それぞれが自ら挙手し、スムーズに配役が決まったことに感動した。 ・山元の民話は難しかったかもしれないが、このような話が残っていることを紹介したかった。 ・朗読劇は全員参加型とすること、また発表の場を設けることで、皆のモチベーションが上がっていたと感じられた。 <p>・午前中に開催していた「親カフェ」から継続して読書会まで参加される方が多く、参加者は過去最高の30名となった。</p> <p>・それに伴い急遽、合戦原学童に会場を移したが、当事者が会場準備／片付けにも参加し、いつもと違う会場でもスムーズに開催することができた。</p> <p>・クリスマス会と抱き合わせで、みんなが楽しく参加できたようでよかった。</p> <p>・質問シートの取り組みは、質問がわかりやすかったからか、皆スラスラと書けていた。もちやお雑煮にまつわる皆のくらしの思い出を聞いて、運営側も楽しかった。</p>



⑧ 自分自身を知る（自分自身の持ち味・良さを発見しよう）

日時：【第1回】令和4年1月5日（木）13:00～14:30

【第2回】令和4年1月26日（木）13:00～14:30

場所：ひろばポラリス

講師：スローバックス店長 佐藤浩昭

【概要】

学習テーマ	自分自身を知る（自分自身の持ち味・良さを発見しよう）
内容	<p>「願いごとリスト」今年、やってみたいことを書いてみよう 牧野富太郎さんについて 「植物学の父」牧野富太郎さんの人生を紹介します</p> <p>参考図書： 「ピーターラビットのふるさとをまもりたい」作・画：ビアトリクス・ポター 「草木とみた夢」文：谷本雄治 絵：大野八生</p>
プログラム 実施状況	<p>【第1回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 「願いごとリスト」 ・今年やってみたいことを10個書く。・発表する。 3) 講師による、ビアトリクス・ポターの紹介と、「ピーターラビットのふるさとを守りたい」の朗読 4) 振り返りシート①「何をしている時の自分が好きですか？」（好き）記入と発表（休憩） 5) 振り返りシート②「今までの人生で、自分でいちばんよくできた、と思うことは、何ですか？」（得意）記入と発表 6) 振り返りシート③「もっとやりたいと思うことは、何ですか？」（大事）記入と発表 <p>【第2回】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) オリエンテーション 2) 牧野富太郎さんについて ・生い立ちの紹介 ・植物学への目覚め、「植物学の父」学者としての研究活動について ・好きなこと：草、木、花 ・得意なこと：絵を描くこと 3) 講師による、「草木とみた夢」の朗読 4) 質問シート①「あなたの好きなお菓子は？」記入と発表 5) 講師による、「草木とみた夢」の朗読（つづき）と、富太郎クイズ①（休憩） 6) 講師による、「草木とみた夢」の朗読（つづき）と、富太郎クイズ② 7) 振り返りシート②「あなたの好きな植物は？」記入と発表



工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・新年初開催で、「今年やりたいこと」を考える内容だった。今年目標を考えることと合わせて、自分の好きなことや得意なことを振り返る内容を通して、自分の人生の方向性を考える内容にもなった。 ・集団が苦手な参加者も、別室にて質問シートの内容に取り組めるようにした。 ・卯年にちなんで、ピーター・ラビットの作者について触れる内容だった。 ・課題図書なかで、さりげなく、環境保護やジェンダーなどの社会問題にも触れられる内容だった。 ・当事者や一般参加者にもおなじみの、朝の連ドラの主人公がテーマとなった。 ・講師の朗読の合間には、「牧野富太郎クイズ」がふんだんに盛り込まれた。参加者は積極的に発言し、飽きることなく会に参加できるような工夫があった。 ・質問シートは「好きなおかしや草花」など誰でも答えやすい内容だった。 ・2月2日の成果報告会の予告を行い、皆への参加協力を求めることができた。
-----	---

【成果】

◆楽しく学ぶ	<p>①障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当事者 16名 ・地域住民 2名 ・保護者 0名 ・講師 2名 ・スタッフ 5名 <p style="text-align: right;">合計 25名参加</p>
◆当事者が主体的に学ぶ	<p>① 当事者が企画に参加できたか？ 講師が企画を検討されたが、来月の成果報告会に向けた打ち合わせなどには</p> <p>① 当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日の会場設営・片付けに参加。(14名) ・当日の受付事務を担当。(2名) ・実施後のアンケート集計補助を担当。(2名) <p>① 当事者が主体的に発言できたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問シートの発表以外に、地域の参加者の方に向けてお礼を言うことができた。 ・マイクを向けると、質問シートの内容や感想、講師への感謝の気持ちなど、それぞれが自分の言葉で伝えることができた。
◆共感者・協力者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・地域よりリピーターの参加者が1名。 ・地域の方が自分の思いを皆に話し、メンバーと共有した。



<p>◆ユニバーサルな学びの場となる</p>	<p>アンケート集計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たのしかった 11名 ・よくわかった 1名 ・むずかしかった 5名 ・かなしかった 0名 ・こまった 0名 <p>◎「願い事リスト 今年やってみたいことを10個書いてみましょう」という設問には、以下のような記入がありました（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく怒らないようにする。 ・アメリカに行ってみたい。 ・震災で亡くなった祖母に会いたい。 ・お母さんが元気になってほしい。 ・一人で山形の山寺に仙山線に乗って行きたい。 ・鉄道の絵をいっぱい書きたい。 ・コロナが落ち着いたらJRの青春18切符で出かけたい。 ・今、ペーパードライバーなので、少しずつ練習して運転できるようになりたい。 ・北海道に行きたい。 ・飛行機に乗ってみたい。 ・旅行に行ってみたい。 ・コパさんに会ってみたい。 ・コロナを世の中から消してみたい。 ・自然のきれいなところに行ってみたい。 ・（ユーチューバー夫婦の出身地）岡山県へ旅行をしてみたい。 ・水族館に行きたい。 ・園芸をもっとしたい。 ・絵をもっと描きたい。 ・いつもの散歩を去年より長く35分ぐらい歩くようにしたい。 ・甲子園に行ってみたい。 ・刺身を食べてみたい。 ・オートバイを運転してみたい。 ・プレゼントを贈りたい。 ・お父さんが長生きしてほしい。 <p>◎何をしている時の自分が好きですか？熱中して、時間があっという間に過ぎ去ってしまった、ということがありましたか？（好き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本を読んで夢中になって時間があっという間に過ぎ去ったことがありました。 ・刺繍を頑張りました。 ・ウォーキングに夢中になった。 ・絵や刺繍をしていたら、1日経ってしまった。 ・イラスト描きや本読みやゲームをして ・寝ている時、熟睡している時間。 ・昔サーフィンをしていた時、いい波が来て波に乗っていた時。 <p>◎自分でいちばんよくできた、と思うことは何ですか？（得意）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事で一番長く働いて、賞状もらった事。 ・料理が一番よくできた時 ・高校の時、パイ生地からジャムパイやミートパイを作ったとき ・体育の授業で跳び箱の台上前転ができたとき ・GRA掃除がよくできました。家の掃除もできました。 ・箱折です。
------------------------	--

◆ユニバーサルな学びの場となる

◎もっとやりたいと思うことは、何ですか？（大事）

- ・絵本を読書会で聞く事。
- ・もっと刺繍がしたい。
- ・家の掃除に整理整頓、料理。
- ・何かわからないけど、何かにつながるようにしたい。
- ・もと絵を上手になりたい。
- ・お風呂掃除を丁寧にやりたい。
- ・もっと園芸と絵描きをやりたい。

②感想

- ・題目の通りにできれば良いなと思いました。
- ・私は現在78歳で自分のやりたいことはなく、1日1日、やすらかに過ごしたいと思います。
- ・ピーターラビットを詳しく知れて良かった。
- ・今年のやってみたいことを書くのが少し難しかったです。
- ・なかなかやってみたいことは、思っても考えがつかなかった。

◎質問①「あなたの好きなお菓子は？」の回答（抜粋）

- ・おはぎ、ティラミス、チョコレート
- ・かっぱえびせん、ポッキー、肉まん、しょうゆだんご
- ・ロールケーキ、たいやき、あんまん、プリン、レモンのタルト
- ・まんじゅう
- ・ショートケーキ、シュークリーム、だんご、チョコレート、パフェ
- ・いちごケーキ、コーヒーゼリー、あんぱん
- ・ぼたもち、ずんだもち、ピーナッツチョコ
- ・かりんとう、でんろく豆、のどあめ、大福

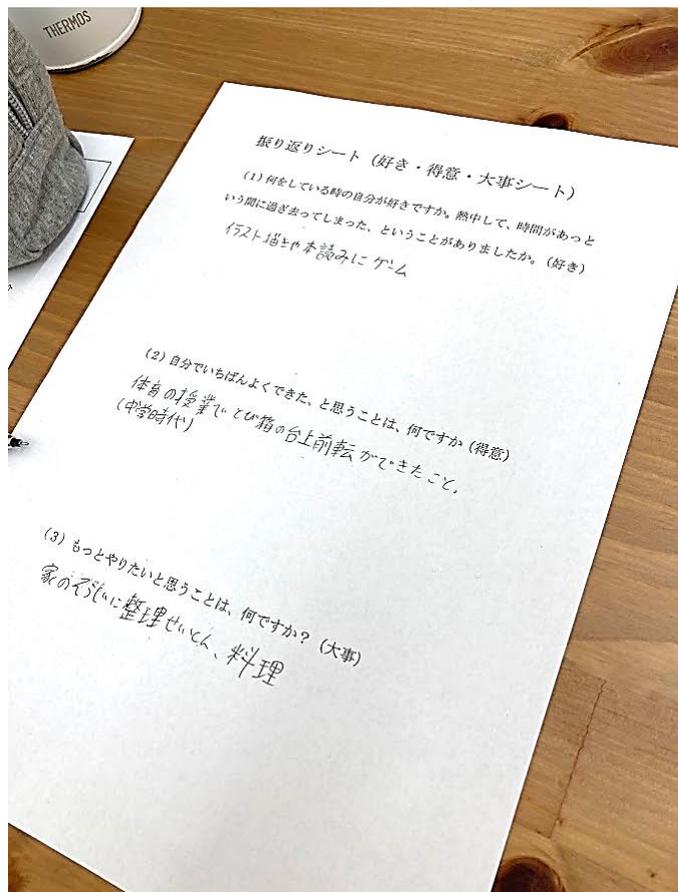
◎質問②「あなたの好きな植物（草・木・花）は？」

- ・野菊、たんぽぽ、いちよう、あじさい、チューリップ、すいせん
- ・びわ
- ・たんぽぽ、チューリップ、ガザニア
- ・ラベンダー、ひまわり、コスモス
- ・チューリップ、ひまわり、さくら、パンジー、ふきのとう、あじさい
- ・さざんか
- ・かたくり、ニリンソウ、ショウジョウバカマ
- ・うめ、さくら
- ・チューリップ、ばら、ひまわり

◎感想

- ・富太郎とスエの出会いがまんがみたいでよかった。美男美女でびっくり
- ・牧野富太郎さんがカッコいい人だとわかりました。
- ・志を強く、目標を目指すと、支えてくれる人が集まる。植物に対する気持ちが服装に現れていて感動した。
- ・牧野さんのストーリーを知ること、今後のTVが楽しみになりました。
- ・がんばりました。
- ・30回も引っ越ししたり、こどもさんが13人もいたり、あと、こどもさんが亡くなったりして大変だったんだなどおもった。植物採集が好きなんだなどおもった。
- ・牧野富太郎さんの話を聞いて、いい話でした。クイズがたのしかったです。
- ・植物学の父は、子だくさんでした。本にすることは大変苦労していた。
- ・みんなが真剣になってお話を聴いたり、質問に答えたり、良かったです。牧野富太郎博士の好物はくだもの、トマト、牛肉。

<p>※ 課題・その他</p>	<p>(事務局&講師の振り返りより) 【今年度の企画について】 ・自分のペースで企画を検討することができた。一方で、月2回の開催は少し頻度が多く、準備が大変だったかも。(講師) ・企画することで、自分自身のためにもなる。(講師) ・企画内容は講師にほぼお任せだったが、過去数年にわたって継続開催していたため、信頼して企画実施をお願いできた。(事務局) 【今回の企画について】 ・自分の夢を自由に書く内容だったので、スラスラとシートに取り組めている方が多かった。 ・一方で質問内容が多かったため、時間が押してしまい、感想の記入/発表の時間を取ることができなかった。</p> <p>・(主に知的障害の方) 質問シートや感想の記入は、隣同士でお互いに見合う傾向があり、同じ内容になってしまいがち。席を離したら良いか?それでもよしとするか? ・開催の前後で、成果報告会に向けた準備を進めることができた。当事者や地域からの参加者にも協力を呼びかけることができ、講師とスタッフ、当事者や地域住民が参加型で、これから作り上げていく。</p>
-----------------	---



5 親カフェ

令和4年 令和5年
《全5回》 6/9 8/4 10/6 12/22 3/23 10:00~12:00 @ひろばポラリス

自分もポラリスの活動に参加するようになって、いち主婦だったのが、世界が広がって、楽しい。こどもの障害についてもようやく周囲に話せるようになった。

「親カフェに継続して参加することで、障害福祉について興味感心を持って勉強するようになった」と、自身の変化を語る参加者がいた。



「医療的ケア児」普段あまり接点のない障害について、またその家族の苦労や可能性について知る機会となった。

「ケアする人のケア」が大切であることについても、保護者に伝えることができた。

他の保護者の「楽しいことを考えて寝る。」というアドバイスを実践している。
→保護者にとってもサロンや親カフェに参加することで、ポジティブに変化できるきっかけとなっている。



午後のクリスマス会に参加され、みんなで歌を歌った。

6 成果発表会

(ICTを活用した成果発表)

日時：令和5年2月2日（木）10:00～11:50
 場所：ひだまりホール 会議室5



【概要】

テーマ	山元こぐまサロン 成果発表会
目的・内容	今年度のサロンの3つのプログラムについて、参加者自身が振り返り、報告を行うことを通じて、障害のある人もない人も、参加者が皆で作り上げる成果報告会とする。また、学びの振り返りを行う場とする。
プログラム実施状況	<p>10:00～ 開会・オリエンテーション</p> <p>10:05～ 山元町生涯学習課 伊藤課長よりごあいさつ</p> <p>10:10～ ①ユニバーサル学習<こころ・からだ>の報告 (ポラリスメンバー&スタッフ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うんこの保健室」 ・「踊りのワークショップ」 ・「こころをおだやかに～おしょうさんのトーク&ライブ」 ・「音楽を楽しみ、学ぶ～うたで学ぼう平和のこと～」 <p>10:45～ ②ユニバーサル学習<しゃかい・せいかつ>の報告 (やすらぎ小泉&ポラリス引地)</p> <p>11:05～ 休憩(10分間)</p> <p>11:15～ ③スローバ読書会の報告「あゆみのハヤ」 (講師&ポラリスメンバー&スタッフ)</p> <p>11:25～ ④親カフェの報告 (ポラリス保護者チーム)</p> <p>11:35～ 講評：アドバイザー・東北福祉大学 森明人先生より</p> <p>11:40～ 来年度について：コーディネーター・田口より</p> <p>11:50～ 閉会、会場片づけ、終了</p>
工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで参加してきた当事者や保護者がチームをつくり、自分たちで振り返りと内容を検討し、各プログラムの報告を担当した。 ・報告には、動画や音楽、写真、装飾品などをふんだんに活用し、報告者も見ている人も、楽しんで参加できるようにした。 ・参加者は地域にも広く声がけし、今年度のサロンに参加された講師や、ボランティア、民生委員、行政職員が参加された。 ・会の中では、報告の担当がない一般参加者にも、感想などのコメントを発表してもらうように工夫した。

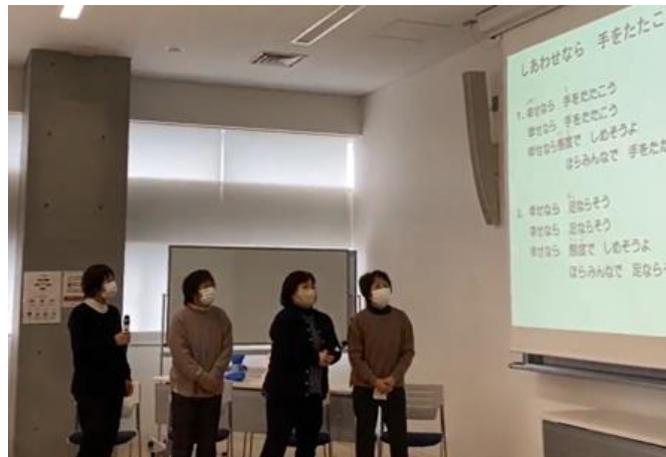
【成果】

◆ユニバーサルな学びの場となる	障害の有無に関わらず、様々な立場の方がプログラムに参加できたか？ <参加者内訳> ・当事者14名・保護者4名・地域住民9名・民生委員9名・大学生1名 ・行政機関2名・アドバイザー1名・視察者1名・スタッフ8名 <div style="text-align: right;">合計49名参加</div>
-----------------	--

<p>◆当事者が主体的に学ぶ</p>	<p>当事者が企画に参加できたか？/当事者が主体的にサロン運営に参加できたか？/当事者が主体的に発言できたか？</p> <p>→プログラムごとに事前に報告チームを結成し、以下の報告を担当。報告スタイルや発表の内容、セリフなどは、すべてチームごとに検討し、練習を行った。発表の中で必要な素材や、あると便利な機能などはICT体験倶楽部の講師にアドバイスをうけ、スライド制作や音楽、映像等の活用を個々に取り組んだ。ICTを取り入れることで、当事者個々の障害特性やレベルに合わせたオリジナルの発表を作り上げることができた。</p> <p>→当日は皆の前で発表することができた。また報告を担当しない者も、司会や受付を担当し、全員が役割を持って参加することができた。会場設営や片づけは全員で行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うんこの保健室（当事者3名+スタッフ1名） プロレスに扮して、スライドとともにプログラムを振り返った。音楽を効果的に活用して、楽しく進めることができた。 ・踊りのワークショップ（当事者4名+スタッフ1名） スライドや動画を交え、「花笠音頭」の講師や踊りの紹介を行った。言葉で伝えることが苦手な方も、台本や絵カードを事前に準備し、自分の方法で発表することができた。 ・ころをおだやかに～おしょうさんのトーク&ライブ（当事者1名+スタッフ1名） スライドや動画を用いて報告を行った。プログラム当日に使用した小道具を織り交ぜながら、発表者が印象に残っている点を振り返ることができた。 ・音楽を楽しみ、学ぶ～うたで学ぼう平和のこと～（当事者1名+スタッフ1名） 唯一の戦争経験者である当事者が、当時の生活についてスライドで振り返りながら、平和の大切さを伝えることができた。報告中には、プログラム当日の情景を表現したアートも取り入れた。 ・スローバ読書会（当事者1名+講師1名+スタッフ1名） テレビ番組に見立てた当事者と講師の対談形式で実施。音楽やスライドを活用しながら当事者が印象に残った本やシーンを、講師との対話を通して振り返ることができた。
<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>①地域より、民生委員9名が参加された。代表者が、今年度ユニバーサル学習に参加しでの振り返りを以下のように発表された。</p> <p>「これまで気付きもしなかったことを学び、知る・考えるきっかけを頂けた。講師のお話は面白く、興味深く教えてもらい、よい時間だった。山元町でこのような学びの場を作ってもらえることに、とても感謝している。」</p> <p>②ポラリス保護者4名が参加された。プログラムの一つである「親カフェ」の報告を担当し、歌や言葉で1年間（全4回）の活動を発表した。</p> <p>「新しい保護者が参加されたり、傾聴ボランティアが継続参加されたり。全4回、ひろばポラリスで楽しくこじんまりとリラックスして参加できた。顔を合わせて、近況を話し合いながら、時に涙ぐんだり、笑い合えるひとときが大切と思った。」</p>

<p>◆共感者・協力者を増やす</p>	<p>③地域の一般住民が9名参加された（プログラム講師を担当した方を含む）。サロンの感想や講師としての所感など、以下のコメントを発表された。</p> <p>「全16回、自分も事前に勉強しながら、とても充実した1年だった。質問シートに沿って当事者は積極的に、正直な、まっしろな気持ちで表現されるので、自分も心が洗われる思いだった。」（スローバ読書会講師）</p> <p>「読書会に行くと皆が笑顔で迎えてくれ、その場では何を話しても良いという雰囲気。「また行きたい！」と思わせてくれた。絵本を聞いた時に、今まで知らなかったことをたくさん知ることができた。本を読むだけでなく、参加者や講師が双方にやりとりの出来る質問や感想コーナーがあり、講師のたくさんの工夫が感じられた。」（スローバ読書会参加者）</p> <p>「親カフェでは楽しい時間を過ごせた。人は話すよりも聴くことが大事。家庭の中で傾聴ができると、健康的に過ごせるようになる。一人でも実践者が増えたらうれしい。せっかく皆と知り合えたので、これからも一緒にやっていきたい。」（親カフェ参加者・傾聴ボランティア）</p> <p>「白萩の会の「戦争」についての内容は、当事者にとっては厳しく、難しかったと思うが、こんな大変なことが昔実際にあったという事実を知ることが大切なのは、と感じた。一方どらごえでは、気分を変えて皆と一緒に踊ったり歌ったり、楽しくする時間も設けた。サロンへの参加は今年で2年目だったが、来年も一緒に活動していきたい。」（ユニバーサル学習講師）</p> <p>「音楽や映像など、障害のある方も楽しく参加できる工夫がたくさんあり、スタッフの皆さんの盛り上げ方もとても上手だと思った。サロンを通じて、町内の色々な方とのつながりができていることもすごいなと思った。」（初参加）</p> <p>④山元町役場生涯学習課の課長が参加された。本事業について以下のように挨拶された。「障害のある人もない人もともに学びあえる取り組みについて、文部科学大臣の表彰を受けるほど、素晴らしい取り組みとなった。町としても、今後もこの取り組みに協力していきたい。」</p> <p>⑤山元町保健福祉課より職員1名が参加された。今年度、ユニバーサル学習に参加しての振り返りを以下のように話された。 「障害のある方と地域の方々が顔を合わせる場ができたことで、今後の交流の確かな一歩になったと感じた。」 「今までの学びの場と比べると、今日の報告会では当事者が緊張している様子が伝わってきたけれど、地域の中でこのような緊張感を体験するというのも、きっと貴重な経験となっていると思う。」</p> <p>⑥大学生が1名参加された。報告会でのインタビュアーを担当するとともに、本年度ユニバーサル学習に参加した感想を以下のように発表された。 「世代や立場が違う人たちが話し合うことが、自分自身も楽しかったし、コミュニティ形成のきっかけになったと思う。映画上映会ではきょうだいや家族の葛藤に触れることができた。来年は、大学の他の友達にも声をかけ、一緒に参加したい。」</p>
---------------------	--

◆共感者・協力者を増やす	<p>⑦アドバイザーの森明人氏が参加され、本報告会の講評を以下のように話された。</p> <p>「とても楽しい報告会だった。正解を探す学びではなく、分からなくても、皆で対話をしながら一緒に考え、感じていく場なのだなと改めて感じた。単に学習の成果を評価するのではなく、皆と共に学びを振り返ることができる、意義ある報告会だった。</p> <p>プログラムづくりの過程では、クリエイティブな工夫がたくさんある。映像や寸劇、対話を取り入れ、皆が参加でき、皆が満足できる工夫が取り入れられている。</p> <p>特に「対話」は昨年からバージョンアップしている。普段は接点のない、同じ町で暮らす人同士が、ここ来ると顔を合わせ、対話ができる。ポラリスの実践している「ユニバーサル学習」が、成功してきていると実感できる。</p> <p>山元こぐまサロンの目指すところは、障害者の学びのプログラムづくりを通じて、地域づくりをしていくこと。皆が安心して暮らしてゆける地域づくりにつながっていくように、来年度も一緒に頑張っていきたい。」</p>
※課題・その他	<p><事務局振り返りより></p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆に役割があって、全員参加型で会を作り上げることができた。 ・当事者それぞれの持ち味を生かして、発表することができた。 ・当事者の発表のパートは時間が押してしまったが、一番の見どころであったため、あえて巻くことはしなかった。その代わりに、他の報告をコンパクトに出来たので、良かったのでは。

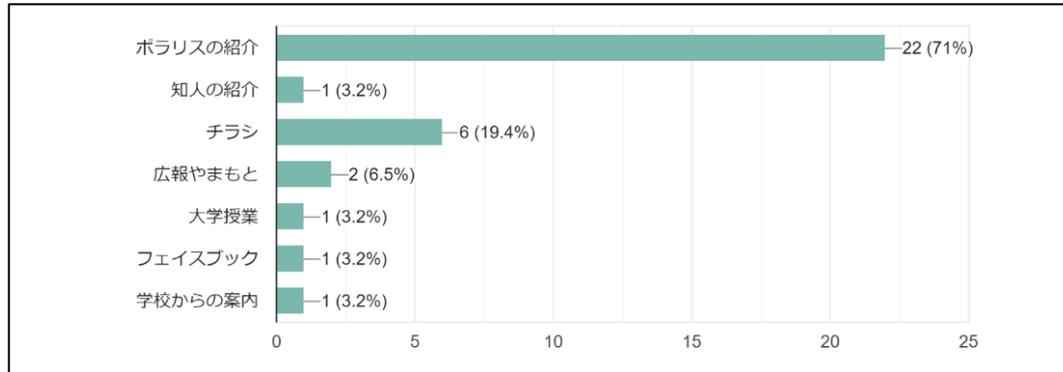


7 アンケート

☆対象者：2022年11月17日 映画『僕とオトウト』上映会の参加者

☆有効回答：一般参加者32件/ポラリスメンバー13件

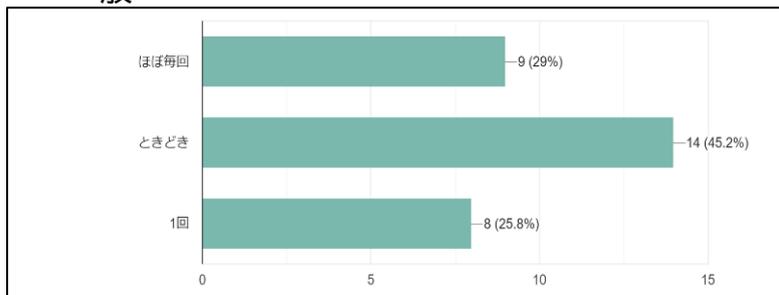
①ユニバーサル学習を何で知りましたか？（複数回答可）（一般参加者のみ）



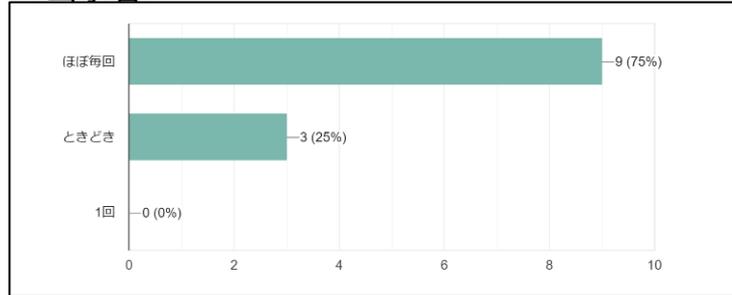
町の広報誌での情報発信で初めて参加された方もいた。

②今年、ユニバーサル学習には何回参加しましたか？

<一般>



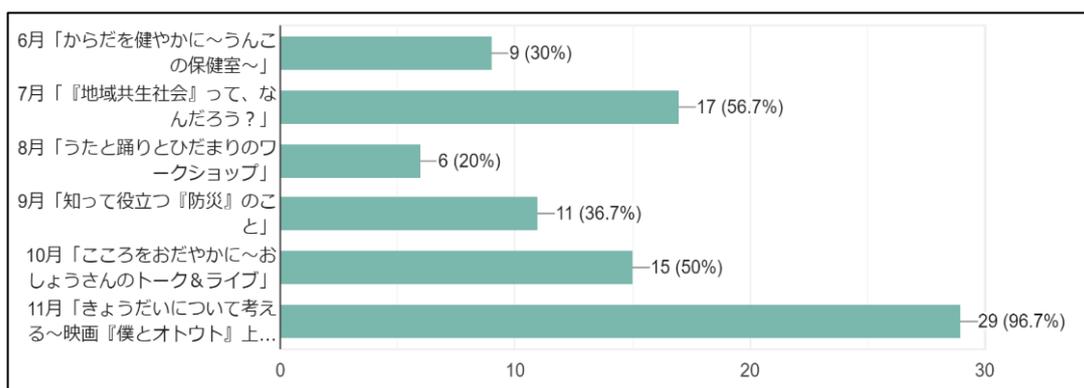
<当事者>



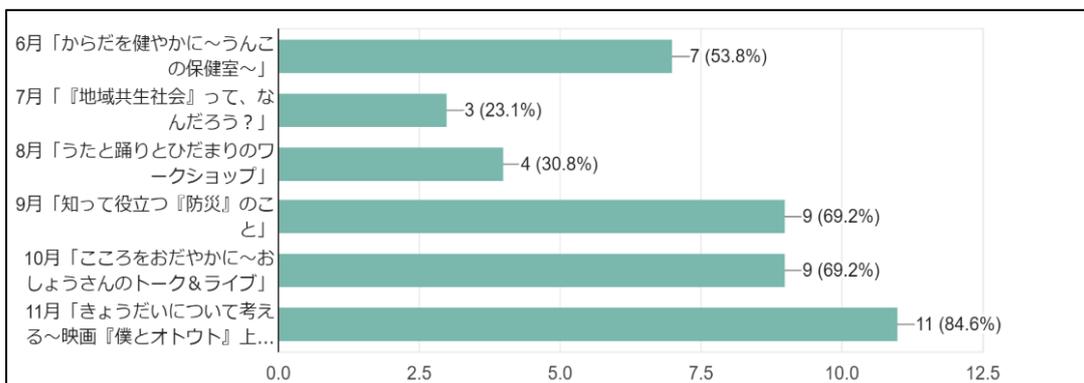
ほぼ毎回来てくださる方に加え、興味関心に応じて初めて参加される方がいるということが分かった。

③楽しかったプログラムを選んでください。（複数回答可）

<一般>

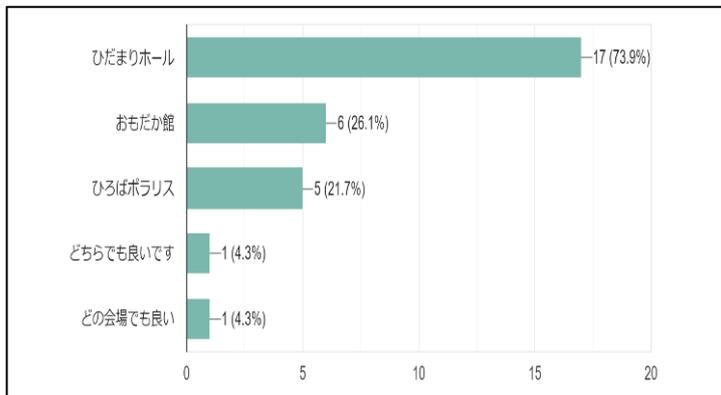


<当事者>

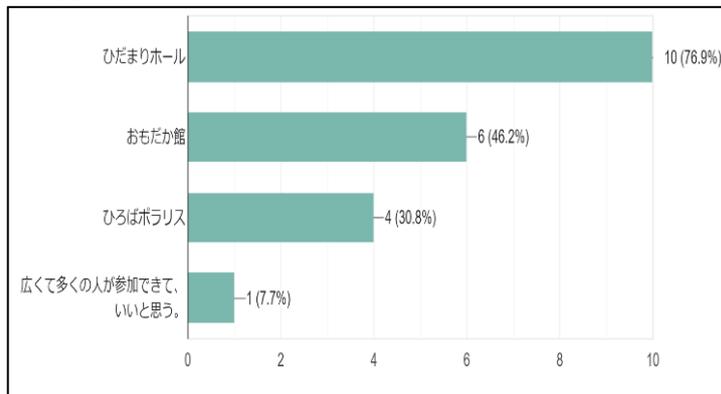


④来年度はどの会場で行うのが良いですか？（複数回答可）

<一般>



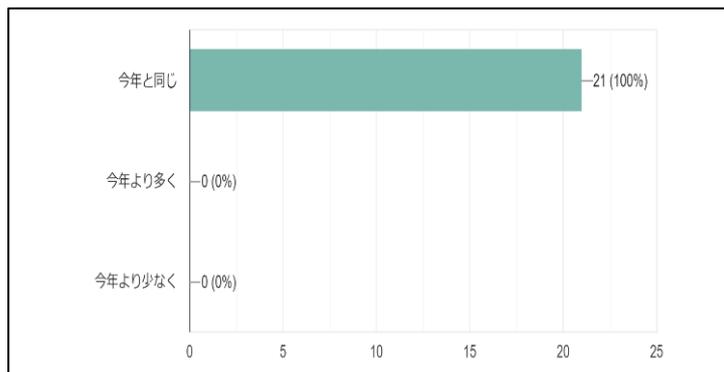
<当事者>



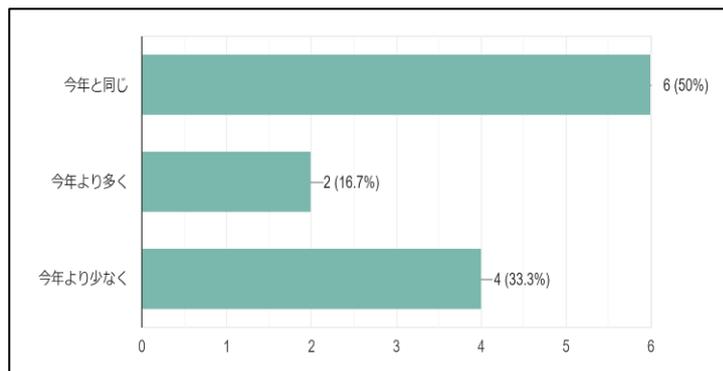
昨年より会場として使用している「ひだまりホール」が参加者に定着してきたことが伺える。

⑤開催頻度はどのくらいが良いですか？

<一般>



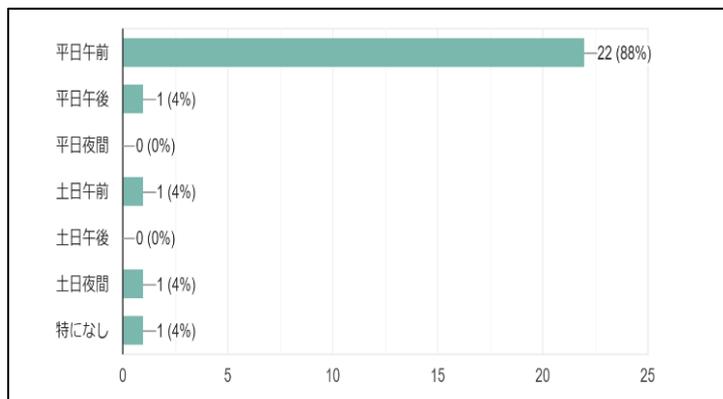
<当事者>



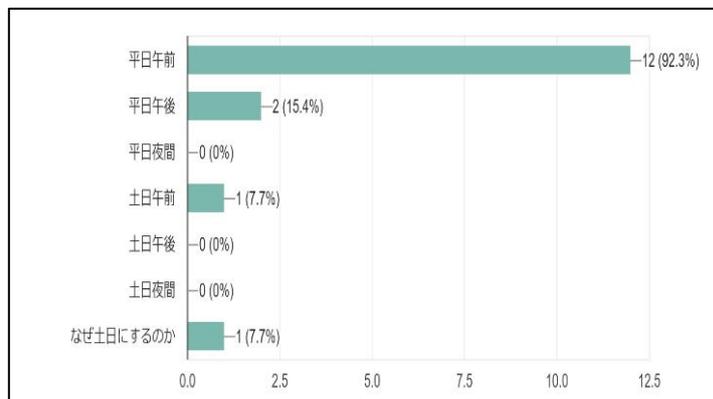
当事者の楽しさ、学びへの意欲、疲労しやすさは様々ということが分かった。

⑥どの曜日/時間帯だと良いですか？（複数回答可）

<一般>



<当事者>



現在は平日午前の都合の良い方が参加していることがわかる。

⑥来年度、どんなプログラムがあったらよいですか？

- <当事者>
- ・絵を描きたい・刺繍のアート
 - ・アートについて（アートの商品化、真似とパクリのちがい）
 - ・歌って踊るプログラム
 - ・運動・エクササイズの運動をしたい。メタボにならないための勉強
 - ・カラオケ
 - ・音楽について（ジャンルの概要など）
 - ・調理実習
 - ・映画（男はつらいよ・美空ひばり）・映画鑑賞
 - ・交通安全について・お金について・防犯（詐欺など）について・防災について
 - ・家のこと（宅急便の受け取り、家の修理、車の維持管理、行政手続き、銀行の手続き）
 - ・仕事のこと
 - ・お花のこと

- <一般>
- ・お料理企画・食育
 - ・障害のある方の考え方、思っている事などの発表を聞いてみたい
 - ・アトリ作品の（発表）展示・造形的な活動（ワークショップ）
 - ・参加者同士でお互いのことを知れるような交流の機会・B型事業所の交流してみたい。
 - ・地域とどうつながっていくか。
 - ・参加者の人たちとグループワーク・参加者全員で出来るゲームなど
 - ・映画、・障害者問題を扱った映画会・ハチミリ上映・・楽しい映画鑑賞
 - ・身近にある話題のお話（講演？）
 - ・親亡きあとの相談方法や相談先を知りたい
 - ・お母さんどうしていろんな相談してみたい。・お母さん達との話し合い・ペアレントプログラム
 - ・認知症に関する問題



8 量的/質的 評価

(1)事業の実施により直接的に得たい成果／アウトプット目標

■楽しく学ぶ

(目標①) 障害の有無にかかわらず385名の人がプログラム（成果報告会含む）に参加する。

→ユニバーサルな学びの場に558名が参加できた。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		1月	成果報告会	合計
当事者	16	15	12	14	13	14	10	13	14	14	135
保護者	8	7	4	5	5	7	7	4	5	4	56
支援学校	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	12
地域住民	3	5	2	4	16	11	35	5	5	9	95
民生委員	9	9	1	9	8	9	0	4	10	9	68
区長	0	7	0	1	0	0	0	0	0	0	8
大学生	0	3	2	0	1	2	2	0	0	1	11
講師	2	1	1	1	3	0	2	35	2	0	47
関係者	2	13	1	9	4	1	2	0	4	3	39
視察者	0	3	0	2	1	0	0	3	1	1	11
スタッフ	7	7	7	9	7	9	5	8	9	8	76
(合計)	47	70	30	54	58	65	63	72	50	49	558

→スローバ読書会に238名が参加できた。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
当事者	17	15	20	17	16	16	24	16	141
保護者	0	0	4	0	0	0	3	0	7
地域住民	2	4	2	1	1	3	6	2	21
大学生	1	3	1	0	2	2	0	0	9
講師/関係者	2	2	2	2	2	2	2	2	16
視察者	3	0	0	0	0	0	0	0	3
スタッフ	4	5	4	5	4	5	9	5	41
(合計)	29	29	33	25	25	28	44	25	238

- ・一般参加者が増えた。広報に毎月掲載されるようになった効果も。
- ・地域の福祉専門職員や役員も参加され、グループワークできるようになった。
- ・グループワークでは当事者も、周囲のサポートを受けて、緊張感をもちつつも、地域の方と一緒に参加することができた。
- ・東北福祉大学の学生も、継続して参加された。

(目標②) 社会発信できる映像を14コンテンツ作成できる。



YouTube ポラリス チャンネルにて
「山元こぐまサロン」を配信

■当事者が主体的に学ぶ

- 目標① のべ40名以上の当事者が企画に参加してプログラムを進める。
 ➔94名参加できた。
- 目標② のべ80名の当事者が主体的にサロン運営（会場準備、片付け、受付）に参加する。
 ➔245名参加できた。
- 目標③ のべ190名の当事者がプログラムの中で主体的に発言できる。
 ➔178名が発言できた。

*ユニバーサル学習

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	成果報告会	合計	
企画に参加した当事者数	1	15	5	1	7	2	5	10	1	14	61
サロン運営に参加した当事者数	16	15	12	13	13	14	10	13	14	14	134
発言した当事者数	5	13	12	14	8	1	1	4	14	14	86

*スローバ読書会

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
企画に参加した当事者数	4	0	0	2	5	2	18	2	33
サロン運営に参加した当事者数	15	15	14	4	8	14	25	16	111
発言した当事者数	15	6	3	17	15	14	14	8	92

■いつでも学べる

- 目標①
 10代（支援学校等に在学中の生徒）～80代（当事者・保護者・一般住民）が参加できる
 ➔中学生～80代まで参加できた。

- 目標②
 講義内容の工夫し、定期開催のサロン以外にも読書を楽しめる場をつくる。
 ➔スローバ文庫を設置できた。

- 目標③
 内容に応じたサロン会場として、新たな学びの場を2か所以上増やす。
 ➔「ひだまりホール」に加え、「おもだか館」「ひろばポラリス」「徳本寺」を会場にすることができた。

■共感者・協力者を増やす

障害を持つ家族に寄り添える様な関わりができる環境が山元町内に数ヶ所できるといいですね。

障害者・児と一緒に活動できること。作業、料理など一緒にできること。その場面での交流。

障害については全く無知ですが、何か皆さんと一緒に行っていければと思っています

障害者の生涯学習。地域活動で公共施設利用（歴史民俗資料館等の社会教育施設の利用拡大させる。）やぐるりん号の無料利用を提唱させて頂きます。

あらためて学校卒業後を考えるよい機会でした。是非来年度も参加できるように企画したいなと思いました。ありがとうございました。

今回PTAの研修として参加させて頂きました。もっとたくさんの保護者さんに見ていただき、共感いただけたらいいなと思いました。

障害福祉にかかわる人だけでなく、地域全体が変わっていくことが大事なのだとあらためて思いました。

地域社会で一緒に生活する方向に制度は向かっていますが、なかなか難しいなと思いました。もっと家族会で発信をしていただきたい。

まず理解してもらうことの取り組みを、ずっと続けていくことは大切だと思っています。

(アンケートより)

■ユニバーサルな学習の場となる

「学びやすい内容」「参加しやすい内容」「多世代が学べる内容」である。

- *「地域共生社会」や「防災」など、難しいと思われるテーマでも、「面白かった」と回答される方が一定数いた。
- *今後のプログラムについて、一般参加者からは「当事者や保護者と交流できるようなもの」「映画」「造形」など、当事者からは「音楽／歌」「映画」「体操」などの希望が上がった。

いろいろな人との話し合い、意見、活動。

ユニバーサルな学びの場、参加するのは2回目です。前回と同様、地域のたくさんの方、さまざまな職種の方が参加していてすごいなあと思っています。

年間を通してのすばらしい取り組みだと思っています。映画を観て、とても考えさせられました。

福祉の話はだんだんむずかしい話になり、そのつど問題になったときに聞いた方が良かったか？

ポラリスさんの活動、地域とつながるようへの思い、とてもすばらしいと思います。

(アンケートより)

(2) 事業実施後の中長期的に得た成果

(当事者を取り巻く生活への波及)

■学びの場へ参加することや、自分の意見をアウトプットすることなど、当事者にとって安心して学べる環境が整ってきている。その姿を見た別の当事者にも学びの意欲が沸くなど、当事者においても相乗効果が生まれていた。当事者にとっての学びやすさとは何かは、今後も事業を継続する中で、当事者たちとプログラムを共創しながら検討していく。

■高齢の当事者も、興味関心に合わせて、積極的に学びに参加されていた。特に様々なテーマにおいて、今までの人生経験から意見や所感を語られる様子はとてもいきいきとされており、今後も学びをアウトプットする場を継続していくことが重要である。

■当事者が積極的に企画運営や成果発表会に参加するようになり、自分の得意なことを生かして、やりがいを持って作業に取り組めるようになった。今後も普段の就労訓練の枠にとらわれない、彼らの特技を生かせる仕事を通じて、自信を高め、いきいきとした地域生活につなげていきたい。

(行政・関係機関への波及)

■プログラム終了後に、町内の生涯学習施設で活動している運動サークルに、当事者グループが参加できるようになるなど、当事者が町の生涯学習プログラムに参加できる環境が整ってきた。

■町の障害者計画にも記された「障害者の生涯学習」について、プログラム実践を通して、実際に施策を進めることができている。

(地域全体への波及)

■行政や学校、民間団体等の町内の様々な人々と学びの場を共創してきた結果、次年度のプログラムについての提案や講師の紹介をうけるなど、皆が主体的に学びの場づくりを担うようになってきた。

■宮城県や仙台市の関係機関とも継続して、お互いの活動に参加したり情報交換を行ったりしたことで、「山元らしさ」を意識したプログラム開発に取り組むことができた。今後は視察受け入れや実践報告を通じて活動を積極的に広めていくことで、「障害者の生涯学習」に取り組む他市町村の仲間を増やしていきたい。

<今後の方向性>

事務局からの提案
参加者からのアイデアなど

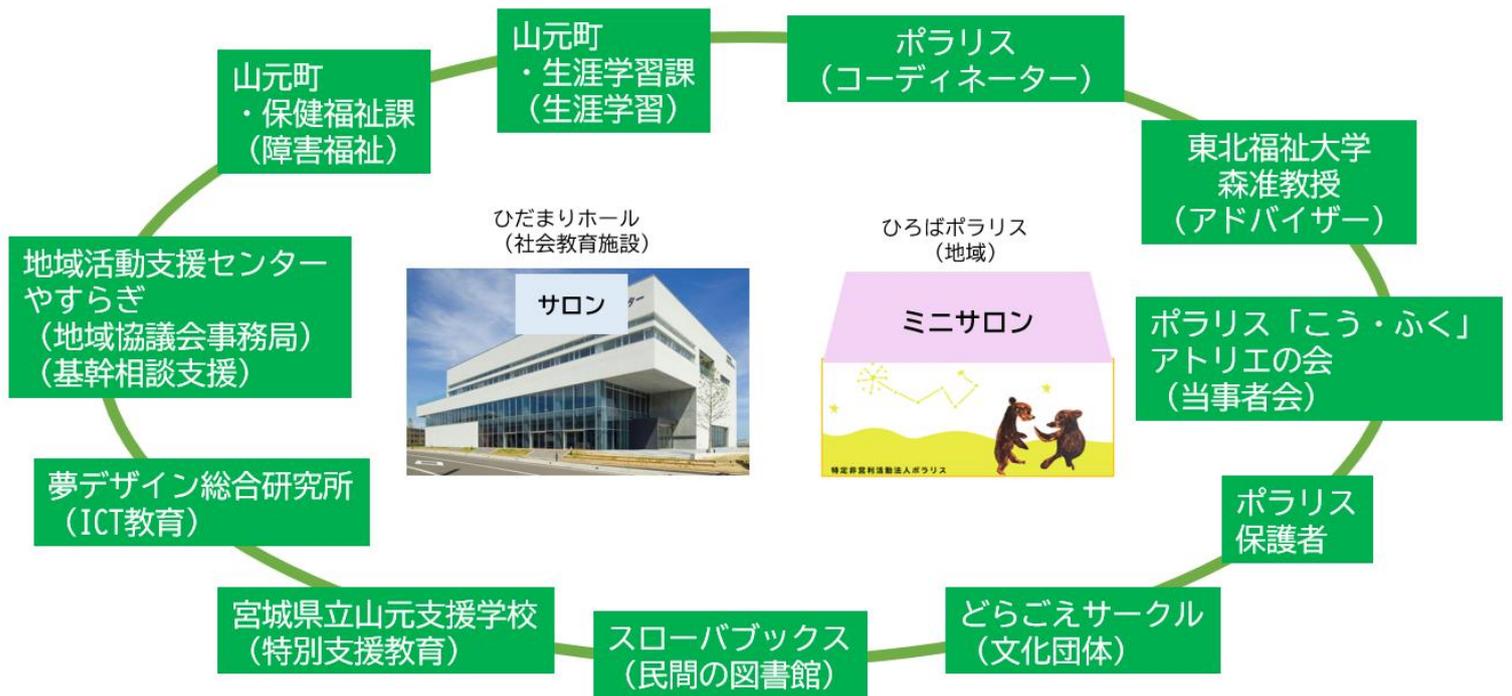
- 「学び続ける」「わかりやすさ」「環境づくり」「主体性」「サポーターの協力」の観点でアート、スポーツ、当事者と交流できるワークショップの3本柱を組み立てたい。
- プロのアーティスト／支援学校とのコラボ。12月の障害者週間に合わせて、ひだまりホールを会場に「ユニバーサルなアート展」を開催できないか。作品展示／合唱／ファッションショー／・・・
- 大きな会場でスポーツ大会ができれば。グループワークも続けたい。うた／スポーツは小規模でも毎月継続したい。ひろばを活用したこじんまりした学びも継続できれば。ポラリスメンバーだけでなく、別の事業所の利用者やひきこもりの方に参加してもらうのも目標。(コーディネーター)

- メンバーが外に出かけてゆくプログラムもあってよいのでは。社会見学のような。(当事者代表)

- 地域づくりにつながる取り組みを入れてみては？当事者と出会って、彼らを知ってもらう、ひいては協力してもらえる関係になるように継続すること。学びの各分野でつながることのほか、地域(生活基盤)とつながることも大切。山元の地域づくり(地域福祉計画と絡めて)。民生委員や区長さんとの取り組みを深めていくことも、大切にすべきでは。彼らにポラリスを前向きに理解してもらえるように、年に数回、顔を合わせる機会を設けることが大切。
(連家一協議会/アドバイザー 森先生)

- 地域共生社会や防災については、区長さんにも継続して声がけし、グループワークを続けていけたら。
(連携協議会 小泉さん)

9 連携協議会



《連携協議会》

伊藤 孝浩	山元町教育委員会生涯学習課	課長
伊藤 和重	山元町保健福祉課	課長
森 明人	東北福祉大学 総合マネジメント学部	准教授
鈴木 尚	宮城県立山元支援学校	校長
田所 信幸	株式会社夢デザイン総合研究所	
佐藤 浩昭	スローバックス	代表
森 光子	どらごえサークル	
あ む	ポラリス「こう・ふく」アトリエの会	
加納てる子	ポラリス保護者会	代表
小泉 大輔	山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ	
田口ひろみ	特定非営利活動法人ポラリス	

《事務局》

三浦 彰文	山元町教育委員会生涯学習課
原田 陽	山元町保健福祉課 福祉班
品堀 学	特定非営利活動法人ポラリス
引地 奈美	特定非営利活動法人ポラリス

第1回連携協議会

開催日時：6月9日（木）13:30～15:20

場所：つばめの杜ひだまりホール 会議室5

ポラリス (コーディネーター)

- ・動画による昨年度プログラムの振り返りと、今年度の更なる協力体制を依頼。
- ・今年度のプログラムについて、会場は従来のひだまりホールに加え、おもだか館、ひろばポラリスの3会場にて実施予定であることの報告。
- ・「ひろばポラリス」では、開放感のあるオープンなスペースで、地域に開かれた雰囲気で開催したい。重層的支援体制のプラットフォームになるような可能性も探していきたい。

宮城県立山元支援学校 (特別支援教育)

- ・山元支援学校は昭和54年開校。宮城病院に入院中の病弱児向け学校であったが、平成17年より、知的障害者をふくむ支援学校（現在は知的34名、病弱7名）として運営。学校としても、本サロンをうまく利用できないかと検討中である。

- ・現場実習を通して、地域の中でこそこどもたちは、学校とは違う表情をすることを実感している。生徒には「自ら社会に飛び込んでいきたい」という気持ちが確実にある。卒業後の地域とのつながりを保つことについて、保護者からの要望も受けている。在学中からスムーズに地域に移行できるように、保護者にも話をしていきたい。

どらごえサークル (文化団体)

昨年にひきつづき、今年も戦争からは目をそらせない社会情勢。平和について、「白萩の会」の語りも交え、伝えていきたい。私も福祉大卒。保育士実習は宮城病院。「共に生きる」ことを学んだ原点である皆さんとのご縁を感じる。

保護者の会

今年も楽しく学びたい。今日はひろばで「親カフェ」初開催。「家族みただね」という言葉が出た。今年は親だけで、外に出かけたいと考えている。またひろばポラリスをうまく活用していきたい。

東北福祉大学 森准教授 (アドバイザー)

昨年度は、当事者の興味津々な、楽しそうな表情や、ひととひとがつながる瞬間に会えたことが学びだった。口で言うほど決して簡単ではない、「障害のある人となない人が、ともに生きる共生社会づくり」というテーマを何度も噛み締めて、山元町のまちづくりに生かして行ってほしい。また今年も、会場を超えて、普段の当事者の皆さんの活動／暮らしの様子をぜひ見てみたい。

山元町 ・生涯学習課 (生涯学習)

新入社員でわからないことばかりだが、活動に参加し、体験・学ばなかで、仕事に活かしていきたい。

山元町 ・保健福祉課 (障害福祉)

今年で4年目だが、今年度初めてサロンに関わる。正直、地域共生社会を分かりきっていない。このサロンの活動を通して、そこを勉強しながら、地域のかべを取り除けるように。

ポラリス「こう・ふく」 アトリエの会 (当事者会)

ポラリス利用者であり、当事者。障害者の生涯学習について、今後町の教育やサークルの場に当事者が気軽に参加できるよう、橋渡しをしていきたい。

地域活動支援センター やすらぎ (地域協議会事務局) (基幹相談支援)

昨年度より関わり、工房地球村のメンバーや職員も、共に学ぶ機会を設けていただいた。今後もこの活動が継続し、つながっていくように。

第2回連携協議会

開催日時：2023年1月12日（木）13:30～15:15
場所：つばめの杜ひだまりホール 会議室5

◆今年度の振り返って（今年度の成果と課題など）

①事務局より

<各プログラムの状況>

*ユニバーサル学習

地域住民とのグループワークは新たな試みだった。山元支援学校のPTA行事として、保護者が初参加された回もあった。昨年度のつながりから講師にも広がりが出てきた。コロナ禍で予定通りのプログラムを実施することが難しい時でも、ひだまりホール館長の協力で少人数のプログラムに変更し、クローズドで、開催することができた。

*スローバ読書会

ひろばにて月2回開催。当事者は発表やシートへの記入など、アウトプットの力をつけた。

*親カフェ

ひろばにて隔月開催。昨年よりもリラックスして参加できた。新たな保護者や傾聴ボランティアなど、参加者には少しずつ広がりが出ている。



どらごえサークル (文化団体)

ユニバーサル学習、どらごえとしては今年2回目、白萩の会の語り部活動としては初めて参加。白萩の会の語り部は戦争体験について。「難しい」となりがちな中でも、寸劇や歌を交えて、よりわかりやすく伝えるよう意識した。一方、どらごえのパートは雰囲気を変え、「楽しい」を一番に。自分達も、参加者も皆で楽しめたと思う。来年も、要請があれば、ぜひ一緒に活動したい。

保護者の会

親カフェはひろばポラリスで4回、午前だけの開催で、こじんまりとリラックスして参加できた。昨年は相談支援の勉強会があったり、1日通してめいっぱい活動だったので、今年は気楽にできた。新しい保護者や傾聴ボランティアも一緒に、近況やこどものこと、世の中のことなどを話すのがホッとする時間であった。親子関係はなかなか解決できるものではないけれど、顔を合わせて、お茶を飲む時間は大切。親カフェは継続していきたい。

また、11月のユニバーサル学習「僕とオトウト」映画上映会は、共感することや考えさせられることがあった。

ポラリス「こう・ふく」 アトリエの会(当事者会)

昨年のプログラム「山元町ゆかりのお茶室物語(デジタル紙芝居)」を縁に、山元いっちゃん組からのリクエストで「茶室勉強会」を特別開催することに至った。メンバーが、会場運営や屋台での接客などで活躍できた。また、プログラムの開催前後で資料づくりやアンケート集計など、事務局の補助を担うことができるメンバーもでてきた。皆さんの協力でサロンを開催することができ、感謝している。

個人的には防災の会に参加したことがきっかけで、後回しにしていた自宅の地震対策に着手できた。

夢デザイン総合研究所 (ICT教育)

サロンでは動画編集などで参加している。今後はICTやインターネットは当事者にとっても、生活と切っても切れないものになるので今後はそれらの研修などでも、協力していきたいと考えている。

スローバックス (民間の図書館)

スローバ読書会は月ごとにテーマを設けて16回の実施。前年度の4回に比べると頻度の高い開催となったが、自分も都度調べながら準備をすることで自分自身の勉強になり、問題はなかった。会の中では、「質問シート」を通して、参加者とコミュニケーションを図った。当事者が回答しやすい内容を工夫しながら作成したので、皆さんも自信を持って、積極的に話せるようになったのではないかと。

来年度は4回くらい、当事者からのリクエストがあった「人間関係」について取り上げたい。その他、平和についてなども、皆さんと相談しながらやっていきたい。

宮城県立山元支援学校 (特別支援教育)

昨年に引き続き「山元こぐまサロン」に参加させていただきました。

私自身の目的として、参加者の皆さんと一緒に活動したり、山元支援学校の保護者が参加したりすることで、山元支援学校を地域に根差した学校としていきたいと考えてのことです。

「山元こぐまサロン」で皆さんと一緒に地域生活を考えたり、地域防災を考えたりしたことは、各行政区の現状や課題、安全への取組を知り、よりよい学校を作っていくうえでのヒントとなりました。

また、映画会は、はじめてPTAとして保護者にも参加してもらい、映画を見たり、懇談会で、保護者の皆さんの気持ちをお話ししてもらったりし、兄弟支援について考える良い機会となりました。

これまでなかなか聞くことのできなかった保護者の皆さんの気持ちを聞くことができたことはとても有意義なことでした。

これも、「山元こぐまサロン」を企画・運営しているポラリスの皆さんはじめ、「山元こぐまサロン」に参加されたすべての皆さんのおかげです。

ありがとうございました。

次年度は、山元支援学校として地域の良さを生かした学習活動を活動を広げていきたいと思っています。

ぜひ、「山元こぐまサロン」も活動を続け、地域で共に豊かに生きる山元町にしてほしいと思います。

学校としてもどのような形で協力ができるのか研究していきたいと思っています。

山元町
・保健福祉課
(障害福祉)

・今年初めて、サロンに参加した。また、保健福祉課としては町内の事業所見学もできた。課では高齢者や生活困窮者、障害者など、幅広い分野を対象としているが、「安心して健康に暮らす」ということが共通の課題である。来年度は「地域福祉計画」の策定を進めていく。より、地域の実情に近い、実現可能な計画を策定できればと考えている。来年度のサロンでも、何かの機会にその報告ができればと思うので、皆さんのご協力をお願いしたい。

・区長やさまざまな関係機関とつながっているのは、確実な一歩。地域連携の基盤として築かれているのだろう。参加者が増えていることも嬉しい。皆が集まって交流できる場が、今後もしょこつ広がってほしい。

地域活動支援センター
やすらぎ
(地域協議会事務局)
(基幹相談支援)

やすらぎのスタッフも運営協力をしながら、共に学ばせていただいた。

ユニバーサル学習の「こころ・からだ」のカテゴリーは文化的な学び。当事者もリラックスして一緒に楽しく参加できた。当事者の普段見ない表情が見られたことは、ためになった。

「社会・生活」のカテゴリーは福祉的な学び。難しいながらも、噛み砕いてわかりやすく伝えられた。人前で話すことが難しい当事者の方も、自分の気持ちを紙に書いて持ってくるなど、事前準備のおかげで、グループワークも問題なくできた。

区長、民生委員、関係機関と一緒に学び合える場で、自分達も勉強させてもらった。来年度もぜひ継続していきたい。



山元町
・生涯学習課
(生涯学習)

アンケート結果から読み取れることとして、一般参加者が増えたことは大きなこと。広報のほか、地域住民に認知されてきたのではないかと。会場は「ひだまりホール」の希望が一番とのこと。何度も使う中で、当事者にとっても足が向きやすい施設になったのでは。防災拠点も兼ねた施設なので、その意味でもよかった。今後のプログラム希望における「運動」について、生涯学習課としては、スポーツ推進委員からの講師派遣も可能と考える。

また文科省表彰については、地域住民と当事者が一緒に、生涯学習を進めていることが先進的であるので、町として文科省に推薦した。今後、宮城県でも障害者の生涯学習は重点ポイントとして進めていく。ポラリスの活動は県をリードするものになると期待している。

昨年度に引き続き、コーディネーターは特定非営利活動法人ポラリスの田口が担当した。今年度は、障害者の学びに関するフォーマル/インフォーマル資源の開発が重要であるという昨年度の経験を踏まえながら、以下の点で活動を行った。

【当事者への働きかけ】

楽しく参加することが一番大切である、という点を継続して伝えた。また、学びや集団活動に苦手意識のある者も安心して参加できるよう、個々の障害特性に応じた学びの環境づくりにも配慮した。当事者の中には、初めてのプログラムに緊張感や苦手意識を持ち、参加を拒む者もいるが、その思いを否定せず、一方で、まず経験してみてもどうか？と働きかけることも行い、学びを通して当事者の経験値が一つでも増えるように配慮した。今後もプログラム作りを通して、当事者が楽しく・安心して、主体的に学び続けることができるような検討を続けることが必要である。

また、必要とする当事者にこの活動が届くような工夫も検討していくことが求められる。

【講師の開拓】

山元町民として、またNPOの代表としての人脈を生かして、新たな講師開拓にも取り組んだ。当事者の学びの意義や必要性について丁寧に伝えることを通じて、行政や公共施設、寺社、文化サークル、近隣NPOなど、新たに8団体にプログラム講師を依頼することができた。活動を通じて作られた当事者と講師との関係性が、今後の彼らの地域生活においても途切れることなく継続していくように、どのような工夫が必要かは、今後の課題である。

【企画運営スタッフの育成】

プログラム毎の具体的な企画や、講師との打ち合わせ、当日の運営は事務局スタッフを中心に、普段は相談支援や就労支援を行う町内の専門スタッフに担当してもらった。組織横断的に企画運営を担当することで、連携体制を向上し、また彼らの障害者の学びや地域づくりに関する意識の底上げが図れるようになることを意識した。個々のスタッフへの働きかけを継続するなかで、今後は町全体の専門スタッフの意識・スキル向上につながるように工夫していくことが求められる。ひいては、障害者の学びや地域づくりについて肌感覚で学んだ町内専門スタッフの中から次世代のコーディネーターが生まれていくことも望む。

【視察者・実習生の受け入れ】

県内外からの視察者や、精神保健福祉士、社会福祉士実習生の受け入れを積極的に行った。実際の活動を見てもらい、その意義を肌で感じてもらうことを通じて、将来的に障害者の学びの活動や生活の支援に携わる者に対して、生涯学習や地域づくりの必要性を伝えることができた。この体験をそれぞれの市町村や職場に持ち帰られ、個々の活動分野で生きていくことを願っている。

【ボランティアの受け入れ】

昨年度から協力体制を継続している東北福祉大学の学生の受け入れを行った。プログラム当日の司会や受付、会場整備などの運営業務を担当させ、また自らも参加者としてプログラムに入ることで、当事者のありのままの姿に触れる機会を提供することができた。

コロナ禍で、学生の参加には大きな制約があった中、今後も大学と連携し、継続してボランティアを受け入れる体制を整えていくことが求められる。また、学生がより主体的にプログラムに参画できる可能性も検討したい。予定より学生がボランティアに参加できなかった分は、保護者の会に準スタッフ的に協力をもらうことができた。保護者も主体的かつ意欲的にプログラムに参加することにつながった。

【山元町事業との連携について】

本年度は、文部科学省の「障害者の生涯学習推進」プログラムと山元町の「障害福祉に関する地域啓発・地域づくり」プログラムを月毎に交互に実施した。特に山元町事業においては、連携協議会メンバーでもある町内相談支援事業所とともに、プログラムを企画することができた。この体制を今後どのように継続してゆくかは、引き続き連携協議会等において話し合っていくことが必要である。



アドバイザーから

森 明人

東北福祉大学 総合マネジメント学部 准教授



「やまもとこぐまサロン」のオリジナルでユニバーサルな学びの場づくりは、その2つの目標である「学習プログラムづくり」から「地域づくり」に向けて、誰もが楽しく学べるよう工夫することでエンパワメントが促進されている。また、地域の幅広い方々に参加をして頂き、共に学び支え合う地域コミュニティづくりへと着実に成果を上げていることが成果報告会の様子からも何うことができ、大きな実践の柱に位置付けられるプログラムづくりが相乗効果をあげていると考える。

第1に、プログラムづくりでは、参加しやすさ、分かりやすさ、楽しさ、集中しやすさ、などの観点で、運営事務局や各講師が工夫してプログラムを作っている。これらの工夫によって、障がい当事者がより主体的に学びの場に参加できるようになっている。具体的には、安心した表情で、リラックスして、学びの場に参加できるようになったこと。また、自分の思いや学びの成果を、自分の方法で、表現できる場となったこと。そして、事前準備や事後報告など、企画運営に係る事務局の業務の一部を主体的に担えるようになったことを成果として挙げることができるのではないかな。

第2に、地域コミュニティづくりでは、関係機関への周知や、広報等を通じた一般町民への告知に力を入れたことで、地域からの参加者が増加しており、地域で共に暮らすために障がい当事者を理解する大きな機会になっている点は、今後の山元町の地域共生社会づくりを考える上で大きな意義がある。一般町民にとっては、学びの場に参加することで、普段の地域生活においては、必ずしも接点のない障がい当事者と出会い、グループワークの機会を通して相互に学び合うことで、当事者のおかれている生活状況や不安等を理解するきっかけになっている。また、地域活動を普段から担っている町の行政区長や民生委員・児童委員、福祉関係団体・機関、地域内の協力者や専門スタッフが、この場に関心を持ち、障害当事者をサポートする関係となったことは当事者が地域で自立して暮らすための地域変革への大きな一歩になったのではないかな。同じ山元町で暮らす、障害のある人とない人が学びの場で出会い、同じテーマについて一緒に考え、お互いに対話することを通じて、確実に地域づくりが進んでいると評価できる。

以上、本事業の所期の目標であるユニバーサルな学習プログラムづくりが推進のエンジンとなってきていること、プログラム学習が当事者を始めとする参加者のエンパワメントに繋がってきていることが本年度の実施状況からも確認でき、もう一つの目標である地域コミュニティづくりと相乗効果を発揮していくことが期待できる。

今後は活動をいかに持続可能にしていくか。山元町の地域福祉計画とも連携しながら、本活動のサポーターをボランティアとして、どのように育成していくか大きな課題となる。

10 イベントでの活動紹介

(1) 日本社会教育学会プロジェクト研究 「障害をめぐる社会教育・生涯学習」企画 2022年度六月集会プログラムにおける事例報告

令和4年6月4日(土)
Zoomによるオンライン開催

プロジェクト研究「障害をめぐる社会教育・生涯学習」 インクルーシブな地域をつくる実践に内在する学び

■企画趣旨：

社会のありようとの関連で「障害者の学び」を捉えようとする本プロジェクト研究は、本六月集会のプログラム企画として、報告1～3の「3つの枠組み」に基づき、包摂的な地域をつくる実践事例に内在する学びについて検討することをねらいにしています。

当日は、テーマに関する課題提起の後、各事例報告6つのグループに分かれてセッションを行います。グループセッションでは、それぞれの実践が如何にして始まり、どんな課題に直面し、どのような試行錯誤を行ってきたのかなど、各実践の歩みを多すぎない人数でじっくりと聴きとりながら丁寧な検討を行いたいと考えています。

■事例

報告3：「障害者施設が中心になってインクルーシブな地域づくりに挑戦している実践」

⑤嶋田浩一（NPO 法人ちょうふの風）

グループコーディネーター：池田法子（足利短期大学）

⑥田口ひろみ（NPO 法人ポラリス）

グループコーディネーター：鈴木孝志（青梅市役所）

プロジェクト研究「障害をめぐる社会教育・生涯学習」
報告Ⅲ 障害者施設が中心になってインクルーシブな地域づくりに挑戦している実践

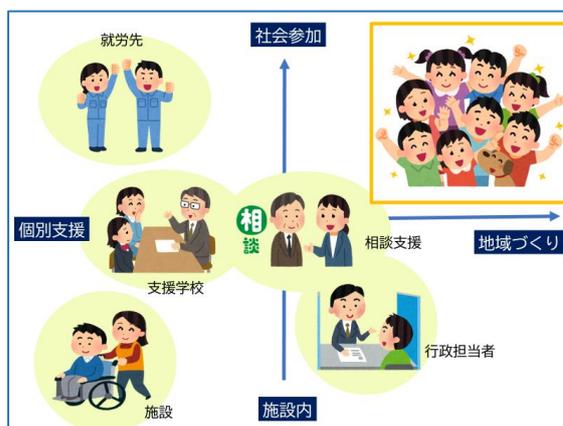
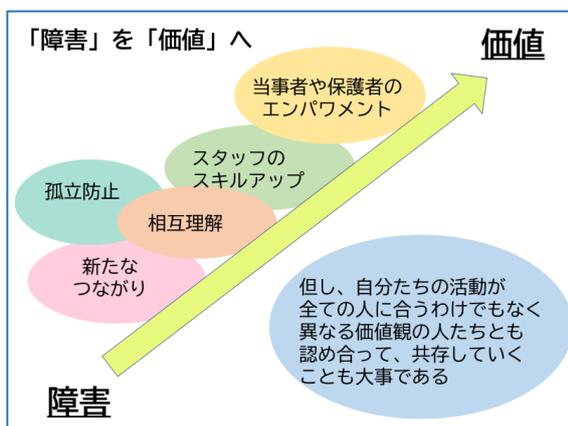
障害のある人もない人も
素敵に生きて 素敵に働くことができる
地域づくり

宮城県山元町
NPO法人ポラリス
代表理事 田口ひろみ



本日の内容

- 1 東日本大震災による被災と障害者支援
- 2 障害者と共に地域復興に参加する活動
- 3 NPO法人ポラリス設立
～生涯学習を通じたソーシャルワーク～
- 4 「難しいこと」に柔らかく取り組む



※発表スライドより抜粋

障害のある人もない人も 素敵に生きて 素敵にはたらくことができる地域づくり

特定非営利活動法人ポラリス 代表理事 田口 ひろみ
(精神保健福祉士・社会教育士)

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県沿岸部の最南端の小さな町、宮城県山元町（人口約12,000人）で、2015年にNPO法人ポラリスを立上げ、障害者支援と地域づくりに取り組んでいる。筆者は、震災当時、山元町社会福祉協議会で障害者支援を担当していた。およそ町の半分が震災の被害を受け、社協はマンパワー不足になり、行政も社協も地域も障害者支援についての理解が分かれ、後回しにならざるを得ない状況であった。その様な中、障害者施設として、障害者支援と地域貢献を掛け合わせた活動を企画実施し、その事で障害福祉や地域づくりに気づきを生み、共感者を増やすことにもつなげようと考えた。

2011年夏から2014年に、全国から様々な人が復興支援に来てくれた。障害者アートを支援する団体を通して、全国の障害のあるアーティストたちからアートで障害者の仕事づくりの応援をもらった。この時、障害があっても助けられるだけでなく助ける側にもなるという可能性に気づくことができた。また、施設の隣に仮設住宅が建てられたことを機に、障害者が地域コミュニティの再生の活動に参加する「カフェ地球村」をつくった。カフェは、全国から支援に来た人たちと、地域の復興について学び合う場になっていった。2014年、日本が国連の障害者権利条約を批准したことを知り、これから障害者の権利擁護が進んでいくと期待し、被災した過疎地でも障害者のエンパワメントを目指す地域づくりを進めようと考えた。

被災地で暮らす私たちにとって「幸せ」とは何か？ 世代や立場、業界を超え、マイノリティの立場にある人も参加して地域を再生していくには？など試行錯誤しながら、2015年に「障害のある人もない人も素敵に生きて素敵にはたらくことができるような地域づくり」を理念に掲げたNPO法人ポラリスを立ち上げた。就労継続支援B型事業所ポラリスでは、障害者が地域全体をフィールドに地域の様々な人たちと触れ合いながら「はたらく・楽しむ・学ぶ」という経験を積み重ねるプログラムを実践している。ポラリスの活動開始から現在までの7年間、特産品であるイチゴの復興に参加する農福連携の施設外就労などに取り組みながら、空き家をお借りしたアトリエの整備やアート展開催、地域の店舗にレンタルでアート展示、再建したJR山下駅前には企業と連携して山元が元気になる壁画「Happyやまのもと」デザイン制作、その後、町の歴史・文化を大切にしている人たちと共に町の魅力を学び、冊子「山元ものがたり」を制作することができた。2018年になると駅前に防災センターでもある新たな社会教育施設が建ち、早速この場所を障害者が気軽に利用し学ぶことができる環境を整備することに取り組んだ。現在は町と連携し、障害への理解普及と障害者の生涯学習を目的とした「山元こぐまサロン」を定期開催している。2021年からは文部科学省の実践研究に採択され、NPOと町、地域が連携して山元町オリジナルの生涯学習プログラムの共創を進めている。サロンでは、当事者性を探求するプログラムを実践しながら障害のある人の学びのレディネスを育むことにつながっている。また障害者が生涯学習に取り組める場所を増やし、特別支援学校や民生委員、社会教育団体、NPO、企業、大学など協力者も増えている。誰にとってもわかりやすい「ユニバーサルな学び合い」は、立場を超えた対等な学習に発展している。

ポラリスはこれからも地域の中で障害者が新たなことを経験しながら、主体的に学び、考え、生きるための力をつけ地域でより豊かな人生を送ること、そして可能性や多様性を価値とする地域づくりにつなげ、その先に障害者ばかりでなく、性別、世代、地域などの違いを受け入れられる文化のある心豊かな町の再生を目指していきたい。

(2) 超福祉の学校2022@SHIBUYA ～障害の有無を飛び超えて、つながる学び舎～



「超福祉の学校」とは

障害の有無にかかわらず、共に学び生きる共生社会の実現を目指し、NPO法人ピープルデザイン研究所と文部科学省の共催で、2018年より実施しているフォーラムイベント、「超福祉の学校」。

2020年で終りを迎えた「超福祉展（正式名称：2020年、渋谷。超福祉の日常を体験しよう展）」^(※1)の開催期間中に実施をしてきました。

2021年からは弊社主催、文部科学省、渋谷区を共催で、タイトルを「超福祉の学校@SHIBUYA」としてリニューアル。従来の障害福祉や教育の枠に収まらない多様な方々がシンポジウムに登壇。全国各地の具体的なアクション、生涯学習や教育に関する最新事例を、渋谷からオフ&オンラインで全国に発信しています。

オンタイムで参加できない方や渋谷まで来られない方も、場所と時間を飛び超えて、いつでもどこからでも、そして誰もが共に学びあえる場を創り上げていきます。

2022年11月5日(土) 13:00 - 14:30

#文部科学省

#生涯学習

#知的障害

#社会参加

#重度重複障害



- ・ 内容：
障害者と共に街をフィールドに活動するレッツと、地域とつながりながら本人主体の学びを展開するポラリス、誰でもどこでも学べるウェブを活用した取組を行うみんなの大学校の実践に学びます。試行錯誤のエピソードなどから、地域とつながりながら障害の有無にかかわらず誰もが共に学ぶことの本質について考えを深めます。
- ・ 時間：13時00分～14時30分
- ・ 登壇者：
青山鉄兵（文教大学人間科学部 准教授）
田口ひろみ（NPO法人ポラリス 代表理事）
引地 達也（一般社団法人みんなの大学校 代表理事）
久保田 翠（NPO法人クリエイティブサポートレッツ 理事長）



老人や子供に虐待を加えることは人権を無視しているのはいけません。特に、子供に力で虐待をすることは、教育上許されません。老人にも力でねじ伏せることはいけません。老人や子供は体が弱く、すぐ倒れてしまいます。老人を、暖かい目で、見守りしましょう。

スローバ文庫及読書会

とても楽しかったです。

知って役立ち防災のこ
防災の持ち手物について、はい勉強を
したり、大雨のハザードマップの事に関する事も免
強しました。

成果報告会の踊りのワークショップについて、
発表する側としては緊張しました

ぼくとオトリの上映会がとっても
よかったです。いちばんかんそうはお兄ちゃん
とやさしい声がかとてもよかったです

今世界でロシア軍が、ウクライナを大
砲やミサイルで攻撃して、ビルや
ウクライナの人々が亡くなっているの
をテレビで観て、戦争はお互い
に傷や物が壊されて、いいことが
ないので、止めるべきです。何
か(原因)でロシア軍がウクライ
ナを武器を使って攻撃して
いるのが分かりません。

アンケートの集計などをほかか
色々ないけんがあり色々と勉強になりました
私はあまりきまぐれが残らないようにいなの
ですが毎月毎月のテーマはよぼえているので
毎回テーマが楽しかったです

私は1月にポラリスの活動に
参加したばかりで、今年度のこぐま
サロンには残念ながら参加でき
ませんでした。
ですが、成果報告会で後半部分
の司会に携わっていたとき、
メンバーのいきいきしたお姿や
こんなに楽しそうなイベントがある
と知らなかったの、来年度の
こぐまサロンには絶対参加して
楽しみながら様々なことを学び
たいです。
また来年度の報告会は司会に
なるか発表する側になるかは
わかりませんが今年度より
成長してまた参加したいです。

地域ではたらく・たのしむ・まなぶ

■ 活動地

宮城県山元町

■ 団体名・氏名

特定非営利活動法人ポラリス

■ 基本データ

継続年数	7年
活動分野	学習・文化芸術・情報保障
主な対象	すべて
主な連携先	山元町・当事者会・地域の協力者
団体の規模等	職員8・利用者17・会員117

活動の概要

2015年に障害者支援と地域づくりに取り組むNPOを設立。設立当初から、地域の人たちと共に学ぶことを通して、障害のある人と地域の人が互いに理解し合う機会を作り社会的障壁をなくしていくこと、障害者が学びや経験を通してエンパワメントしていくことの両面に効果的な生涯学習プログラム「こぐまサロン」を実施している。

■ 活動内容

当団体の障害者就労支援活動の三本柱は「はたらく・たのしむ・まなぶ」活動です。利用者は、それぞれの障害特性による生きづらさで心のケアが必要な方が多く、最初楽しんでもらうのがアート活動です。気力や体力を少しずつ取戻しながら、徐々に就労訓練への意欲を持てるようになっていきます。既に就労訓練に取り組む人たちもアート活動はとても楽しみの時間です。アート活動～就労訓練を通して互いに認め合いながら自己肯定力と自己有用感を徐々に高めています。

2014年に日本が障害者権利条約を批准したことを機に、自己決定や自己選択の権利があることを当事者も支援者側も理解できるように立場を超えてこの「障害者権利条約」に関する学びを始めました。2016年には町の歴史や文化を学び、町の魅力を地域の人たちと再発見しながら、町を元気にする壁画「Happyやまのもと」デザイン制作に取り組みました。2019年からは町の施設を活用し、“学びを楽しく！「山元こぐまサロン」”を定期的に開催しています。



写真2 壁画「Happyやまのもと」デザイン制作



写真1 山元こぐまサロン「ユニバーサルな学びの場」

■ 活動の経緯・体制

東日本大震災が起こり、障害に加え被災によってディスパワースされている人たちがエンパワメントすることの必要性を感じました。2015年にNPOを設立し、障害者の生涯学習の場を継続して作っています。2019年から始めた「山元こぐまサロン」では、NPOと行政と地域が連携し、生涯学習プログラムを共創しています。

■ 活動の効果・普及状況

楽しむ事や学ぶ活動がモチベーションとなって、毎日の就労訓練にもいきいきと取り組めるようになりました。行政と連携し町内の全世帯にチラシを配布して、だれもが参加できるようにしています。2021年からはICT教育の専門家の協力を得て動画撮影した「こぐまサロン」を編集してその一部をYouTubeで配信しています。

■ その他（団体紹介やホームページのURL等）

団体紹介：<http://polaris-yamamoto.com/>

活動紹介：<https://youtu.be/o6rPMm0pi2Y>

（令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰 事例集より）

障がいのある人と地域の人が共に学ぶ

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

障がい者支援と地域づくりに取り組む NPO 法人ポラリスが、令和4年度「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

この表彰は、障がい者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う優れた個人・団体を表彰するもので、同法人が実施する、障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指した「やまもとこぐまサロンの」取り組みが高く評価されました。

表彰式は12月6日にオンラインで行われ、代表の田口ひろみさんは「障がいのある人もない人も共に学び合うことで、理解し、支え合える機会になると実感しています。今後も、皆さんと一緒に、しなやかで優しい地域づくりに取り組みます」と話しました。



▲活動を伝えるパネルの前で、表彰状を手にする田口代表(左)とスタッフの引地奈美さん

トピックの紹介のほか、毎月のイベント情報が掲載されました。

町指定文化財「茶室」の歴史を学ぶ

「茶室」の魅力伝えるイベント

12月3日、江戸時代に坂元を治めた大條家のゆかりの「茶室」を多くの方に知ってもらおうと、その魅力を伝えるイベントが開催されました。有志でつくる「山元いっ茶組」とNPO法人ポラリスが主催したもので、会場となった徳本寺には町内外から63人が集まりました。

イベントでは、大條家と伊達家との関係や茶室が仙台から移築された経緯などを、電子紙芝居や寸劇によって分かりやすく紹介。クイズ大会もあり、参加者は楽しみながら「茶室」について理解を深めていました。

山元いっ茶組発起人の一人である徳本寺の早坂文明住職(下郷区)は「茶室の再建が決定し、修復に向けて動き始めたので、多くの町民の皆さんに茶室について知ってもらい、活用について考えてもらうきっかけになればと思っています。今後もこのような企画を考えていきます」と話しました。



▲表首城主大條孫三郎道徳に扮する俳優の小濱昭博さん



▲メモを取りながら真剣に話を聞く参加者

日時 9月15日(木)
10時~11時30分
場所 つばめの杜ひだまりホール3階 会議室5
講師 町総務課危機管理班
職員 67人
定員 67人
参加費 無料
申し込み 直接お電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
知って役立つ防災のこと
ハザードマップを見ながら、防災についてみんなで作るワークショップを開催します。
日時 9月15日(木)
10時~11時30分
場所 つばめの杜ひだまりホール3階 会議室5
講師 町総務課危機管理班
職員 67人
定員 67人
参加費 無料
申し込み 直接お電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
踊りのワークショップ
山元町に昔からある踊りや民謡を知っていますか。震災を経た今なお、地域で大切にされている民俗芸能があります。みんなと一緒に体験しませんか。
日時 8月25日(木)
10時~11時30分
場所 つばめの杜ひだまりホール3階 会議室5
講師 花笠音頭保存会・坂元おけさ保存会
定員 75人(要申込)
参加費 無料
申し込み 左記にお電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
おしよさんのトーク&ライブ
山元こぐまサロン
10月13日(木)
10時~11時30分
場所 つばめの杜ひだまりホール3階 会議室5
講師 内山太史氏(鳳仙寺住職)
定員 45人(要申込)
参加費 無料
申し込み 直接お電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
きょうだいについて考える映画「僕とオウト」上映会
6歳違いの弟は、やんちゃで大変、そしてめっちゃかわいい！だけども、障がいのある弟をテーマに兄弟それぞれが作った映画から、兄弟それぞれの幸せについて考えます。
日時 11月17日(木)
10時~11時30分
場所 ふるさとおもだか館2階防災研修室
定員 90人(要申込)
参加費 無料
申し込み 左記に電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
虐待が起きない地域をつくらう
虐待ってなに？どんなときに起きしまうの？どう？介護福祉の先生と一緒に、虐待の起きないまちづくりを考えましょう。
日時 1月19日(木)
10時~11時30分
場所 つばめの杜ひだまりホール3階 会議室5
講師 アベカンパニー代表 阿部 和宏氏 地域活動支援センター管理者 小泉 大輔氏
定員 50人(要申込)
参加費 無料
申し込み 左記に電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
音楽を楽しみ学ぶ
12月15日(木)
10時~11時30分
場所 ふるさとおもだか館2階 防災研修室
講師 どうえさークル 宮城白萩の会
定員 90人(要申込)
参加費 無料
申し込み 左記に電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

「山元こぐまサロン」
きょうだいについて考える映画「僕とオウト」上映会
6歳違いの弟は、やんちゃで大変、そしてめっちゃかわいい！だけども、障がいのある弟をテーマに兄弟それぞれが作った映画から、兄弟それぞれの幸せについて考えます。
日時 11月17日(木)
10時~11時30分
場所 ふるさとおもだか館2階防災研修室
定員 90人(要申込)
参加費 無料
申し込み 左記に電話で申し込みください。
☎ NPO法人ポラリス
☎ 36-7410

成果報告書 山元こぐまサロンを活用した障害者の学びの場 共創プロジェクト2
◆文部科学省 令和4年度 学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業
◆令和4年度山元町障害者地域生活支援体制事業

協 力 ポラリス「こう・ふく」アトリエの会
ポラリス保護者会
山元町障害者地域活動支援センターやすらぎ
東北福祉大学
宮城県立山元支援学校
森の中の小さな古本屋「スローバックス」
特定非営利活動法人虹色たんぽぽ
花笠音頭保存会
坂元おけさ保存会
鳳仙寺
映画「僕とオトウト」上映委員会
山元いっす茶組
どらごえサークル
アベカンパニー
山元町傾聴ボランティア
㈱夢デザイン総合研究所

実 施 特定非営利活動法人ポラリス



発行日 2023年3月1日
発行者 特定非営利活動法人ポラリス
代表理事 田口ひろみ
住 所 〒989-2202 宮城県亶理郡山元町高瀬字合戦原72-64
TEL / FAX 0223-36-7410
E-mail koguma@polaris-yamamoto.com
ホームページ <http://polaris-yamamoto.com>

